ロジガイ2025

LOGISTICS GUIDEBOOK

2030年の物流を見据え
人への投資とDX投資で

労働環境を飛躍的に改善し
魅力ある産業にしていこう！

世界へ。
世界から。

SAGAWA

OKAMURA

解決を、超えろ。
視点を、変えろ。

お客様の物流パートナーとして、
本質的な課題を見つけ、
期待を超える解決策を示せるか。
導入した先の未来まで、明確に描けるか。
オカムラは、追求し続けています。

私たちは、動かす技術とつなげる技術で
お客様に徹底的に寄り添った
世界に一つだけの物流システムを提案。
共に、新しいビジネスの可能性へと挑み、
社会がワクワクする未来、人が活きる未来を
創っていきたいと考えています。

オカムラの物流システム

株式会社オカムラ　https://www.okamura.co.jp/

センコーグループ

物流を超える、
世界を動かす、
ビジネスを変える

私たちセンコーグループは、
そんなコーポレート・スローガンを掲げ、
事業の深化と創出を通じて、
人と社会に新しい価値を届け、
今までよりもっと、社会から愛される
サステナブルな企業を目指しています。

未来へ「つなごう」

Logisnext Solutions

ロジスネクストのソリューションがお客様にお応えいたします

公式サイトにて企業情報や製品紹介などを随時更新中！

instagram Logisnext

YouTube

Logisnext

三菱ロジスネクスト株式会社　〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1　www.logisnext.com/jp/

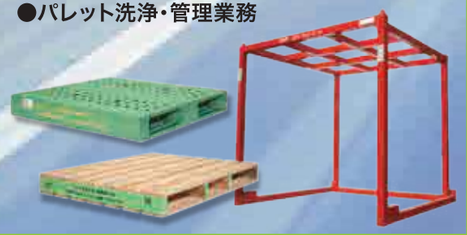
物流業界に迫る『2024年問題』をパレット化で解決。

輸送・荷役のパレット化で労働時間を削減。

「物流に効率と改善」を日本パレットプールは常に考えます。

事業内容

- ●パレットおよび物流機器レンタル
- ●一貫パレチゼーションシステム
- ●物流機器商品販売
- ●パレット洗浄・管理業務



豊富な商品ラインナップ

- ●パレット・物流機器
- ●フォールド・デッキ
- ●アシストスーツ
- ●パレット位置情報管理システム「フクLOW」

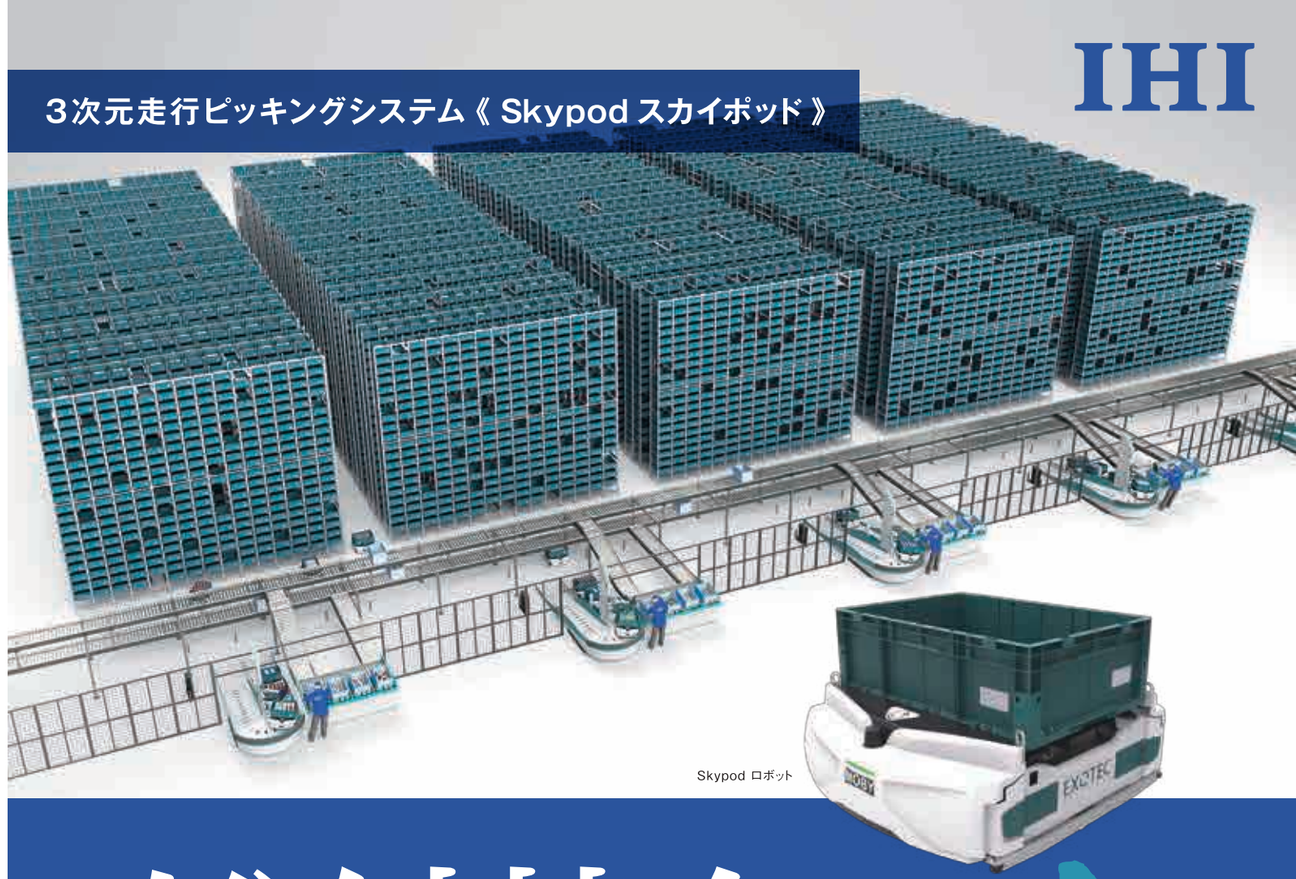
日本パレットプール株式会社
NEW CHALLENGES WITH CLIENTS

本社
〒530-0012 大阪市北区芝田2-8-11 共栄ビル4F
TEL 06-6373-3231（代） FAX 06-6373-3243

ホームページはこちらから
日本パレットプール 検索
https://www.npp-web.co.jp

IHI

3次元走行ピッキングシステム《 Skypod スカイポッド 》



Skypod ロボット

縦横無人

倉庫内を「前後、左右、上下」へ自由自在に移動するロボットが、
高さ12mのラックからビンを取り出し、短時間でピッカーのいるステーションへ搬送する
Goods to Person方式採用の3次元走行ピッキングシステム《 Skypod スカイポッド 》。
物流倉庫内での作業員の負荷を軽減し、大幅な効率化・自動化・無人化を実現します。

ロボット自らラックを昇降。ビンを取り出し搬送。

Skypodロボットは1時間に一度、自動で充電。

ピッカーはステーションに留まってピッキング作業に従事できる。

Skypodについて詳しくは右記QRコードより「ホームページ」をご覧ください。

「無料動画セミナー」の視聴をご希望の場合は右記QRコードよりお申し込みください。

お問い合わせ：株式会社IHI物流産業システム 営業部 03-6204-7231

NIPPON EXPRESS | 株式会社ＮＸ総合研究所

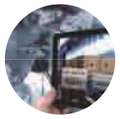
引き出しの多い物流コンサルティング企業

200+
年間企画・実行する物流調査およびコンサルティングプロジェクトの数

50+
50名以上のコンサルタント・研究員がお客様の問題解決に従事

30+
30ヵ国以上に渡航し調査・コンサルティングを実施

60+
60年以上の歴史の積み重ねによるノウハウの蓄積


コンサルティング

調査･研究

輸送環境評価

教育･人材育成

（株）日通総合研究所は、2022 年 1 月 4 日付けで（株）ＮＸ総合研究所に社名を変更しました。

株式会社ＮＸ総合研究所

https://www.nittsu-soken.co.jp

東京都千代田区神田和泉町 2 番地

NIPPON EXPRESS

無限の未来を、ともに創る「Logistics Total Solution Supplier ＮＸ商事グループ」

PR動画はこちら

2024年10月1日、おかげさまで創立60周年を迎えました。

ＮＸ商事株式会社

LEVOから始まるエコロジー
LOVEから生まれる未来の地球

私たちの未来と青い地球を守るために、人と環境にやさしい交通の実現をめざします。

LEVOは、事業用の電気トラック、ハイブリッドトラック、天然ガストラック等の環境優良車やデジタルタコグラフ、ドライブレコーダー等の安全・省エネ環境機器の普及を通して、人と環境にやさしい交通の実現をめざしています。

LEVOでは、新たな支援事業に取り組んでおります。
運送事業者の皆様方にCO_2排出量の算出、エコドライブの向上、
EV車両導入検討などのお手伝いをしてまいりますので、お気軽にご相談ください。

優良ハイブリッドトラック・CNGトラック導入

CNGトラック、優良ハイブリッドトラックの導入に対する支援を行っています。

環境省補助金の執行業務

- 商用車の電動化促進事業
- 低炭素型ディーゼルトラック普及加速化事業

エコドライブの推進など環境・省エネ対策

- EMS機器の導入を支援し、環境・省エネ対策を推進しています。
- 車両動態管理システムの導入を通じ、運送事業者と荷主との連携による省エネ対策を推進しています。

交通安全機器の普及など安全対応施策の推進

貨物自動車用ドライブレコーダ等の安全機器の普及促進をはじめ、交通安全施策を推進しています。

一般財団法人
環境優良車普及機構
LEVO

会長　岩村　敬　　理事長　堀家久靖

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル　TEL 03 (3359) 8461 (代表)　FAX 03 (3353) 5439

http://www.levo.or.jp

日本の明日を支える仕事

トラックは個人宅はもちろん、スーパー、コンビニ、企業、学校、
病院、公共機関など、あらゆる場所へ、あらゆるモノを運んでいます。
災害時の緊急・救援輸送も大切な仕事です。
日本のために活動する大勢の人を支え、当たり前の日常を守り、
未来へつなぐ!それがトラックドライバーの使命です。

公益社団法人
全日本トラック協会

10月9日は
トラックの日

トラックは生活(くらし)と経済のライフライン

(公社)北海道トラック協会	(公社)青森県トラック協会	(公社)岩手県トラック協会	(公社)宮城県トラック協会	(公社)秋田県トラック協会	(公社)山形県トラック協会	(公社)福島県トラック協会
(一社)茨城県トラック協会	(一社)栃木県トラック協会	(一社)群馬県トラック協会	(一社)埼玉県トラック協会	(一社)千葉県トラック協会	(一社)東京都トラック協会	(一社)神奈川県トラック協会
(一社)山梨県トラック協会	(公社)新潟県トラック協会	(公社)長野県トラック協会	(一社)富山県トラック協会	(一社)石川県トラック協会	(一社)福井県トラック協会	(一社)岐阜県トラック協会
(一社)静岡県トラック協会	(一社)愛知県トラック協会	(一社)三重県トラック協会	(一社)滋賀県トラック協会	(一社)京都府トラック協会	(一社)大阪府トラック協会	(一社)兵庫県トラック協会
(公社)奈良県トラック協会	(公社)和歌山県トラック協会	(一社)鳥取県トラック協会	(公社)島根県トラック協会	(一社)岡山県トラック協会	(公社)広島県トラック協会	(一社)山口県トラック協会
(一社)徳島県トラック協会	(一社)香川県トラック協会	(一社)愛媛県トラック協会	(一社)高知県トラック協会	(公社)福岡県トラック協会	(公社)佐賀県トラック協会	(公社)長崎県トラック協会
(公社)熊本県トラック協会	(公社)大分県トラック協会	(一社)宮崎県トラック協会	(公社)鹿児島県トラック協会	(公社)沖縄県トラック協会		

YAZAKI

AI 技術で安全を追求したデジタルタコグラフ

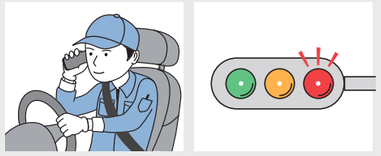
YDX-8

矢崎デジタコ・ドラレコ一体型最上位機種

選べる運用方式

お客様の条件に合った運用方式が選択でき最適なコストで運用実現 ※無線 LAN は順次対応予定

危険運転の防止機能

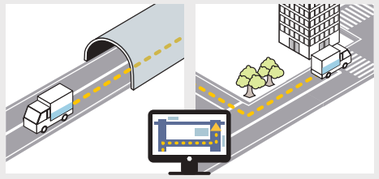


従来の車線逸脱や路面標示等の画像確認機能に加え赤信号通過やスマホ通話の検知機能が追加

多カメラ・高画質記録

240万画素のメインカメラを含む最大10台のカメラ接続により鮮明な画像記録を実現

正確な位置情報管理



車載器からの通信間隔を最短１分から選択でき、車両位置管理のリアルタイム性と正確性向上

外部機器との連携

豊富なインターフェースを搭載し、衝突防止補助機器やタイヤ空気圧検知機器、庫内温度の管理機器など様々な機器連携可能

新運行管理システム

新システム“ESTRA-Web2”で、安全評価、運行検索、組織階層管理の機能等、従来以上の業務効率をサポート

矢崎エナジーシステム株式会社
https://www.yazaki-group.com/keiso/

計装営業統括部 ： 〒422-8072 静岡県静岡市駿河区小黒3-8-15 TEL 054(283)1156

東北北関東計装営業部（仙台支店） ☎022(284)9113
中部北陸計装営業部（名古屋支店） ☎052(769)1533
九州中国計装営業部（福岡支店） ☎092(411)4833
東北北関東計装営業部（埼玉支店） ☎048(654)2188
関西計装営業部（大阪支店） ☎06(6458)8091
矢崎総業北海道販売㈱ ☎011(852)2913
南関東計装営業部（東京支店） ☎03(5782)2703
九州中国計装営業部（広島支店） ☎082(568)7803
矢崎総業四国販売㈱ ☎087(833)3337

トーヨーカネツ TKSL

物流に、愛と勇気とソリューション。

いつでも、どこでも、物流課題をズバリ解決「物流機人 ソルシオン」。
お客さまのニーズにとことん寄り添い、最適な答えを見つけ出す。
それはトーヨーカネツの企業姿勢を象徴するマテハン機器合体ソリューション。
もっと速く、もっと正確に、もっと安全に。
多彩な技術と期待を超える実行力で
オンリーワンの物流システムを確立します。

物流機人 ソルシオン

トーヨーカネツ株式会社
ソリューション事業本部
東京都江東区南砂二丁目11番1号 TEL 03-5857-3132
https://www.tksl.co.jp/

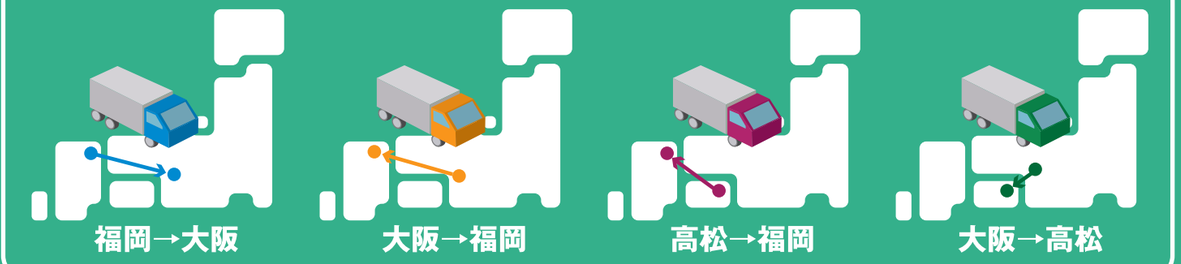
TranOpt

共同輸送マッチングサービス

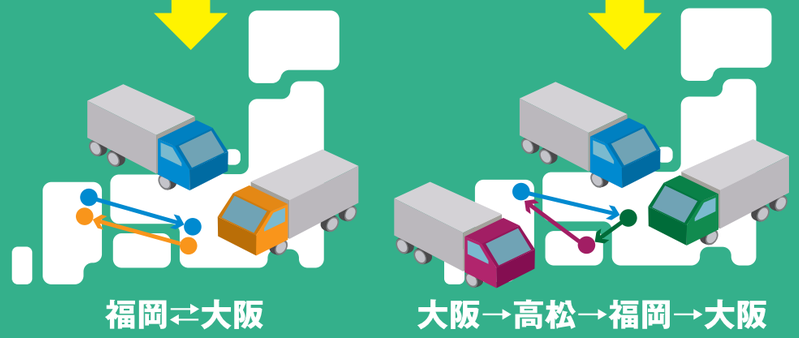
ルートのデータベース化、企業のマッチングで物流の効率化を実現

TranOpt（トランオプト）は、AIによって業界を跨いだ荷主企業同士をマッチングすることで共同輸送を可能にする、新しいサービスです。
最適なパートナーとのマッチングによって、実車率や積載率の向上、CO2排出量削減を実現します。

利用者による輸送ルート情報の登録



AI 共同輸送マッチングシステム



新規案件創出
新しい輸送ルートの復路や、混載できるパートナーを探したい

コスト削減・効率化
既存ルートの車両の効率を改善したい

脱炭素
CO2排出量を減らしたい
モーダルシフトしたい

JPR 日本パレットレンタル株式会社

人と食のあいだに、キユーソーという安心。

食の品質を保ったまま、全国どこへでもスピーディに。

キユーソー流通システムは、幅広いネットワークを活用した独自のサービスを展開。

お客さまにパートナーとして選ばれる企業でありつづけます。

日本の食を支える、4つの物流システム

共同物流
少量多品種商品を共同納品することで、販路拡大・コスト改善に貢献。全国をカバーするネットワークで、地域に密着した共同配送をいたします。

専用物流
独自の流通システムで、お客さまのニーズに合わせたセンターシステムを構築。数々の事例を手掛けてきた当社ならではのユニークなサービスをご提案します。

4温度帯物流
4つの温度帯を取り扱っているので、鮮度を守りながらスピーディに共同配送・全国配送が可能。品質を損なうことなく、おいしさをそのままお届けします。

海外物流
調達・生産・販売物流などの営業展開も視野に、国内外の拠点を生かしたサービスをご提案。通関業務を含めた複合一貫物流の構築を目指しています。

KRS 株式会社キユーソー流通システム

東京都調布市調布ケ丘3-50-1
TEL：042-441-0711（代表） www.krs.co.jp

身体にジャストフィット! 腰を守るアシストスーツ

SUPPORT JACKET

Bb FIT Ⅱ

POINT 01 腰ベルトの締め付け調整をダイヤルで簡単に行うことが可能!

POINT 02 背中のバックボーンを取り外し洗濯することで衛生的に利用可能!

詳細はこちら

購入はこちら

お問い合わせはこちら

upr　アシストスーツ

upr ユーピーアール株式会社

アシストスーツ営業部 〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東急ビル12F

TEL 03-6852-8932　FAX 03-3593-3016　E-mail pas_info@upr-net.co.jp

AIOI

革新的なアイデアで
世界を驚かせ
未来をデザインする

[グループ会社]
愛鴎自動化系統（上海）有限公司
AIOI・SYSTEMS USA CORP.
AIOI.SYSTEMS INDIA PRIVATE LIMITED
PICK TO LIGHT SYSTEMS SL.

70カ国以上導入
デジタルピッキングシステム

アイオイ は AIOI に。

私たちは日本発のアイオイではなく世界の AIOI として、革新的なテクノロジーで、あらゆる物流・製造業界の未来をデザインします。

ピッキングや仕分け現場の課題改善の経験に基づく現場起点の WMS

入庫から出庫まで一気通貫のシステム構築が可能

AINECT

倉庫業務の効率化や品質向上に取り組みたい	入庫・出庫作業をペーパーレス化したい	扱いやすいシステムを探している

こんな課題解決します！

〒140-0013　東京都品川区南大井 6 丁目 22-7 大森ベルポート E 館 9 階

アイオイシステム　検索

Asset @Hyway

安価に！ すぐに！
シンプルに！
複数拠点でも使える！

クラウド型物品管理ソリューション

物品（資産）登録
面倒な設定は不要で、簡単にすぐに登録できます。

台帳管理
カテゴリー、部署など関連付け、画像を確認しての管理が行えます。

物品貸出予約
まとめて登録、予約状況をガントチャートで確認できます。

貸出・返却・棚卸
ハンディーターミナル、スマートフォンを物品管理に活用できます。

予約・督促メール
予約メール、返却の督促メールを送信します。

ラベル発行
モバイルプリンタからシールを発行します。

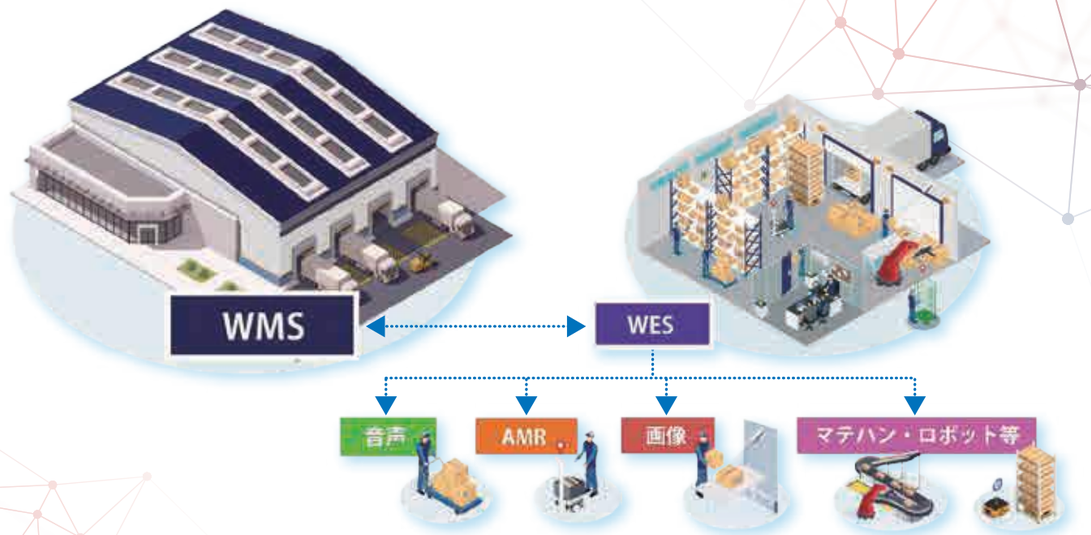
シノジャパングループ
株式会社ハイウェイテックジャパン
Hyway Technology（Japan）Corp.
https://www.snjp.co.jp

C.Net
株式会社シーネット

Warehouse Management System

『WMS×つなぐ』

シームレスなシステム連携で物流DXを加速！



シーネットは、これまで一貫して「つなぐ」をテーマに掲げ、WMSと他のシステムの連携による効率化を提案し続けてきました。
その取り組みの中で、WMSを進化させ、新たにWESを開発し、つながるソリューションを展開。これにより多くの物流企業のDXを加速させてきました。
今後もシーネットは「つなぐ」をキーワードに、グループ全体で、物流業界の課題解決に取り組んでまいります。

物流一筋30年のシステム開発！ **株式会社シーネット**

〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目3 幕張テクノガーデンB棟11階
TEL 043-297-1582 URL https://www.cross-docking.com/

次の運び方をつくる。
ヤマト運輸

クロネコヤマトの　カーボンニュートラル配送の　宅急便

もう、
はじまってるんだって。

カーボンニュートラル配送 ISO 14068-1:2023 宅急便

くわしくはWEBで公開中

発行によせて

トラックドライバーの時間外労働に対する上限規制の導入、拘束時間短縮をはじめとする改善基準告示の改正により、輸送能力が大幅に不足するとみられていた「物流2024年問題」が始まって１年が経過しようとしています。貨物輸送量の減少もあって、まだ問題は表面化していませんが、ドライバー不足は構造的問題であり、2030年には34%の輸送能力不足が起きると予想されています。

改正物流法の改正が2024年５月に公布され、いよいよ2025年４月からすべての荷主・物流事業者に物流効率化のための努力義務が課されます。荷待ち・荷役時間の短縮、リードタイムの緩和、積載率向上が物流効率化施策３本柱となりますが、さまざまな制約要因があって、簡単に実現するものではありません。

ロジガイ2025は、これら課題の解となる情報やシステムなどを各所に盛り込んでいます。ぜひ活用され、物流の持続的成長に役立てていただくことを願ってやみません。

LOGB
LOGISTICS GUIDEBOOK

目　次

インタビュー
CLOによって物流だけでなく経営全体の効率化につながる
フィジカルインターネットセンター（JPIC）理事長 森　隆行 氏　22

インタビュー
NXグループのDX戦略
NXホールディングス 執行役員 天白　淳 氏　28

物流イノベーションの潮流

ヤマト・SST・富士通が企業間の垣根を越えた共同輸配送プラットフォームを構築　32

業界横断でDX化を進めドライバー不足を克服へ　36

2024年問題にチャレンジする物流会社

おもてなしの心でドライバーを求人低離職率で安定度高める　レックス　40

佐川出身社長が提唱するオウンドメディア・リクルーティング　Gライン　42

ショールーム

IHI物流産業システム
IHI横浜ロジラボ　47

アイオイ・システム
アイオイ・システムショールーム　48

オカムラ
物流システムショールーム LUX ルクス　49

Gaussy
Roboware 東京ショールーム　50

GROUND
R&Dセンター playGROUND　51

ダイフク
日に新たな館　52

三井不動産
MFLP ICT LABO 2.0　53

Mujin
ロボットソリューション展示場　54

ユーピーアール
DXデポ　55

生産性向上に寄与するシステム・製品群　56

SCM／経営の革新　SCM
ロジスティクス・ソリューションシステム／センコーグループホールディングス　58

SCM／経営の革新　経営支援
大塚商会のロジスティックソリューション／大塚商会　62
ろじたん／どらたん／NX総合研究所　64
トランクルームの押入れ産業／押入れ産業　66

SCM／経営の革新　人材開発
NXキャリアロードの人材ソリューション／NXキャリアロード　68

物流センターソリューション　マネジメント・制御系
Atelier@Hyway／ハイウェイテックジャパン　70

物流センターソリューション　実行系
シャトルラックD3／コンパクトシステム／ダイフク　72
サーフィンソーター／ダイフク　74
eye-navi／ジャングルカート／映像検索システム／ダイフク　76
TRTS／ダイフク　78
オカムラの物流システム機器／オカムラ　80
AutoStore／オカムラ　82
Skypod／IHI物流産業システム　84
多階層ロボットストレージシステム／シャープ　86
id SORTER®／id PAC®／伊東電機　88
デジタルピッキングシステム／アイオイ・システム　90
Smart Tag/Smart Card／AI-NET／アイオイ・システム　92
プロジェクションピッキングシステム®／GTPソリューション／アイオイ・システム　94
DPS／DAS／アイオイ・システム　96
ci.Himalayas/R2／ci.Himalayas/Compass／シーネット　98
ロジザード ZERO／ロジザード　100

輸配送ソリューション　運行計画・管理・支援
YDX-8　ESTRA-Web2／YLD1 LTE版／矢崎エナジーシステム　102
SR Advance／SR Fork Lift N／データ・テック　104
VICS 交通情報を活用した統合輸配送システム／住友電工システムソリューション　106
ドラ基地／スペース　108　**／サーラ物流**　109

輸配送ソリューション　求荷求車
求荷求車情報ネットワーク WebKIT／日本貨物運送協同組合連合会　110
TranOpt／日本パレットレンタル　112
国内最大級の求荷求車サービス トラボックス／トラボックス　114

物流支援サービス　パレット・コンテナ
物流の未来をともに考える。／日本パレットプール　116
uprの物流課題解決ソリューション／ユーピーアール　118

物流支援サービス　車両・フォークリフトなど
Logisnext Solution／三菱ロジスネクスト　120
Rinova AGF／豊田自動織機 TOYOTA L&F カンパニー　122
カミオン カスタム／ダイフクプラスモア　124

ESG／BCP
NXカーボンmini／日本通運　126
NX商事のエネルギーソリューション／LPガスを活用したBCP対策品／NX商事　128
サーキュラーロジスティクス／SG-ARK／SGムービング　130

物　流　団　体　132

「等身大の物流」と物流業の魅力を伝える活動／日本物流団体連合会　134
産業界に役立つ価値を創造し、提供を続ける「ロジスティクスのナショナルセンター」へ／日本ロジスティクスシステム協会　136
通運事業の役割をPR／全国通運連盟　138
鉄道貨物輸送の利用促進に取り組む／鉄道貨物協会　140
わが国と海外を結ぶ国際複合運送業務／国際フレイトフォワーダーズ協会　142
グリーン経営認証／交通エコロジー・モビリティ財団　144
協創と実践　3PL業界の発展に寄与します／日本3PL協会　146
2024年問題や物流現場の労働力不足を解決する「パレットの普及、標準化」に向けた活動／日本パレット協会　148
MH（マテリアルハンドリング）ニーズの実現、課題解決を推進／日本物流システム機器協会　150
中継輸送シェアリング・プラットフォーム「シェア・クロス」／物流不動産共同組合　152

掲載企業・団体　索引　154

フィジカルインターネットセンター（JPIC）

森　隆行　理事長

MORI　TAKAYUKI

政府のフィジカルインターネット実現会議は、2040年に向けたロードマップを2022年3月に策定、フィジカルインターネットセンター（JPIC）がその推進役としての役割を担う。改正物流効率化法により、2026年4月から特定荷主にCLO（物流統括管理者）の選任が義務付けられる。JPICは昨年6月、CLO協議会を設置して理解増進に取り組んでいる。11月にはALICE設立10周年記念フォーラムがブリュッセルで開催され、JPICはALICEと基本合意書（MOU）を締結した。2025年の展望について、JPICの森隆行理事長に伺った。

CLO＝Chief Logistics Officer
ALICE＝Alliance for Logistics Innovation through Collaboration in Europe

CLOによって物流だけでなく経営全体の効率化につながる

CLOの定義　持続可能な社会と企業価値の向上を実現するため、モノの流れを基軸にしたサプライチェーンにおいて、経営視点で社内外を俯瞰した全体最適を図る役割を担う責任者

求められる3つの役割

❶地域社会の持続可能性を促進し、社会課題の解決や災害時の対応、カーボンニュートラルへの取り組みを通じて持続可能な豊かな社会の実現に貢献できる役割

❷サプライチェーンの全体最適実現に向けた、構造的変革を伴う中長期計画の立案と実行をリードする役割

❸物流オペレーションの効率化計画の策定と、社内外の調整により実践する役割

求められる職能

経営者としての視点と能力
戦略的思考と決断力
社内外の外交力・調整力
広い視野の関心・知見

期待される効果

経営戦略の中心にSCMが入るプロフィットセンターへの変革
企業間連携の促進
DXの推進
標準化の推進

――CLO協議会について、今後の予定は

森　今年度内に4回開催する予定にしており、今年は1月14日（火）と3月14日（金）に開催する。2月14日（金）には、前年と同様にシンポジウムの開催を予定している。

4月以降はこれから詰めていくが、政府が来年4月の施行に向けて、CLO選任に関する方針を示すと思うので、会員企業を中心にしっかりサポートしていく。CLOを任命して政府に届け出し、実際に動き出すのは2026年度から。したがって、来年度1年間が準備期間であり、CLOの役割などを考えていただける内容のものをつくっていきたい。

――CLOに期待することは

森　日本では、今までCLOはほとんど存在していなかった。ところが、アメリカやヨーロッパはいるのが普通。なぜ差が出てきたのかというと、日本の荷主企業は今まで必要な時に必要なだけ、それも品質の高い物流サービスが安いコストで手に入っていた。したがって、経営の問題にならなかった。

もう1つは、今はどこの企業でもサプライチェーンに取り組んでいますというが、いろいろなメーカーと話をすると、例えば調達は調達部門が行っており、物流は関係ないというところが多い。日本の企業で、調達から最終的な廃棄まで含めてサプライチェーン全体を把握している人は少なく、本当の意味での効率化ができていなかった。

アメリカやヨーロッパはCLOやCSCOの名称で全体をみている。今後、日本でもCLOが生まれ、全体を把握することによって物流だけでなく経営全体が効率化していくことを期待している。

海外の人と話をすると「今さら」と言われるが、今までCLOがいなかったことを説明しながら、今後は「物流だけでなく日本の経営そのものが大きく変わるから、3年後を楽しみに見てほしい」と話している。私自身期待しているし、そのためにも定義したCLOを多くの方に理解していただくため、CLO協議会を通じてセミナーをはじめさまざまなことに取り組んでいきたい。

――CLOの役割に、地域社会の持続可能性促進がある

森　フィジカルインターネットのコンセプトは「究極のオープンな共同物流」と考えているが、例えば過疎地域は単独で物流サービスを提供することが難

第1回ＣＬＯ協議会

第２回ＣＬＯ協議会

第３回ＣＬＯ協議会

しくなってきている。空白地域をつくらないようにするには、関係者が協調・協力体制を敷くことが必要となる。実際に、宅配などではバス会社と提携するなど、部分的に取り組みが行われている。

　単独では難しくても、荷物をまとめれば小さなトラック１台くらいになる。ＣＬＯのコンセプトを広げることによって、それが可能になるし、地域への貢献にもつながると考えている。

――自治体の役割も重要になる

森　経済産業省によりフィジカルインターネット実現会議が毎年開催され、その中では２つの進め方をしている。１つは、昨年は医薬品で設置されたが、業界ごとにワーキンググループをつくりコンセプトを広げている。もう１つは地域。これまで北海道で実現会議を設置しており、行政も地域での取り組みを促進している。北海道はプロジェクト自体は終了したが、次に何ができるかを検討しており、われわれもサポートできることはないかと北海道の方とも話をしている。

　沖縄でもそういった動きがあり、それ以外の地域でも一緒に考えていきたいと思っている。特に沖縄は、数年前から内閣府のサポートにより物流の高度人材育成プログラムを策定しているので、一緒にできることはないか打ち合わせをしている。

――ＣＬＯ協議会では連携がキーワードとなっている

森　役員クラスであるＣＬＯにより、業界内外を問わずいろいろな連携が可能になってくると思っている。

　そこで期待しているのは、担当者レベルよりもう少し高い次元での連携、物流面に限らず経営判断としての連携ができていくと思うし、連携の密度も濃くなっていくと思う。

　例えば、共同物流にしてももっとオープンに広げていきたいと考えている。というのは、今までの連携ではパレットサイズがバラバラだったり、データも統一されていなかったりするケースがあった。本当の意味で効率化しようと思ったら、データの統一やプラットフォームを同じにする必要がある。それこそ経営判断であり、そういった意味でもＣＬＯ同士の連携が深まることを期待している。

――フィジカルインターネットについて。
　実現に向けたＪＰＩＣの取り組み

森　われわれとしては、できるだけ会員数を増やしたい。理想とするのは、会員間で新しいアイデアや新しい提携が生まれてくること。分母が多いほど、その効果は大きくなる。

　そのために、セミナーやワークショップを開催してお互いに情報を共有し、同時にＣＬＯ協議会を開催することでＣＬＯの役割を醸成するのに役立てていきたい。

　それ以外に、アカデミックの面でもう少し力を入れていきたい。ＪＰＩＣは、どちらかというと業界団体に近い。つまり、われわれ自身が研究するのではなく、業界と行政のつなぎ役になっている。

　一方、アメリカにはジョージア工科大学、フランスもパリ国立高等鉱業学校があり、アカデミックな拠点として人材を企業に送り出している。そこで、ＪＰＩＣ自身が研究拠点となるというよりも、研究拠点をつくるようなサポートをしていきたい。

　今、フィジカルインターネットを専門に研究している人はいない。そこでフィジカルインターネットの研究をしていただくため、若手の方を中心に、とりあえずだが客員研究員の形で任命させていただいた。

　まだスタートしたばかりだが、彼らが研究したことの成果を今年は積極的に発信できるようにしたい。そのためにも海外の研究拠点とも交流していくことを指向している。

　もう１つは、アジアでフィジカルインターネットに関するネットワークづくりをしていきたい。というのは、日本は今２０２４年問題や人口減少、トラックドライバー不足が深刻だが、アジアも人口が減少してきている。したがって、１０年後、２０年後は日本が今直面していることと同じような問題が起こる。

　アジアは、もう１つの側面として、例えば日本やアメリカの物流コストはＧＤＰ比で１桁だが、東南アジアは１５％から２０％に近い。これは物流効率化に課題があるため。物流効率化を実現するための手段として、フィジカルインターネットは有効だと考える。

　そこで、アカデミックな面で緩やかなネットワークをつくっていきたい。これから種を蒔く段階だが、たまたま個人的に交流しているメンバーもおり、オーストラリアや台湾にもフィジカルインターネットに取り組んでいる人もおられるので、そういった人たちを含め、情報交換していきたい。ひいては日本にフィードバックされるという期待もある。

フィジカルインターネット　ロードマップ

MOUに署名するトゥルノー ALICE会長（左）と 森理事長

ALICE10周年記念「Logistics Innovative Summit 2024」で基調講演する森理事長

会員間で新しいアイデアや連携が生まれることが理想

――先般、ＡＬＩＣＥとＭＯＵを締結した

森　ＡＬＩＣＥがとりわけ力を入れているのがフィジカルインターネット。ヨーロッパも日本と同じような問題を抱えているし、それに世界的な標準化を考えた場合、ＩＳＯにしろヨーロッパが一番熱心。ヨーロッパの動きは、いろいろな意味で日本の企業にも影響を与えるので、動きを知っておく必要もある。ＩＳＯにしても、常時情報交換することによって早くから情報をつかんでおけば、意見を聞いてもらえる。

つい先日も、ＥＵが梱包材について標準化ガイドラインをつくった。環境に厳しいところなので、使い捨てはダメなのはもちろんのこと、飲み物のボトルの形態にまで及んでいて、日本酒の瓶は認めていなかった。それが決定する１週間前に日本政府が気づいて申し入れし、ワイン同様に例外として認められた経緯がある。１週間遅かったら、日本酒の瓶は輸出できなくなっていた。その意味でも情報交換は必要。

一方、彼らも今回の物流効率化法改正など、日本の動きに関心を示している。

ＥＵ全体でも約３２万人のトラックドライバーが不足している。ブリュッセルで講演した際にも、私の話を自分たちに置き換えて聞いていた。日本では行政と民間が一体となって取り組んでいるのを関心をもってみている。

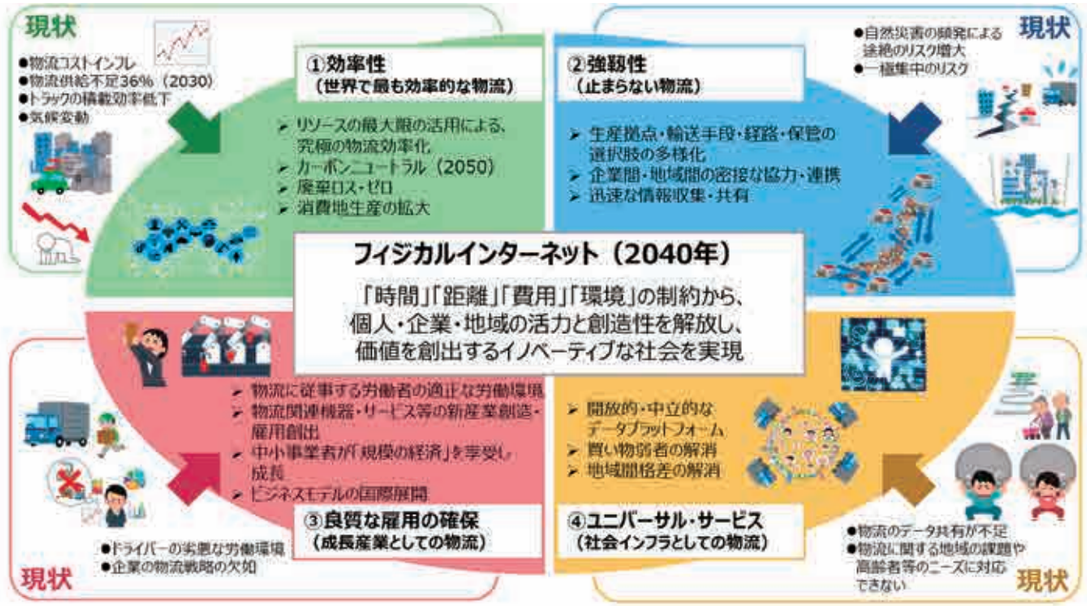
ＭＯＵそれ自体に取り決めはないが、先方からは定期的に年２回はミーティングを行うことを提案し、ＭＯＵに明記した。ＪＰＩＣの会員には、ヨーロッパの動きを知りたいという方もおられ、オンラインで直接参加できるので、そういった機会を提供できるようにしていきたい。

日本の物流に関しては、昨年５月にサバンナで国際総会が開催された時も、アメリカが大変関心を示し、プレゼンテーションを終えた後にいろいろな方から声をかけられ質問された。

――ブリュッセルの会合で注目された点

森　ブリュッセルでのキーワードは「ツイントランディション」。ツインはデジタルとグリーンのこと。環境問題は政治の問題でなく経営や経済の問題となっている。環境と電子化は、われわれが進めている物流情報標準ガイドラインの拡大とも相通ずるものがあり、政府の物流標準化官民懇談会とも完全に一致するものと思っている。その意味でもＡＬＩＣＥとの提携は大事だし、われわれが行政と民間の橋渡しができるよう頑張っていきたい。

フィジカルインターネットが実現する社会



この３年間の取り組みが大きな意味での改革に

――物流情報標準ガイドラインを普及する上で、官民懇談会に期待すること

森　行政としての方針を出していただいたが、そのフォローアップは行政と一体となって担っていきたい。

先ほど共同物流のところで申し上げたが、共同物流により本当の意味での効率化を図るには、パレットやモノの機械化、ガイドラインにあるようなデータの標準化が重要であり、これを普及していくことがＪＰＩＣの役割の大きな部分を占めている。一朝一夕にはいかないが、長い目でみて根気よく取り組んでいきたい。

――最後に、物流２０２４年問題について

森　２０２４年はスタートの年だったが、短期的にみればここ３年が勝負だと思っている。

もちろんそれ以降も続くことだし、改革は１日にしてならないが、２０２４年をスタートに、この３年間真剣に取り組んでいくことが、日本の物流の改革のみならず、もっと大きな意味での改革につながると思っている。

フィジカルインターネットの実現も、社会的に意義あることであり、結果的に大きな改革に貢献できると考えている。

インタビュー

NXホールディングス
天白　淳　執行役員

TEMPAKU　ATSUSHI

NXホールディングスは、2024年度から5年間のNXグループ経営計画2028において、500億円のDX投資を計画し、既に初年度から需要予測モデルの開発や遠隔搬送ソリューションの開発をはじめ、さまざまなプロジェクトを立ち上げ、推進している。また、DXへ繋げるためのアイデアを生み出し、プロジェクトを強力に推し進めるためのエンジンとなるDX専門人財の育成についても注力している。そこで、DX推進部担当の天白淳執行役員をはじめとする同部スタッフに、NXグループのDX戦略について、伺った。

ＮＸグループのＤＸ戦略

――小売業などに対し需要予測モデル構築に取り組んでいるが、進捗は

小売業などの販売物流領域においては、トレンドの移り変わりが早く、セールへの対応など物流センターにおける出荷計画と実績にギャップが生じやすいという課題がある。このギャップが大きいと、出荷遅延の要因に繋がりかねないことから、荷主企業が持つ商品販売データとＮＸグループが持つ物流データを組み合わせ、物流センターでの作業量を予測する取り組みを行っている。今年度より、プロトタイプ版をまずは海外２拠点に試験導入し、検証を重ねながら完成度を高める。その後は、対象拠点を増やしていくと共に、サービス化を検討していく。

倉庫拠点の機械化・自動化の取り組みも進めている一方で、人手不足が深刻な状況下においては、人的なリソースを最適に配置し、いかに少人数で高品質なオペレーションを回していくかも重要課題であると考えている。

需要予測モデル概念図

――グルーヴノーツと提携したが、狙いは

グルーヴノーツとは２０２４年３月に資本業務提携した。グルーヴノーツは、ＡＩや量子コンピュータなどの最先端テクノロジーを活用し、企業の課題に対して最適解を導くクラウドプラットフォームを提供している。この提携にあたり、当社のどのような業務にグルーヴノーツの強みとなるテクノロジーを活用できるか検討することから始め、今では複数の案件で同社と協業している。

その１つとなる航空貨物の混載仕立て業務の自動化に向けた取り組みについては、今春より国内発のレーンに対象を絞り、試験的に運用を開始する。その後は対象レーンを拡大すべく、海外発も含め、グローバルに展開していく計画だ。

さらには、この航空貨物の混載仕立て業務の自動化だけにとどまらず、お客様の生産計画および需要予測を考慮した最適な輸送モード選択などへの活用も検討しており、グルーヴノーツとの資本業務提携により当社グループのＤＸをより推進していきたいと考える。

――ＮＥＣと、遠隔搬送ソリューションの開発に取り組んでいるが

もともとは、ＮＸグループの物流に関する知見とＮＥＣの技術を掛け合わせて新たな価値を創造していくことを目指し、２０２０年から複数のプロジェクトを推進してきた。そのプロジェクトの１つである、自律遠隔ソリューション「テレロボフォーク」を２０２４年１２月からＮＸグループ４拠点へ順次導入し、事業化に向けて、現場での検証を行っている段階にある。

ＡＧＦと呼ばれる無人搬送フォークリフトは専用の車体から開発されているが、われわれが提供を目指すテレロボフォークは、既存のフォークリフトに専用のユニットを後付けすることで、自律、遠隔、手動の３つの操作機能を実現する。多くの無人搬送フォークリフトはまだラインナップが豊富とはいえず、導入できる現場や作業が限定されてしまうが、テレロボフォークであれば、既存のフォークリフトをそのまま活用できるため、幅広い作業への導入が可能となる。

また、ロボットアームを活用して、複数のパレットや台車への仕分け、隙間のない積付け・積替えを、離れた場所から行える「テレロボハンドラー」も、昨年１２月からＮＸグループの現場で実証実験を開始し、実用化・事業化に向けて動き出している。

これらの遠隔搬送ソリューションを展示会で紹介させていただいたところ、かなり多くの反響があり、さまざまな業界のお客様から一緒に検証したいといったご要望をいただいている。

テレロボフォーク

テレロボハンドラー

――ＤＸ案件を可視化する取り組みを進めているが、狙いは

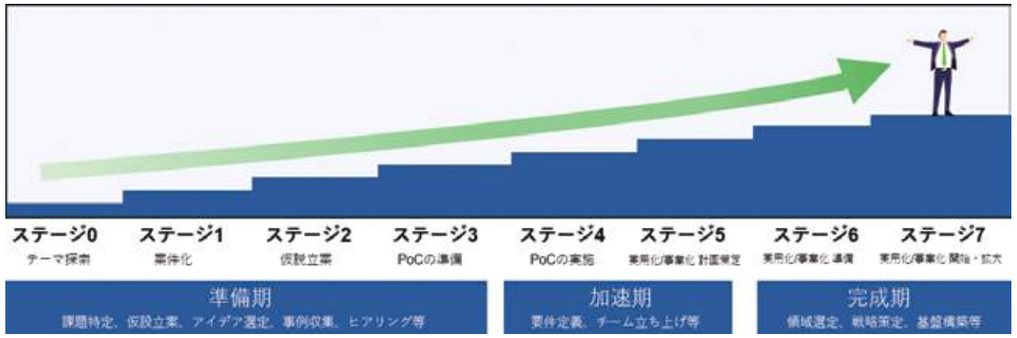
これまでお伝えしてきた以外にも「e-NX Quote」（国際航空・国際海上輸送のためのオンライン見積ツール）、「ＮＸ-Ｇｒｅｅｎ Ｃａｌｃｕｌａｔｏｒ」（海外輸送のＣＯ２排出量を算定するサービス）など、ＮＸグループでは、現在約２００件のＤＸ案件が同時並行で進捗している。

これら案件の詳細情報を収集、蓄積、可視化し、その進捗状況をタイムリーかつ効率的に把握することを可能にするＢＩツールを独自に開発し、昨年導入した。各案件の進捗状況を「テーマ探索」から「実用化・事業化」まで取り組みステージを段階的に区分けして可視化することで、それぞれの進捗状況に合わせた的確なＤＸ推進支援が可能になった。

e-NX Quote　トップページ

NX-Green Calculator　算出結果画面イメージ

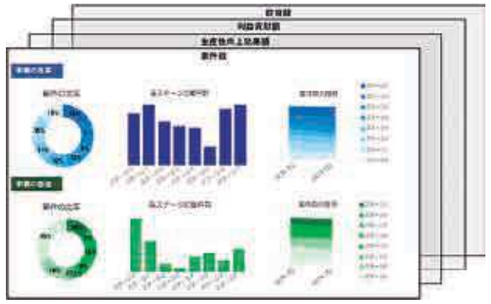
可視化ステージ



投資の選択と集中を精緻化し、価値の最大化を図り、競争力を高める

また進捗状況だけでなく、その案件が生み出した生産性向上効果や利益への貢献度についても同時に把握できるようにした。

これにより、有望な先端技術の活用事例や新規事業アイデアなどは個別の取り組みから昇華させ、グループ内への水平展開を狙う。投資の選択と集中を精緻化し、グループ価値の最大化を図ることで、事業の競争力を高めていく。



DX案件進捗ダッシュボードイメージ

――ＤＸ戦略を推進するＤＸ専門人財の育成

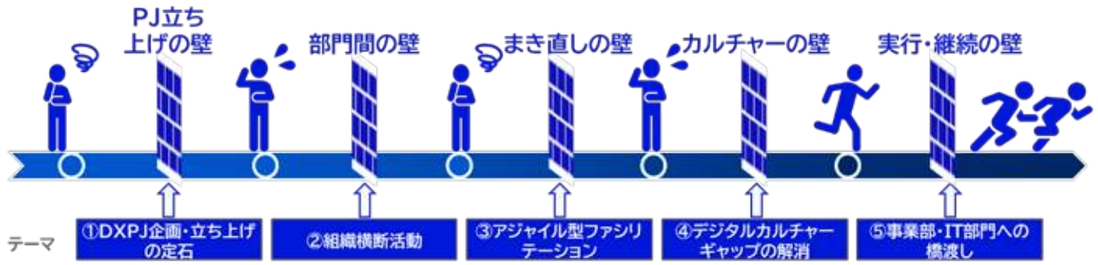
「NXグループ経営計画２０２８」の５年間で、４００人のＤＸプロジェクトリーダーを育成する計画としている。

このＤＸプロジェクトリーダーには、デジタル技術を活用し、課題を解決していく推進者になってもらう役割が期待されている。

そのためのＤＸプロジェクトリーダー研修では、ＮＸグループオリジナルのプログラムに基づき、ＤＸプロジェクトを進めるための計画立案やマネジメント手法を学び、デジタルを活用した課題解決を実践するケースタディを通じてスキルを身に着けていく。

この卒業生には、机上の研修だけで終わらせず、実際の現場の課題からビジネスモデルキャンバスを描き、解決に導いてもらう。

まず日本通運などの国内グループで、２０２３年は２０人、２０２４年は６０人と、これまで計８０人をリーダーとして育成してきた。今年は国内で８０人を育成する計画であり、さらに海外展開も開始する。



ＤＸ専門人財育成プログラム概要

――ＤＸ推進部が目指すものは

まず、「既存事業の改革」として、「現場」「経理」「事務」「営業」のＤＸに向けて取り組んでいる。

また、この既存事業の改革で得たノウハウの外販化や、既存事業を飛び越えたＤＸアイデアのサービス化など、「新規事業の創造」をテーマに、「脱炭素」「新規事業」「共創」のＤＸとして掲げ取り組んでいる。

さらに「既存事業の改革」や「新規事業の創造」で得られたナレッジやデータを蓄積し、活用することで、さまざまなインサイトを抽出、これを新たなＤＸのタネの探索に繋げていく。

これら複合的・多層的な取り組みの結果を、サプライチェーンの「継続性」や「強靭性」、「地球環境への配慮」に向けた、物流機能が提供する新たな価値として結実させ、「デジタルとデータを活用したサステナブルなロジスティクス構築による持続的社会への貢献」を目指していく。

ヤマト・SST・富士通が企業間の垣根を超えた共同輸配送プラットフォームを構築

共同輸配送プラットフォーム構築へ3社が手を組む

ヤマトホールディングスのグループ企業Sustainable Shared Transport（SST）と富士通は、２月１日から、荷主企業・物流事業者向けの共同輸配送プラットフォームの稼働を開始すると同時に、共同輸配送サービス「SST便」の提供を開始した。これらを広くPRするため、１月27日に３社トップによる共同記者会見を開催した。

● 定時運行・中継輸送・混載・域内配送に対応

ヤマトHDは中期経営計画「サステナビリティ・トランスフォーメーション2030～1st Stage～」を24年２月に策定。「イノベーションを起点に、さまざまな課題に向き合いながらビジネス化していくことがヤマトの使命」と長尾裕社長は強調する。１年後に宅急便サービスが開始50年の節目を迎えようとしている中、「中計に示すエクスプレス等の基盤領域、法人向けソリューション（コントラクト・ロジスティクス／グローバル）の成長領域に加え、多様なパートナーとともに価値を創出する新規領域として選択した」（長尾社長）のが、物流危機を脱するため、企業間の垣根を超えた共同輸配送だった。

ヤマトHD　長尾裕社長

ＳＳＴが開始する「ＳＳＴ便」は宮城県から福岡県間で１日16便（２月時点）の幹線輸送において、荷主企業と物流事業者をマッチングする仕組み。パレット単位の個建て利用が可能な「定時運行」、長距離輸送を複数ドライバーで輸送を分担する「中継輸送」、複数荷主の貨物を積載する「混載」のほか、全国の物流事業者と連携し、荷主企業の要望に応じた「域内配送」を提供する。

情報システム部分でタッグを組んだのが富士通だった。富士通は「Fujitsu Unified Logistics」によるデータ基盤を活用、荷主企業の出荷計画や梱包の状態（荷姿）、荷物量などの情報と物流事業者の運行計画をもとに、最適な輸配送計画を自動作成。富士通の保有するブロックチェーン技術やサイバーセキュリティの知見を活用、外部からの閲覧防止や改ざんに対して検知・対応・復旧を可能とした。業種や企業をまたぐデータ連携において、セキュリティが担保された。

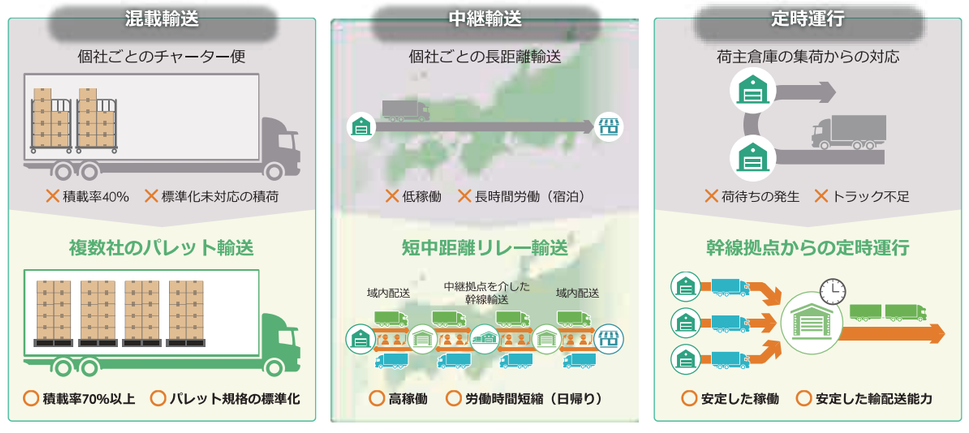
● 物流情報標準ガイドラインに準拠

ヤマトグループと富士通は、内閣府主導による「戦略的イノベーション創造プログラム（ＳＩＰ）第二期スマート物流サービス」に参画以来、密接な関係にある。今回のプラットフォームは「物流情報標準ガイドライン」に準拠するＳＩＰの発展型として、オープンプラットフォーム社会実装モデルを構築、サプライチェーンの全体最適を図る。

業種・企業間で定義の異なるデータの連携が容易となり、荷主企業や物流事業者は運送手段やドライバー配置計画など、輸配送に関する意思決定を迅速化できるとともに、物流効率化に向けた企業間の協力を促進する。

富士通は、デジタル社会発展への取り組みとして「責任あるサプライチェーンの推進」を掲げ、物流課題の解決を極めて重要なテーマに位置づけ、ＳＳＴに５,０００万円を出資した。

ＳＳＴが提供する共同輸配送



ヤマト・SST・富士通が企業間の垣根を超えた共同輸配送プラットフォームを構築

1パレット単位からの共同　輸配送で日本の物流を持続可能に

富士通　時田隆仁社長

● フィジカルインターネットの実現を目指す

富士通の時田隆仁社長は「目指すのはフィジカルインターネットの実現だ」と語る。「テクノロジーで物流分野のデータを連携させるオープンプラットフォームを構築、企業の生産性向上の実現、サプライチェーンマネジメントでの輸送配送能力を確保して、さらにＧＨＧの削減にも貢献していきたい」と期待を込める。富士通は荷主としても、ＳＳＴでリアルな共同輸送を実施する計画だという。

荷主企業のメリットは、共同輸配送のパートナーを自ら探す必要がなく、共同輸配送に取り組めること。同一区間でも、複数の時間帯・複数の輸送手段の中から、パレットスペース単位で最適な輸送方法を選択、効率的な輸送を実現する。

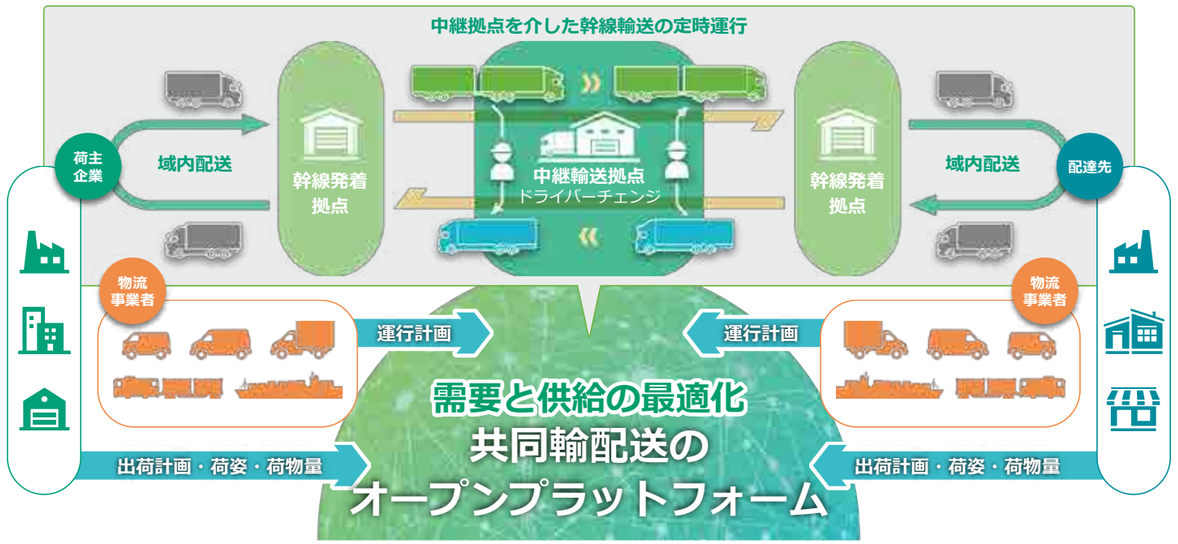
物流事業者は、復路の貨物確保などによる積載率や稼働率の向上、そしてドライバーの負担軽減、労働環境を整えることが可能となった。

拠点での荷物積み替えなどによりリード時間は長くなるが、「定時輸送などの対応で効率化を図ることで、使いやすさを提案する」とＳＳＴの髙野茂幸社長は語る。法人の出荷は夜間に集中することが多い現状から、朝や昼などの出荷に対応できるよう、運行ダイヤを標準化することでチャーター便と同等の便利さを目指す。

ＳＳＴは今後、地域やダイヤの拡充に加え、　鉄道や船舶なども含めたマルチモーダルも視野に入れる。２０２６年３月末をメドに８０線便まで路線を拡大することで、共同輸配送を加速させる。髙野社長は「共同輸配送で日本の物流を持続可能にすることがわれわれの使命。物流がビジネスを支えていた時代から、企業の皆様が効率の良い輸送をご選択いただく時代へと変えていきたい」と熱く抱負を語った。

ＳＳＴ　髙野茂幸社長

SSTが目指すリアル×デジタルのオープンプラットフォーム



業界横断でＤＸ化を進め ドライバー不足を克服へ

「物流２０２４年問題」が始まって１年が経過しようとしている。この１年間、新物流法（物流効率化法・貨物自動車運送事業法の改正）が成立し、2025年４月からすべての荷主・物流事業者に物流効率化への努力義務を課す第１段階の法が施行される。一方、DX化が進まず国際競争力が低下する「2025年の崖」を回避するため、さまざまな取り組みが進められている。物流も例外ではなく、企業間連携あるいは業界横断によりDX化を進め、今後ますます深刻化するドライバー不足に対応する動きがみられる。

物流DXの潮流

● 共同物流実現へ納品データを電子化

政府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）は、「スマート物流サービス」をテーマに2018年度から研究開発を行い、2023年３月に研究成果をまとめた。その１つが「物流情報標準ガイドライン」の策定であり、研究成果は一般社団法人フィジカルインターネットセンター（JPIC）に引き継がれ、同ガイドラインを活用したさまざまな取り組みが進められている。

流通経済研究所は、物流情報標準に基づいた納品データ連携を行い、2024年２月にセブン－イレブン店舗向けに共同配送の実証実験を実施した。

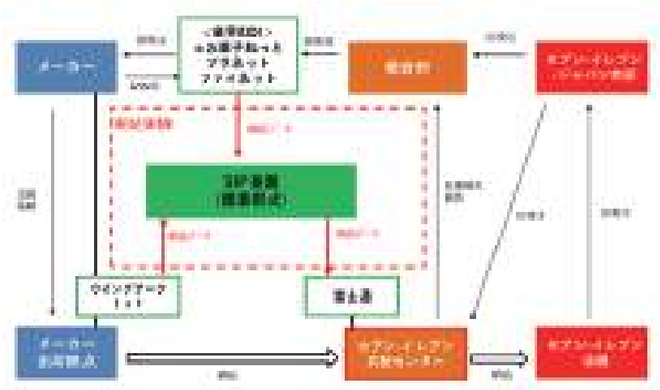
具体的には、菓子・日用品・酒類・加工食品メーカーがセブン－イレブン共配センターに納品する商品の明細情報・納品データを作成し、業界EDIなどを経由してSIP基盤（納品伝票エコシステム）に連携、SIP基盤はデータを物流情報標準形式に変換して共配センターに送信。共配センター側は、商品到着前に納品データと発注データを照合し、入荷検品時に確定登録する。

これにより、メーカー・物流事業者側はペーパーレス化（納品伝票の削減）や、トラックドライバーの業務を削減（待機時間、受領証受け取り・回収業務の削減）することができ、加えて物流データの蓄積により配車の高度化を実現。卸・小売りセンター側は、センター業務の事前準備（入庫待ち出荷など）、検品業務の削減（または検品レス）、物流データ蓄積により要員配置の高度化につながった。

● 物流の見える化へ、当面実施すべき施策を提示

運輸総合研究所は、物流危機を乗り越えるにはデジタル技術を活用した物流システムの改善が急務として「持続可能な物流システム構築に向けて」と題する提言を2024年５月に行った。

提言は、デジタル技術の活用は「デジタル化～見える化～共有化・オープン化～データ活用～自動化」の５段階があり、デジタル技術を普及させる方策は「標準化」「基盤づくり」「低コスト化」の３項目に整理。



納品データの連携フロー

その上で、ステークホルダー間で当面実施すべき施策として、例えば物流企業間は各企業が有する物流施設の混雑状況、実運送車両や貨物情報の見える化による物流情報データの共有、通信型デジタルタコグラフの設置などを示した。物流情報データを共有するにはSIP物流情報標準ガイドラインに基づく取引が必要だとしている。

荷主と物流企業間では、出荷計画情報の早期提供による共同物流の推進を挙げている。

当面実施すべき施策

ステークホルダー	具体的な施策
発・着荷主間	ＡＳＮデータの活用
荷主・物流企業間	貨物情報の見える化
荷主・物流企業と消費者間	通販のメニュープライシング
物流企業間	物流情報の共有化
物流企業間（幹線物流）	鉄道・海運の運行情報の見える化
荷主・物流企業と行政・学界間	各種物流情報の共有化・オープン化

運輸総合研究所は、2030年までにデジタル技術を活用した物流システムの最適化を実現することを目標に据えている。

● フィジカルインターネット実装へ協業進む

NECとNEXT Logistics Japan（NLJ）は、物流の全体最適に向けて戦略的に提携する基本合意書を2024年６月に締結。第１弾として、NECの「共同輸配送プラットフォーム」とNLJの物流最適化ソリューション「NeLOSS」（ネロス）を連携させ、共同輸配送における対象ルート・候補決定から配車と荷物の組み合わせを割り出す業務までシームレスに行うサービスの早期提供を目指す。

ネロスは配車と荷物の組み合わせを割り出す業務を、高速計算が可能な量子コンピューターを用いて人手では２時間以上かかっているのを約40秒で算出する。これにより、作業時間の大幅な短縮、緻密な運行計画の実行、積載率の向上が可能となる。

両社は今後、2040年の物流のあるべき将来像であり、究極の共同物流といわれる「フィジカルインターネット」実現に向け、自動運転トラックを利用した新たな輸配送、製造から販売までの物流プロセス全体で物流データを高度につなぐ取り組みを推進していく。

物流の計画～実行までの連携サービス

● RFIDでドライバーの附帯作業を軽減

日本製紙連合会と全国段ボール工業組合連合会は、RFIDを活用した配送情報ポータルシステム（DIPs）を2024年８月に構築。製紙会社が段ボール原紙を納品する際の検収作業が効率化され、荷降ろし全体にかかる時間を短縮することで、物流2024年問題の解消に貢献していく。

段ボール原紙を納品する際、着荷主となる段ボール会社は受け入れの際に原紙管理を行うため、自社固有の情報が記載されたラベルの貼付や、段ボール原紙に直接情報を記載する作業をドライバーに依頼している。荷降ろしの際には１本ずつ確認・検収作業を行うため長い待機時間が発生していた。

DIPs（デリバリー・インフォメーション・ポータルシステム）は、標準EDIを連携させ、段ボール会社が登録した注文明細情報とEDIを通じて製紙会社の出荷明細情報を紐づける。これまでドライバーが注文明細と出荷明細を照合するために行っていた現品への情報記載やラベルの貼付作業が不要となり、伝票の照合作業もRFIDで読み取るため、検収作業が大幅に削減される。

● 荷待ちの可視化システムを実証

ドライバーの時間外労働を長くしている要因の１つに荷待ちが挙げられる。大和ハウス工業とキヤノンマーケティングジャパンは、荷待ち・荷役時間を可視化し改善を支援するシステムを開発し、2024年11月から実証実験を行った。

カメラの映像から物流事業者ごとにトラックを自動検知し、物流施設の入場からバースへの移動、バースでの荷役作業、物流施設退

業界横断でＤＸ化を進め　ドライバー不足を克服へ

荷待ち・荷役可視化システム概念図

場までの記録を自動で把握・蓄積する。その際、独自の作業解析技術を用い、映像からドライバーの行動をAI分析し、荷待ちや荷役作業時間を計測する。

これらのデータに基づき、ドライバーが時間を要した動作を分析して課題を把握することで物流効率化に向けた改善を支援する。

現在、効果の検証を行っており、2025年4月以降の本格導入を目指している。

● 経済産業省と国土交通省が「モビリティDX戦略」

経済産業省と国土交通省は「モビリティDX戦略」を2024年6月に策定、自動運転トラックの実証支援やデータを活用した物流MaaSに取り組む。

モビリティDX戦略は、クラウド通信により機能をアップデートして運転機能を高度化するSDV（ソフトウエア・ディファンド・ビークル）、自動運転トラックのリスク回避（合流など）検証、データ利活用の3項目で構成される。

このうちデータ利活用領域は、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合することで社会課題の解決と産業発展を両立するウラノスエコシステムの下で、2025年度に実証を開始する。

具体的には、幹線・支線での輸送、結節点では荷役の省人化と積載率向上を図る物流MaaSを推進する。このため、標準化すべきトラックデータの特定、仕様の決定、標準APIガイドラインの作成を行う。荷役の省人化は対象荷姿の規格化、必要な荷主データの検討、荷主側に求めるべき事項を検証し、手引書として作成する。

「モビリティDX戦略」オールジャパンの取り組み

領域	主な取り組み
ＳＤＶ	高性能半導体の研究開発 シミュレーション環境の構築
モビリティサービス	自動運転トラックの実証支援 ロボットタクシーの開発支援
データ利活用	ウラノスエコシステムの運用 排出量の把握、物流効率化へ のユースケース拡張

● フィジカルインターネット事業化を検討

荷物や倉庫、車両の空き情報をデジタル技術で可視化し、業種を超えた複数企業の倉庫や車両を相互接続させ、最適な輸送ルートを導き出し共同輸配送を行う、いわゆるフィジカルインターネットの事業化に向け、伊藤忠商事、KDDI、豊田自動織機、三井不動産、三菱地所の5社が合意し、2024年5月に覚書を締結した。

さまざまな荷主や運送会社とも連携して輸送網の構築を図るほか、将来的には生み出されたコストメリットを荷主や運送事業者にも享受できる仕組みを構築する新たなサービス形態を目指す。

● 化学品共同物流のプラットフォームを検討

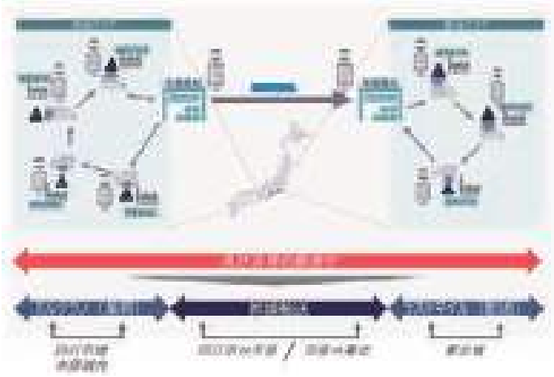
経済産業省と国土交通省によるフィジカルインターネット実現会議に設置された化学品ワーキンググループは、2024年9月から12月にかけて共同物流の検証（実地・机上）を行い、トラックの積載率は従来の69％から89％に改善されるなどデータプラットフォームの有用性を確認した。

化学品物流は、輸送方法や条件が多岐にわたり、お互いが発荷主・着荷主の関係であり、これまでのメーカー主導による共同輸送は各社が保有するフォーマットが異なり、共同プラットフォームの実現は困難とされていた。

検証は、ミルクラン・幹線輸送・ラストマイルで共同輸送を実施。ドライバーに貸与したスマホタイプの端末からトラック・貨物の動態データを収集。デジタル技術や物流情報標準ガイドラインを活用し、データを共通のフォーマットに収集した上で、積載率・稼働台数・混載率などを可視化し分析を行った。

このうち幹線共同輸送では、積載率の向上に加え、誤配・遅配などもなく納品先に各企業の商品を届けることができ、共同プラットフォームの有用性を確認できた。

その一方、物流業務の標準化や商慣行の見直しが重要であることも判明したという。



共同輸配送モデルの一例

業界挙げて物流の適正化・生産性を向上

● 物流効率化のために取り組むべき事項

物流2024年問題を解決するには、物流DXの導入に加え、ソフト面の取り組みも重要となる。経済産業省と国土交通省は、物流の適正化・生産性向上に向けて荷主・物流事業者が取り組むべき事項を提示し、それを基に、各業界団体は自主行動計画を順次策定している。

両省が示した取り組むべき事項を列記すると、

発荷主・着荷主共通なものとして

・荷待ち時間・荷役作業にかかる時間の把握
・荷待ち・荷役作業時間原則2時間以内ルール
・運送契約の書面化
・運送契約にない荷役作業の防止
・運賃と料金の別建て契約
・燃料サーチャージの導入・燃料費上昇分の反映

を挙げている。

さらに、推奨されることとして

・予約受付システムの導入、パレットの活用
・物流システムや資機材（パレットなど）の標準化
・共同輸配送の推進

がある。

これに、発荷主独自の取り組みとして、出荷に合わせた生産・荷づくり、ドライバーの働き方を考慮した出荷予定時刻の設定、発送量の平準化がある。着荷主独自の取り組みには、納品リードタイムの確保、発注の適正化、巡回集荷（ミルクラン）などが挙げられる。

● 大手荷主中心に取り組みを強化

自主行動計画策定後、主な企業は業界内で連携・協働して物流改善に向けた取り組みを進めている。

日本ハム・伊藤ハム・プリマハム・丸大食品の食肉加工メーカー4社は「SDGsへの貢献と持続可能な物流のための取り組み宣言」を行い、納品条件見直しによる納品リードタイム2日以上への変更、種まき納品（店舗別仕分け納品）見直しによるドライバー負荷軽減、事前受注または店着7日以上前受注に取り組んでいる。

サンスター・エステー・ユニ・チャームなど日用品メーカー13社は「日用品サプライチェーン協議会」を発足、事前出荷情報（ASN）活用による伝票レス・検品レス実装を進めている。

ヨークベニマルなど東北エリアで展開する小売業・物流業15社は「東北物流みらい研究会」を発足、ドライバーの処遇改善、共同物流の実験などに着手した。

食肉加工メーカーに明治・森永乳業・雪印メグミルクなどが加わったチルド食品大手メーカー9社は「チルド物流研究会」を発足、チルド商品の特徴である短い納品リードタイムを納品条件緩和などで克服していく。

このほか、特積み大手7社を含む11法人は「物流コンソーシアムbaton」を発足し、中継輸送ネットワークの実現を目指す。アサヒ飲料・キリンビバレッジなど飲料業界5社は「社会課題対応研究会」を設置した。

これらはいずれも2024年4～11月に発足した。さまざまな取り組みが示されているが、あれもこれも行おうとするとかえってムリ・ムダが生まれる懸念もある。したがって、中小荷主企業は荷待ち削減、荷役作業短縮、積載率向上の3点に絞って行うことが有効と考えられる。

荷待ち削減には受発注の前倒し、荷役作業短縮にはパレットの利用・標準化、積載率向上には適切なリードタイムの確保、発注・納入量の適正化などが挙げられる。

物流改善に向けた各業界の取り組み

140団体	物流適正化・生産性向上自主行動計画策定
食肉加工	大手4社が持続可能な物流へ取り組み宣言
日用品	13社により日用品サプライチェーン協議会
東北小売	15社が東北物流みらい研究会発足
チルド食品	大手9社がチルド物流研究会発足
特積みなど	11法人により物流コンソーシアム発足
飲料	大手5社が社会課題対応研究会発足

2024年問題にチャレンジする物流会社

株式会社レックス

おもてなしの心でドライバーを求人
低離職率で安定度高める

株式会社レックス
設立　２００９年３月１３日
住所　千葉県佐倉市上志津原２３９
代表取締役　藤本　明広
https://londo.co.jp/ft-butsuryu/

レックスはロンドグループの中核として、2009年に設立、千葉県南部・東部を中心に営業を展開する。同社は、大型トラック30台（ウィングゲート）、4ｔ車が20台を所有。EC貨物の拠点間幹線輸送を約6割、他の運送会社からの請負比率は約4割。東京・大阪間や東京・名古屋間などの中長距離も担う。

同社は2024年問題を踏まえ、この先控える労働力減少問題を大きな課題ととらえ、2022年から人材採用に注力。アルバイトやパートの求人情報サイト「バイトル」へ継続的な出稿でドライバー募集を行った。同社は年間12人ほど採用し、離職する社員は年1～2人。「定着率の高さが一昔前と変わってきた。ドライバーさんたちが求める内容が明らかに変わってきた」と藤本明広社長は語る。

「一昔前のトラックドライバーは簡単に稼げた業種ではあったが、それが難しくなってきた今、ドライバーもサラリーマン志向というか、何時までに帰りたい、休みが取りやすいかどうかっていう待遇を気にされる方が増えてきた」と藤本社長は分析する。

そこで同社が採用したのが完全週休2日制の条件だった。面接時に休みたい曜日や日勤なのか夜勤なのか、また日勤の場合は何時から出庫できるのかなどを細かくヒアリングするのがレックス流」と藤本社長。

フランクな面接の場で社長に、望む条件まで親身になって聞いてもらえる求人活動が功を奏し、45台の車両台数のうち、ドライバーは44名在籍するなど、「現状はちょうどいいバランスだと考える」（藤本社長）。ドライバーの平均年齢は49.6歳。新人が入社後、レギュラーのコースを実際に走行してから問題がなければそのコースに定着する。

入社するドライバーは物流業で働いていた人が大多数を占めるが、1割は他業種からの転職組だ。軽い気持ちでドライバーをやってみようという人や、ドライバー職にブランクがある人もいて、運送業のネガティブイメージを払拭することができた。

同社は運行管理システム（TMS）の導入なく、ベテラン配車マンが1日最大12時間54分をリミットに組んだコースを走行する。

それが労働時間抑制に貢献する。藤本社長は「一昔前では考えにくいことだが」とした後で「残業時間に関して、長くなりそうな案件は取引先様にはご理解いただくようになってきた。また、新規荷主様の貨物を受託する際にも、労働時間との兼ね合いでお断りするケースもある」と述べる。

● ブラックではない運送会社

同社の貨物はカゴ車やパレットを使うため、手積み手下ろしの荷役作業は一切ないため、有利な職場でもある。

すべてがドライバーの希望に叶うわけではないが、拘束時間などを選ぶことが可能なブラックではない運送会社。これがレックスのドライバーに対する“おもてなし”ではないだろうか。

「今年もどんどんドライバーを増やしていきたい」と藤本社長は笑顔で語った。

Gライン株式会社

佐川出身社長が提唱する
オウンドメディア・リクルーティング

Gライン株式会社
設立　2013年5月1日
住所　福岡県糟屋郡粕屋町甲仲原3-9-33
代表取締役　荒牧　敬雄
https://gline.work/

● 運送業界を磨き輝かせる

福岡・糟屋郡に本社を置く運送会社Gラインは2023年、創立10周年を迎えた。西日本、九州エリアの近距離～長距離輸送サービス、倉庫を活用した一気通貫の総合物流サービスを提供中だ。

ドライバー不足が深刻化する物流業界に、Gラインには、多くの若手社員が集まる会社として知られている。創立者の荒牧敬雄社長は佐川急便のドライバー出身だ。

26歳で佐川急便に入社後、9年でかねてからの目標だった「店長」にまで上り詰め、福岡県南部にある大牟田店店長に就任した。一気呵成に営業所を運営し更なる目標を見据えたが、店長歴わずか2年で同社を退職している。

自身の10年後のキャリアを考えての選択だったようだ。現在12期目のGラインを経営している荒牧社長だが、会社を継続できたのは12年間在籍した佐川急便での濃密な経験があったからこそだと語る。

佐川急便の退職から2年後、ある物流会社の社長からの支援で倉庫業として「Gライン株式会社」を創業した。このとき40歳になっていた。前職で培った経験を活かし、短期間で軽配送まで事業を拡げていったが、4年後の2016年に運送業へと業態転換していくのであった。

業態転換の理由として「自分には物流業としてのセンスがなかった」と荒牧社長は語るが、4期目には年商ベースで4億円を超えていた。当時はソーラーパネル需要や軽配送事業が好調であったが、発送代行業が売り上げの9割を占めるなど、偏った売上構造に危機感を募らせていた。2016年の宅配クライシスの影響から宅配料金の大幅値上げが直接的な打撃となり、発送代行業を断念せざるを得なかったことが大きい。また、手数料収入が主であった発送代行業では、企業の存在意義が見出せなかったことも痛感。経営者として、会社存続が危ぶまれる状態まで陥ったことは大きな経験だったと振り返る。

そこで、同じ轍を踏まないよう、「世の中に必要とされる仕事」と「自分にできること」を考えて、運送会社へと舵を切ったのだ。退路を断つため新車のトラック30台を購入するなど、背水の陣で運送事業をスタートしたのが2016年のことである。

● 「運送会社らしくない、運送会社」

事業変更後1年以内に納車するトラック全車両を稼働させるなど順調な滑り出しを見せ、次第に事業に対する手応えも感じてくるようになってきた。ドライバーは知人の紹介などで徐々に集まり出し、仕事を受託する環境を整えていった。

その後、ドライバーは20人雇用、2017年には本社を移転、トラック増車とともに、運送会社としてのブランディングとなるキャッチフレーズを「運送会社らしくない、運送会社」とし、これまでの業界常識を打ち破る取り組みへの挑戦を開始した。

採用で注力したのは「オウンドメディア・リクリーティング」とする新しい手法だ。自社が保有する発信チャンネルにおいて、ユーザーの認知・共有・理解・信頼をWeb上で完結させる仕組み。HPは荒牧社長自らが深い階層まで緻密に書き込み、自らの考えや会社に対する思いを言葉に落とし込んでいった。運送業未経験者となる潜在求職者への訴求として、「価値観を共有できる求職者は次のページ・さらに次のページまで読み込んでくれる」と手応えを感じるようになった。

これにより、新手法を開始した2019年の応募総数116人から、20年には232人、21年309人、HPとSNSを充実させた22年には508人、23年は688人と増加していった。

2023年度はばたく中小企業、小規模事業者300社授賞式

同社の求人キャッチは「即戦力より新戦力」。採用は順調に進み、社員数も伸びを示す中で、荒牧社長はブランディングを意識した社内改革を行った。

そのひとつが配車係の撤廃だ。ベテラン配車マンに依存するのではなく、全社員参加型の配車システムに変更することで、それまでドライバーが抱えていた路線・コースに対する不満が大幅に減少していった。加えて、トラックのアイドルタイムを最小化させた効率的な配車が実現したという。

また、若手社員主体による管理体制に切り替え、コミュニケーションが良好となり、風通しのよい人間関係を構築できるようになった。「運送未経験者の新戦力を戦力化させ、職場環境を洗練させていき、社員主体で企業風土を熟成することができた」と荒牧社長は効果を語る。

オウンドメディア導入で最大年間応募者数を得た23年の採用者は、約9割が運送業未経験者だった。同社ドライバーの平均年齢は33歳。意欲的な若手社員が働ける環境と、ベテラン社員のフォローが功を奏し、定着率は高止まりしているという。

現在の車両台数は90台、人材確保と仕事のバランスも良好で、コロナ以降の2022年より1,8倍で増収増益を推移している。

同時に実行したインナーブランディングは全従業員の8割を占める20代～30代の人財を活性化させた。本社営業責任者は未経験入社6年目の36歳、新しい兵庫営業所の所長は入社8年目の29歳と若手のリーダーも活躍する一方で、40歳以上のベテラン社員がバックアップするなど、主体的に活動してくれる社員が大幅に増えた。更に大胆な権限移譲が功を奏して若手中心の運送事業は自走する組織となった。荒牧社長は次の事業に集中出来る状況が出来上がったことで、講演や執筆活動、オウンドメディア・リクリーティングコンサル事業に没頭しているという。

これらの動きは一般メディアからの注目度は高く、NHK総合「NHKスペシャル」、KBCテレビ「アサデス」など、多くの媒体で同社の動きは露出され、潜在求人者へのアピールにもつながっていった。また、同社は経済産業省「2023年度はばたく中小企業、小規模事業者300社」の「人への投資・環境整備」分野を受賞した。

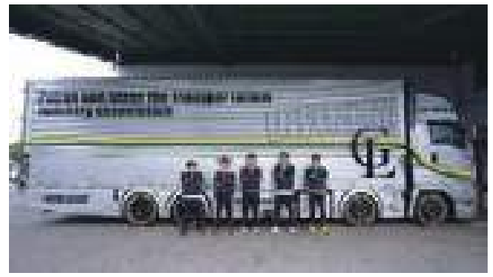
佐川急便出身の物流会社経営者は多い。荒牧社長もそのひとりだ。想いは佐川時代に実現できなかったことをGラインで表現していきたいという。

それは「若い力に経営資源を集中させ、企業文化の構築や独自の評価制度や教育で人財を戦力化、継続した情報発信で認知度を向上させステークホルダーとのエンゲージメントを高めていく」（荒牧社長）ことだ。これらの活動を通して、運送・物流に関わる人の裾野を広げ、業界発展に寄与することが目標だという。

荒牧社長は「10年後も安定した輸送サービスを社会に提供し続けながら育成した次世代に会社を継承したい」と展望した。

「日本一運送会社らしくない運送会社」を旗印に、運送未経験が活躍するGラインの挑戦は、まだはじまったばかりである。

Gライン　ビジョンマップ



SHOWROOM

ショールーム　各社趣向を凝らした常設展示場

IHI物流産業システム

IHI横浜ロジラボ

コンセプト

「IHI横浜ロジラボ」はIHIの最新物流システムの技術革新の場であるとともに、お客様が実際に本システムを体感できるショールームを兼ねており、商談スペースとしても利用可能な施設。
ピッキング業務を劇的に改善する、今話題の3次元ピッキングシステム「Skypod」のほか、AIを活用したデパレタイズ･パレタイズやピッキングのロボットソリューションの実機を、実際の物流現場での運用に近い形で確かめることができる。
また、毎月1回、これらの実機体験と物流業務改善に関する座学セミナーをセットにしたイベントも開催しているので、案内をご希望の方はホームページからのメールマガジン配信登録を。

所在地

〒235-8501　神奈川県横浜市磯子区新中原町1
IHI横浜事業所内

主要展示品

◯3次元ピッキングシステム「Skypod」
◯IHIデパレタイズシステム
◯IHIビースピッキングシステム

ショールームの面積

約300㎡

開設

2022年6月

予約の有無

予約有　公式ホームページの
お問い合わせフォームから予約
https://ihi-logistics.com/

アクセス

- JR根岸線 新杉田駅より徒歩5分
- 京浜急行 杉田駅より徒歩15分

駐車場　無

予約連絡先　特に設置なし

パレタイズ･デパレタイズシステム

ビースピッキングシステム

アイオイ・システム

アイオイ・システムショールーム

コンセプト

物流センター、工場内全体をデジタル統合化システムによって生産性改善・ミス撲滅、見える化を実現。
世界トップシェアのピッキングシステムやスマートタグ・カードによる物流・製造DX等、事例と併せて紹介している。
また、オンラインで体験できる「LIVEショールーム」の仕組みを構築。（2020年5月からスタートさせ累計実施社数2,000社以上）
アイオイ・システムは、ショールームをお客様とつながる『コミュニケーションの場』として考えている。気軽に来場、またはLIVEにて参加できるショールームだ。

所在地

東 京 本 社　東京都品川区南大井6-22-7
　　大森ベルポートE館9階
大阪営業所　大阪府大阪市都島区東野田町4-6-22
　　ニッセイ京橋ビル301

主要展示品（製品名）　＊実機デモ可

◯業界NO.1デジタル表示器（無線/有線モデル）
「デジタルピッキングシステム」
◯シャッター付きピッキングシステム「シャッターアソートシステム（SAS）」
◯映像投影型最新ソリューション「プロジェクションピッキングシステム®」
◯スポットライトピッキングシステム（SPS）
◯ピッキング・仕分け連動システム「AGV（自動搬送車）＋PPS+SAS」
◯【物流・製造DX】見えるRFID
「SmartTag / Card」

＊展示内容は時期によって変更します

ショールームの面積

129.57㎡（本社ショールーム）

開設

ショールーム開設　2008年より
LIVEショールーム稼働
2020年5月から本格的にスタート

予約の有無

事前予約制

開館日・営業時間

土日・祝祭日／年末年始／夏季休暇を除く
9:00～17:30

アクセス

東 京 本 社（JR大森駅徒歩5分）
大阪営業所（JR京橋駅徒歩10分
　　地下鉄京橋駅徒歩5分）

駐車場　無

予約連絡先

公式サイトURL
https://www.hello-aioi.com/showroom/

オカムラ

コンセプト

オカムラ初の物流システム専用ショールームとして2020年7月に物流システム機器の生産拠点である富士事業所（静岡県御殿場市）内に開設した。Logistics（物流）のLとUser Experience（ユーザー体験）のUXを組み合わせた「LUX」はラテン語で光を意味し、ユーザーの物流の一歩先を照らし示すという意味を込めている。
オカムラが提供する物流システムの主力製品を展示し、実際の稼働デモンストレーションを体感・体験し、新たなソリューションを発見していく創造的体験型のショールーム。「機種選定の参考にしたい」、「作業性や能力を検証したい」、「製品規模を確認したい」、「運用イメージをつかみたい」などの要望に合わせて案内し、導入前の疑問解消や課題解決のアイデアを得る場として活用されている。

所在地

〒412-0034　静岡県御殿場市大坂102-1
　　（オカムラ 富士事業所内）

主要展示品

◯多段式独立水平回転棚「ロータリーラックH」
◯ロボットストレージシステム「オートストア」
◯シャトル式保管･仕分けシステム「コンチェスター」
◯パレットストレージシステム「サイビスター」
◯各種コンベヤ・ソーターシステム、ロボットピッキングシステム、自律移動ロボット「ORV」ほかマテハン機器約20点

＊全て実機デモ可
＊時期によって展示品の入れ替え･変更があります

ショールームの面積

約1400㎡

開設

2020年7月

予約の有無

予約要
窓口担当に事前にご連絡いただくか、下記URLより定例見学会へお申込み
https://www.okamura.co.jp/company/showroom/lux/
法人顧客専用の定例見学会、毎月第３金曜日（午前／午後）に開催中

アクセス

●車の場合
東名高速道路「駒門スマートIC」から5分 ／
　　「裾野IC」から約10分
●電車の場合
JR御殿場線・小田急ロマンスカー「御殿場駅」からタクシーで約15分 ／ 東海道新幹線「三島駅」からタクシーで約30分

駐車場　有

予約連絡先

物流システム営業部　tel.03-6700-8041

Gaussy

コンセプト
労働人口の減少やEC貨物急増への対応といった物流課題の解決に向けて、自動化の流れは今後さらに加速する。Robowareでは導入コストや運用面におけるロボット活用の障壁を解消し、異なるメーカー／異なる用途のロボットを誰もが自由に選択できる世界の実現を目指す。
都内から気軽にアクセスでき、羽田空港にも近接する東京流通センター内に開設された本ショールームは、いつでも気軽に倉庫ロボットに触れることができ、導入を検討するための情報収集ができる場を提供するもの。ショールームでの体験を通じて、ロボット導入や運用のイメージをより具体的にできるほか、導入時の障害や問題点を相談できる場としても利用できる。

所在地
〒143-0006　東京都大田区平和島6-1-1
東京流通センター　物流ビルA棟　2階モデルルーム内
（区画AE2-3）

主要展示品
◯立体型仕分けロボット
「Omni Sorter」
（オムニ・ソーター）
◯自律型ナビゲーション
ロボット（AMR）
「Max シリーズ」
「Flex シリーズ」

＊全て実機デモ可

ショールームの面積
約220㎡
開設
2023年12月
予約の有無
事前予約制
アクセス
●電車・バスの場合
東京モノレール「流通センター」駅 徒歩5分
JR「大森」駅 バス約12分
京浜急行「平和島」駅 バス約5分・徒歩20分
●車の場合
首都高速 羽田線「平和島」出入口から約1km
首都高速 湾岸線「大井南」出入口から約3km
駐車場　有（要予約）
予約連絡先
予約フォームまたはメールで
https://roboware.ai/event
toiawase.roboware@gaussy.com

Maxシリーズ

Flexシリーズ

GROUND

コンセプト
GROUNDは、物流・Eコマース・流通業界が直面するさまざまな課題を解決できるような先進テクノロジーの実証実験や研究・開発を行うことで、それらの早期実用化・最適化を目指すことを目的に「playGROUND」を設立した。
ユーザーの物流環境をよりリアルに再現できる設備も導入しているため、AIやロボットソリューションなどの先端テクノロジーをさまざまなニーズに対応させて柔軟なデモンストレーションが可能。
また、ショールームスペースも完備、AIを活用した物流施設統合管理・最適化システム「GWES」をはじめ、複数の異なる役割のロボットソリューションのデモンストレーションを体験できる。

所在地
〒272-0011　千葉県市川市高谷新町6番4
「DPL市川」2階

主要展示品
◯物流施設統合管理・最適化システム
「GWES（ジーダブルイーエス）」
◯ピッキング作業支援　自律型協働ロボット
「PEER（ピア）」
◯工程間搬送支援　自律型協働ロボット
「OASIS（オアシス）シリーズ」
◯無人搬送フォークリフトロボット
「GULF（ガルフ）シリーズ」
＊全てのソフトウェアおよびロボットソリューションのデモンストレーションが可能

ショールームの面積
700㎡
開設
2018年8月15日（水）開設
＊2020年9月18日（金）拡張
予約の有無
予約要
https://www.groundinc.co.jp/services/seminars/
アクセス
●車の場合
外環自動車道「市川南IC」から約10分、首都高湾岸線「千鳥町IC」から約15分
●電車の場合
JR総武線・武蔵野線、東京メトロ「西船橋駅」からタクシーで約20分／JR京葉線「二俣新町駅」からタクシーで約10分
駐車場　有
予約連絡先
https://www.groundinc.co.jp/services/seminars/

日に新た館

ダイフク

コンセプト
業界に先駆け開館したマテハン・ロジスティクスの体験型総合展示場「日に新た館」。最新技術を用いたシステム・機器がそろい、実稼働している。
ダイフクとロジスティクスに関連ある約30社を含め、数多くの機種を展示しており、その規模は世界最大級。
運用システムや物流設備をより深く理解してもらうために、すべてのお客さまに専任スタッフによる説明案内（日本語・英語・中国語・韓国語）を行っている。
また、車椅子での全館対応など、ユニバーサルデザインの実現にむけた施設づくりを目指している。

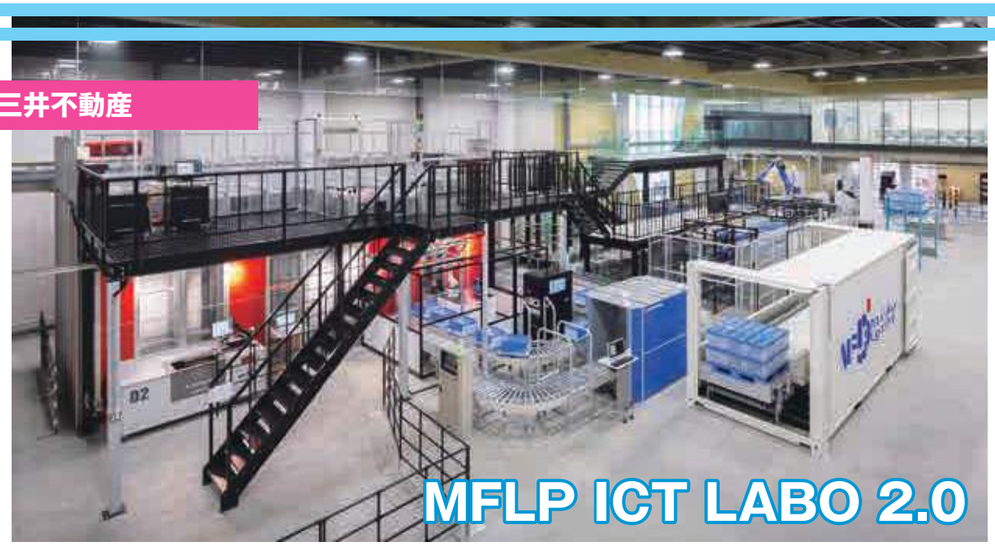
所在地
〒529-1692　滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225
株式会社ダイフク滋賀事業所内

主要展示品
◯自動車生産ライン向けシステム
◯パレット系保管・搬送システム
◯ケース系保管・搬送システム
◯仕分け・ピッキングシステム
◯クリーンルーム向け保管・搬送システム
◯空港向けシステム

ショールームの面積
建物面積　6,049㎡
延床面積　19,482㎡

開設
1994年6月1日 開館
予約の有無
事前予約制
開館日・時間
見学時間／09:50～15:15
休 館 日／土曜日・日曜日・祝日
＊臨時休館中など最新情報は
下記ホームページでご確認ください
アクセス
●車の場合
名神高速「八日市IC」から約15分
●電車の場合
無料シャトルバス　JR近江八幡駅から約45分／JR米原駅から約60分（要予約）
予約連絡先
https://www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan/

三井不動産



MFLP ICT LABO 2.0

コンセプト
全国で約70カ所の物流施設を運営する三井不動産は、従来の不動産賃貸業にとどまらず、お客様や社会全体の物流課題の解決に向けたソリューションを提供し、不動産デベロッパーの枠を超えた「産業デベロッパー」として新たな価値創造を目指している。
その取り組みの1つである「MFLP ICT LABO 2.0」では、人手不足などが深刻な課題となっている物流業界の現状を踏まえ、さらなる自動化・省人化を実現するためのソリューション営業の強化を目指し、入荷から出荷までのすべての物流業務フローを自動化した「フルオートメーション物流モデル」を展示している。異なるマテハンメーカーの機器を連携し、各作業のタイミングを調整するWMSを1から構築。トラックコンテナの商品が搬出されるところから、自動倉庫での保管を経て、出荷・積載されるまで、人手を介さずに荷物が流れる様子を見ることができる。
昨今、物流業界への関心が高まる中、本ショールームへの来訪者は物流関係者だけでなく、行政や研究機関、学校の社会科見学にまで広がりを見せている。

所在地
千葉県船橋市浜町2-3-1
MFLP船橋・&GATE 内

主要展示品
◯オートストア（株式会社オカムラ）
◯パレタイザー/デパレタイザー
（株式会社IHI物流産業システム）
◯オートフォーク（三菱ロジスネクスト株式会社）
◯双腕ロボ（安川メカトレック末松九機株式会社）
◯ピッキングロボ（東芝インフラシステムズ株式会社）
など　＊全て実機デモ可

ショールームの面積
1F：1,021㎡　2F：404㎡

開設
2020年2月13日
予約の有無
予約有
アクセス
JR京葉線　南船橋駅　徒歩約9分
駐車場　有
予約連絡先　https://mflp.mitsuifudosan.co.-jp/cform/inquiry_logi-agreement.html
0120-321-735

オートストア

オートフォーク

Mujin

コンセプト
Mujinは 独自の高度なロボット知能化技術「MujinMI」により、自律的に考え、臨機応変に動く知能ロボットを実現。これまで難しいとされていた工程やワークへの対応が可能になり、従来のロボット課題をクリアする新たなソリューションパッケージとして、多くの物流・製造現場で利用されている。
「ロボットソリューション展示場」は都内最大級のロボットセンターとして、物流倉庫におけるケース品積み下ろし・積み付け・ピースピッキング工程などで広く使用されている物流知能ロボット「MujinRobot」各種の実機デモンストレーションを行う。自動化検討する際、「まず、ロボットの動きを見てみたい」という方や具体的な個別相談希望の方まで、幅広いユーザーが訪れている。

所在地
〒135-0053　東京都江東区辰巳3-8-5

主要展示品
◯MujinRobotデパレタイザー
◯MujinRobotパレタイザー
◯MujinRobotピースピッカー
　＊全て実機デモ可

ショールームの面積
1000㎡

開設
2019年9月

予約の有無
予約有　イベントページより予約
https://www.mujin.co.jp/event/

アクセス
- 東京メトロ有楽町線「辰巳駅」にて下車
  2番出口より徒歩10分
- 都営バス停「辰巳三丁目」にて下車
  バス停より徒歩1分

駐車場　有（事前予約必要）

予約連絡先　events@mujin.co.jp

ユーピーアール

GLP ALFALINK相模原1

コンセプト
「DXデポ」では7社の協力会社による参画のもと、サプライチェーン全体における先端DXテクノロジーを集結させ、物流業界全体が抱えるさまざまな課題の解決に直結する23種のソリューションを体系的にわかりやすく示している。
これらのソリューションにより「省人化・省力化」「生産性・管理品質の向上」「ペーパーレス化」などを推進することで、2024年問題などの物流クライシス対策・ホワイト物流実現に貢献する。

所在地
〒252-0244　神奈川県相模原市中央区
田名字赤坂3700-1
GLP ALFALINK相模原1 5階

主要展示品
◯レンタルパレット
◯X-Rentalオープンプラットフォーム
◯パレット等紛失保証制度
◯RenRen
◯パレットファインダー
◯マテハンファインダー
◯トラック荷物の積載率測定
◯アクティブRFIDタグ&リーダー
◯DXタグ
◯なんつい
◯ワールドキーパー
◯みえーるど
◯パレット･カゴ車と荷物の紐付け
◯UスマホKENPIN
◯カゴ車荷物の積載率測定
◯ToFカメラによる在庫管理システム
◯ロケーション管理システム（ラックの荷物）
◯ロケーション管理システム（平置き荷物）
◯荷物種別に応じたAGV自動搬送

◯t-Sort［プラスオートメーション株式会社］
◯SLAM式キーカート［シーオス株式会社］
◯アシストスーツ
◯uprバイオマスパレット
＊実機デモ可能（一部対象外）

ショールームの面積
約850㎡

開設
2022年9月

予約の有無
事前予約制

アクセス
- JR横浜線･JR相模原線･京王線「橋本」駅から バス

駐車場　有

予約連絡先
こちらからお申込みください
https://www.upr-net.co.jp/dxdepo/

ToFカメラによる在庫管理システム

パレットファインダー

生産性向上に寄与する
システム・製品群

LOGB
LOGISTICS GUIDEBOOK

❶ SCM／経営の革新
- ① SCM
- ② 経営支援
- ③ 人材開発

❷ 物流センターソリューション
- ① マネジメント・制御系
- ② 実行系

❸ 輸配送ソリューション
- ① 運行計画・管理・支援
- ② 求荷求車

❹ 物流支援サービス
- ① パレット・コンテナ
- ② 車両・フォークリフトなど

❺ ESG／BCP

ロジスティクス・ソリューションシステム

センコーの「物流システム」は、メーカー様から卸売業、小売業、最終消費者の皆様までのサプライチェーン全体を統合管理する、情報と物流を一体化した「ＩＴソリューションシステム」です。
あらゆる業種のお客様向けに対応した物流受託システムとして、「より早く、ローコスト」な物流ソリューションを実現し、お客様のSCM（サプライチェーンマネジメント）構築を強力にサポートします。

- ロジスティクス・ソリューションシステム
  - ＷＧＣ（汎用倉庫クラウド）
  - ＷＣＣ（量販倉庫クラウド）
  - ＷＡＣ（アパレル倉庫クラウド）
  - ＴＧＣ（汎用自動車クラウド）
  - ＴＣ（通過型倉庫管理）システム
  - ＬＭＳ（ロジスティクス・マネジメント・システム）

当社のＷＭＳ（倉庫管理システム）は
お客様の業態・商品特性に合わせて
３つのクラウド型ＷＭＳを提供しています

WMS 倉庫管理システム

入庫 → 保管 → 出庫

● 汎用倉庫クラウド（WGC） Warehouse General Cloud

ＷＧＣは、住宅・建材業界、化学製品などのケミカル業界のお客様の物流管理を行う物流センターに幅広く導入しています。

ケミカル・住宅・医療系・その他一般
センコーの一般／汎用倉庫に幅広く適用

Point

- 海外対応（米／中）
- 広域荷主（複数拠点）対応

● 量販倉庫クラウド（WCC） Warehouse Chainstore Cloud

ＷＣＣは、総合スーパー・ドラッグストア・ホームセンターなどの流通業界のお客様の物流管理を行う物流センターに幅広く導入しています。

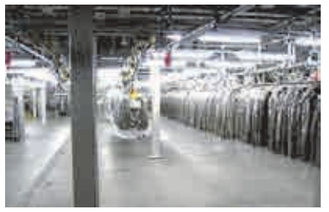
ロジスティクス営業系
ホームセンター・ドラッグストア・家電量販店などチェーンストア系倉庫に適用

Point

- 量販系中小規模向け（大規模は個別）
- ＴＣシステム／マテハン連動
- ＪＡＮ検品／店舗配分／在庫補充 など

● アパレル倉庫クラウド（WAC） Warehouse Apparel Cloud

ＷＡＣは、ファッション、アパレルなどの流通業界のお客様の物流管理を行う物流センターに幅広く導入しています。



ファッション・アパレル物流系
衣料・靴・バッグなどアパレル系・通販（BtoC）の倉庫に適用

Point

- 通販物流機能（Ｂ to Ｃ）
- 百貨店向けＥＤＩ／納品代行連携
- 品番／色／サイズ／体型管理 など

センコーグループホールディングス株式会社　経営戦略本部　DX 推進部　大阪市中央区備後町 2-6-8 〒541-0051
Tel 06-6440-5168　Fax 06-6440-5194　https://www.senkogrouphd.co.jp

ロジスティクス・ソリューションシステム

● 汎用自動車クラウド（TGC） Transfer General Cloud

ＴＧＣは、３つのクラウド型ＷＭＳと連携し、倉庫出荷された荷物を最適な車両に積み込み、配送を決定し、支援します。

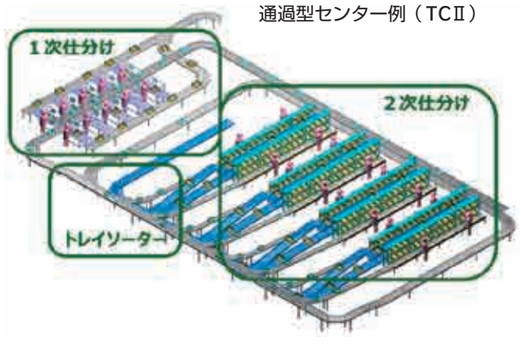
● TC（通過型倉庫管理）システム Transfer Center system

ＴＣシステムは、通過型倉庫での入荷・仕分け・出荷業務に対応したシステム。
センコーでは、そこに独自の付加価値をプラスして提供しています。

センコー独自の付加価値をプラス！

- 業態管理：作業進捗／人員動態／応受援
- 決算連動：精算支援／戦略会計連動
- ビッグデータ：ＫＰＩ／生産性評価

通過型センター例（TCⅡ）



● ロジスティクス・マネジメント・システム（LMS） Logistics Management System

荷主・３ＰＬ業者様から物流業者様まで皆様に活用いただける、自社物流システムの領域を超えたシステムを提供します。

● 「TSUNAGU STATION」予約システム

センコーが提供するトラック中継輸送専用の施設「TSUNAGU STATION」は、会員登録し、WEBシステムから利用予約することで、センコーグループ以外の企業や物流事業者の方にも広く利用いただける施設です。
中継スペースの予約のほか、積み替え、配達依頼、一時保管などの付帯サービスも予約することができます。
また、トイレやシャワールームを完備したドライバー専用の休憩施設もあります。
貨物・車両の情報を集めて最適にマッチングすることで、他社との協業による中継輸送を可能とし、物流業界の課題を解決していきます。

センコーグループホールディングス株式会社　経営戦略本部　DX 推進部　大阪市中央区備後町 2-6-8 〒541-0051
Tel 06-6440-5168　Fax 06-6440-5194　https://www.senkogrouphd.co.jp

生産性向上・品質やサービスの向上のためのソリューション

大塚商会のロジスティックソリューション

大塚商会では「生産性向上」と「品質やサービスの向上」を実現すべく、物流業界の IT 化を推進し、お客様のご予算・ご要望・環境に適したソリューションのご相談をお受けいたします。

2024 年は「2024 年問題」や「物流関連 2 法改正」の施行および公布が物流業界に大きな影響を与えました。2025 年には、労働力不足や高齢化、燃料費や人件費の高騰、IT 技術革新の遅れなど、さらなる課題が予想されます。大塚商会は、ソフトウェアからハードウェア、インフラまで一社で完結する総合力を持ち、効率的かつ低コストで業務改善を支援、独立系マルチ IT ベンダーとして、お客様の全体最適を見据えたシステム構築をサポートします。また、経済産業省の DX 認定制度に基づき「DX 認定取得事業者」として認定されており、「DX 統合パッケージ」を中心としたデジタルソリューション提案で国内企業の DX 推進を支援いたします。

バックオフィス関連

運輸事業者向け販売管理システム

SMILE V2 トラックスター

運輸業における日報管理・請求管理から実績管理まで、一連の業務を効率化。
業界の慣習に対応し、運輸業の経営管理を強力にバックアップします。

- 視覚的に分かりやすい配車処理画面
- 豊富な経営資料
- ドライバーの労務管理機能
- 管理項目の追加や自由な帳票を作成

インボイス制度・電子帳簿保存法・電子請求書にも対応

ドライバーの就業状況を把握

就業システム

「時間外労働規制」への対応には、ドライバーの就業状況の把握も重要です

勤次郎 就業・勤怠管理	勤次郎製 勤怠管理システム
勤革時	NEC 製 クラウド型 勤怠管理システム

大塚商会

バックオフィス関連

配送計画支援システム

ULTRAFIX　AI 配車・バース予約サービス

『輸配送コスト削減』『輸配送品質向上』『予実管理による業務改善』が可能になります

配送計画支援システム ULTRAFIX ウルトラフィックス

- AI によるスピーディーな配車業務
- 配送の効率化の推進
- トラック待ち行列の解消
- バース管理の効率化

ドライバーの運行を把握

デジタルタコグラフ

「時間外労働規制」への対応には、まずドライバーの運行の把握が重要です

デジタルタコグラフ YDX シリーズ	矢崎エナジーシステム製 ネットワーク型デジタルタコグラフ
DTS シリーズ	富士通製 ネットワーク型車載ステーション

- ドライバーと運行管理者の負荷を軽減
- 通信モジュール内臓
- ドライブレコーダー一体型
- 豊富な労務管理機能

点呼業務の効率化

アルコールチェッカー・遠隔点呼・自動点呼

点呼業務の効率化を図ることが可能になります

遠隔点呼システム AlcFace Air アルコフェイス エアー　サンコーテクノ株式会社

- 燃料電池式センサー　高感度チェッカー
- 遠隔・自動点呼に対応（自動点呼は 2025 年春予定）

倉庫業務の効率化

WMS

庫内業務に負担をかけない、効率化を図ることが可能になります

ULTRAFIX/WMS	NEC 製 WMS
入出庫在庫管理システム ORBIS-VI 倉庫管理	NSW 製 WMS
W-KEEPER	三谷コンピュータ製 WMS

その他、物流業様向けソリューションを多数ご用意しております。是非、下記をご覧ください

ERPNAVI　https://www.otsuka-shokai.co.jp/erpnavi/　ERP ナビ　検索

ロジスティクスソリューション：https://www.otsuka-shokai.co.jp/erpnavi/category/transportation/

◆コラム連載中◆運輸・配送にかかわる企業が取り組むべき DX の具体策
運輸・配送にかかわる企業へのアプリケーション導入の現場から、問題提起と解決策をお伝えします。
執筆：株式会社 AppLogi　代表取締役　廣田 幹浩氏
https://www.otsuka-shokai.co.jp/erpnavi/topics/column/logistics-dx/

株式会社大塚商会　業種 SI プロモーション部
Tel 0120-369-877

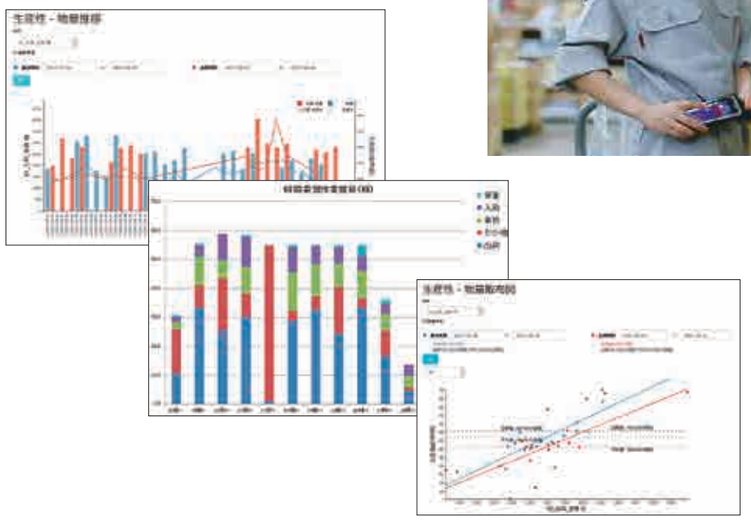
IoT 時代の作業時間計測ツール
ろじたん

◉概要
スマホやタブレットアプリ（Android）と Web の連携により、作業時間を計測するツールです。
作業スタッフが、作業中にスマホやタブレットに表示されるボタンをタップするだけで、作業履歴を蓄積できます。
取得データは Web 上で一括管理が可能です。
分析ツールを使って、簡単に集計グラフを出力することができます。

◉特徴
準備がかんたん
必要機材は全てレンタルなので、端末の購入などの初期費用は一切不要です。
（お申し込みから通常約 3 週間で測定開始できます。）

計測がかんたん
スマホは、作業計測の合図の際にスマホを 1 回タップするだけ。
タブレットは、IC カードや QR コードで認証してタップするだけ。
簡単で、作業の邪魔にもなりません。

分析がかんたん
送信されたデータはウェブ管理システムに蓄積。
紙のデータをエクセルに打ち込む必要はありません。



◉利用料金
計測する人数、期間によって異なります。ご相談時に詳細を伺いお見積りいたします。
ケース①：10 名 90 日間…86,600 円（税別）
ケース②：30 名 1 年間…652,850 円（税別）

ろじたん

LINE を使ったドライバー運行管理ツール　いつものスマホと LINE で運行管理を容易に！
どらたん

◉概要
ドライバーの手持ちのスマートフォンと LINE アプリを利用し、ドライバーが対話形式で運行状況を記録します。「かんたんに」「スグに」「低コストで」をコンセプトとした、手軽な費用で簡単に導入できる仕組みです。

◉特徴
LINE で手軽に操作
LINE を操作する感覚で手軽に操作、簡単に入力・送信ができます。

作業内容や場所、数量を記録
ボタンをタップするだけで、ドライバーの作業内容や場所、作業に伴う数量を記録できます。

運転日報の手書きが不要
運転日報は、入力したデータで自動作成するため、手書きが不要になります。

集配先別の手待ち時間がわかる
集配先別の手待ち時間、荷役時間、附帯作業時間などが把握できます。

ドライバーの働き方を見直せる
収取した作業時間は、月単位で集計し、ドライバーの働き方の見直しに役立てることができます。

Web でリアルタイム情報把握
ドライバーが入力した作業内容・場所は、事業所の Web で即座に把握。
電話連絡が不要に。ドライバー別に運行状況の照会も可能です。

◉機能
ボタンタップするだけで簡単に記録

記録データはパソコンで確認できる 運転日報も自動で作成

◉利用料金
①月額基本料金：5,000 円（税別）
②月額利用者料金：500 円（税別）×利用者数（LINE を利用するドライバーの人数）
①と②の合計が利用料です。※ご契約は 6 か月単位です。

NIPPON EXPRESS 株式会社ＮＸ総合研究所

トランクルームの押入れ産業

トランクルーム・レンタル収納スペース・文書保管の３事業を柱に、全国ネットワークを構築しています。

フランチャイズ加盟店大募集！！

1987 年の創業以来培ってきた、トランクルーム事業のノウハウをもとに、より良いサービスをお客様へ提供したい…そのような想いで、共にトランクルーム事業に取り組んでいただけるパートナーを募集しています。まずはお気軽にお問合せください。

弊社ヒストリー公開中！
ぜひご覧ください

FC 加盟募集に関して
動画にまとめております

北海道
小樽倉庫株式会社
札幌三信倉庫株式会社

東 北
青森県　日興運輸株式会社
秋田県　秋印株式会社
岩手県　株式会社イワペニ
〃　徳清倉庫株式会社
山形県　株式会社エコー
〃　ベア・ロジコ株式会社
宮城県　東邦運輸倉庫株式会社
〃　株式会社白石倉庫
〃　株式会社丸山運送
〃　株式会社大昇物流
〃　有限会社冨樫運輸
福島県　東日本倉庫株式会社
〃　桑折商事倉庫株式会社
〃　株式会社大善
〃　丸カ運送株式会社
〃　大竹運送株式会社

北 陸
石川県　若松梱包運輸倉庫株式会社
福井県　裾王運送株式会社
〃　株式会社アイシー物流

信 越
新潟県　株式会社SRIロジテム
長野県　諏訪倉庫株式会社
〃　倉島事業開発株式会社

関 西
滋賀県　株式会社押入れ産業京滋
大阪府　浪速通運株式会社
〃　杉浦実業株式会社
〃　株式会社つばめ急便
〃　摂津倉庫株式会社
兵庫県　シンエスサービス株式会社
〃　和晃運輸株式会社
〃　株式会社浜田運送
〃　寺本運輸倉庫株式会社
〃　株式会社吉富運輸

中 国
岡山県　株式会社日之出運輸
〃　大永運輸倉庫株式会社
広島県　芸備倉庫株式会社
〃　双葉運輸株式会社
〃　合名会社福彦商店

四 国
徳島県　共同港運株式会社
香川県　高松臨港倉庫株式会社
高知県　協和倉庫株式会社
愛媛県　大栄倉庫産業株式会社

九 州
福岡県　株式会社博運社
〃　福岡倉庫株式会社
佐賀県　鳥栖倉庫株式会社
〃　株式会社ロジコム
大分県　大成倉庫株式会社
長崎県　株式会社村里運輸
熊本県　ひろせ梱包運輸株式会社
宮崎県　日豊輸送株式会社

東 海
静岡県　清和海運株式会社
〃　株式会社マーリス
〃　株式会社和泉運送
愛知県　東海倉庫株式会社
〃　マルハン倉庫株式会社
〃　高浜共立運輸株式会社
岐阜県　岐阜倉庫運輸株式会社
〃　多治見通運株式会社
三重県　生川倉庫株式会社
〃　株式会社キャリアカーサービス

関 東
茨城県　ミヤト倉庫株式会社
〃　前山倉庫株式会社
群馬県　上毛倉庫株式会社
〃　関東エアーカーゴ株式会社
埼玉県　野口倉庫株式会社
東京都　株式会社ダイワコーポレーション
〃　多田製粉株式会社
〃　東海運株式会社
〃　結城運輸倉庫株式会社
〃　共進倉庫株式会社
〃　武蔵野運送株式会社
〃　日塩株式会社
〃　京北倉庫株式会社
〃　西多摩運送株式会社
〃　岩立運送有限会社
〃　SE僚和有限会社
〃　株式会社フカサワ
東京都　志水倉庫株式会社
〃　三信倉庫株式会社
〃　日本流通倉庫株式会社
〃　安田開発株式会社
〃　永和不動産株式会社
〃　帝都自動車交通株式会社
〃　株式会社カクセイ
〃　有限会社オリエンタルランド
〃　JR西日本プロパティーズ株式会社
〃　株式会社マイダス
〃　八大株式会社
〃　株式会社越前興業
神奈川県　湘南倉庫運送株式会社
〃　日本埠頭倉庫株式会社
〃　合資会社あいざわ
〃　株式会社久保寺商店

トランクルーム事業

●収納専用のコンテナを倉庫の中で保管するので安心

トランクルーム専用に開発された防塵性・防カビ性の高いコンテナを倉庫の中で保管しています。
コンテナは荷物に合わせて各種サイズをご用意しておりますので、大きなお荷物の保管にも便利です。
倉庫は有人管理をしているのでとても安心です。

文書保管事業

●オフィスにある書類や医療情報を保管から廃棄まで、トータルでサポート

押入れ産業では、全国 15 か所の倉庫で ISO27001（ISMS）の認証取得し、お客様の大切な情報を安心・安全にお預かりしております。
また、文書 (書類) の集配～保管～廃棄まで文書のライフサイクルをトータル管理できる「WEB オーダーシステム」をご提供しておりますので、必要な情報をシステム上で簡単に管理することが可能です。

レンタル収納スペース

●自宅のクローゼットのように自由に使えるレンタル収納スペース

好きな時に出し入れでき、セキュリティや空調を完備した明るく清潔で安全にご利用いただける収納空間です。
お客様のニーズに応えるさまざまな大きさのお部屋をご用意いたしました。

お問い合わせはこちらまで！

フリーダイヤル　みんなのにもつ　ひゃくとーばん
0120-372-110
受付時間 9:00～17:00（土・日・祝・年末年始・夏期休業期間を除く）

HP https://www.oshiire.co.jp
Mail Info@oshiire.co.jp
押入れ産業 検索

押入れ産業株式会社　本社　東京都千代田区神田多町 2-1-23 神田東山ビル 6F 〒101-0046
Tel 03-6625-0201　Fax 03-6625-0207　https://www.oshiire.co.jp

加速する物流にトータルコーディネートでお応えします

NXキャリアロードの人材ソリューション

NXキャリアロード株式会社は、「業務請負」「人材派遣」「人材紹介」「外国人材」「シニア人材」「事務請負」より、お客様に最適なサービスを「トータルコーディネート」させて頂く、NIPPON EXPRESS ホールディングスグループの総合人材サービス企業です。

業務請負サービス

物流アウトソーシングで
コスト削減・品質向上

お客様の業務改善
を実現します！

人材派遣サービス

多くのお客様にご愛顧を
いただき、実稼働数は

1 名から 100 名体
制に至るまで派遣
提案が可能です！

人材紹介サービス

仕事探しと人材探し

ベストマッチング
をサポート！

外国人材サービス

雇用実績を生かし、紹介・
受入れから定着まで

外国人材サービス
をワンストップで
ご提供します！

シニア人材サービス

即戦力正社員採用に貢献す
るのがシニア人材サービス

お客様のニーズに
合わせてご紹介！

事務請負サービス

ルーティン業務を私たちに
任せてみませんか？

お客様の業務改善
を実現します！

トータルコーディネートサービス

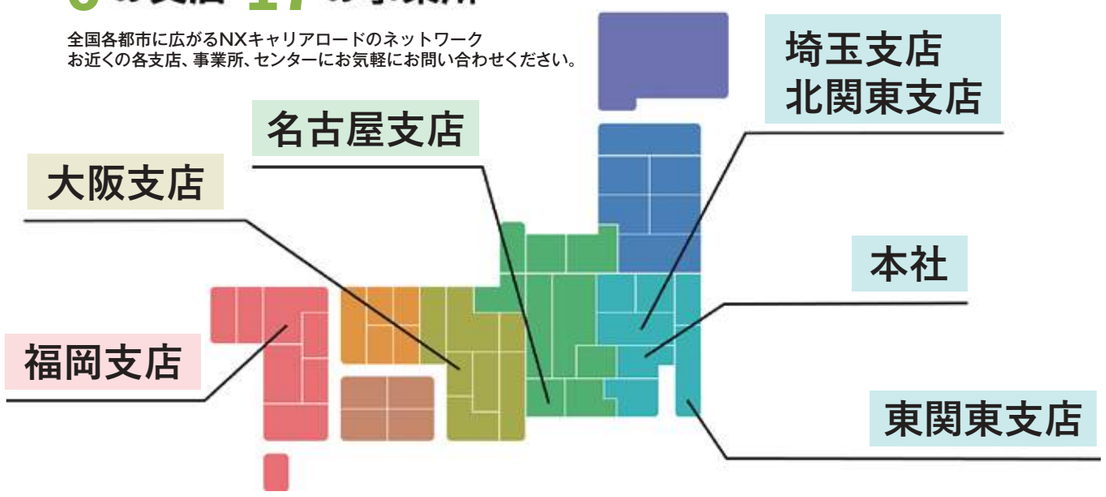
全国のネットワークからダイレクトにご返答＆アドバイス
７つのサービスのメリットを最大化した提案をいたします

お客様の悩みを NXキャリアロードが解決！

EC通販ビジネスの構内作業の物流アウトソーシングをはじめ、
人材派遣、職業紹介、外国人材、シニア人材を駆使し、お客様のニーズにお応えします。
人材にお困りの企業と働くスタッフの双方にベストな環境を構築する「人と仕事を結ぶ会社」、
それが NXキャリアロード株式会社です。

6の支店 17の事業所

全国各都市に広がるNXキャリアロードのネットワーク
お近くの各支店、事業所、センターにお気軽にお問い合わせください。



NIPPON EXPRESS | NXキャリアロード株式会社

NXキャリアロード株式会社　東京都港区東麻布 1-28-13　NX 商事麻布ビル 4F 〒106-0044
Tel 050-3819-7860　Fax 03-5544-9061　https://www.careerroad.co.jp

@Hyway アプリケーション統合開発環境

Atelier@Hyway

@ Hyway の XML タグ構文を意識しないでドラッグ＆ドロップ操作のみで画面作成

■ローコード開発ツール

Atelier @ Hyway

特長

- 操作性に優れたユーザーインターフェース
- Android・iOS を問わず
  シミュレーション機能は一本化
- 多数のテンプレートを実装

導入メリット

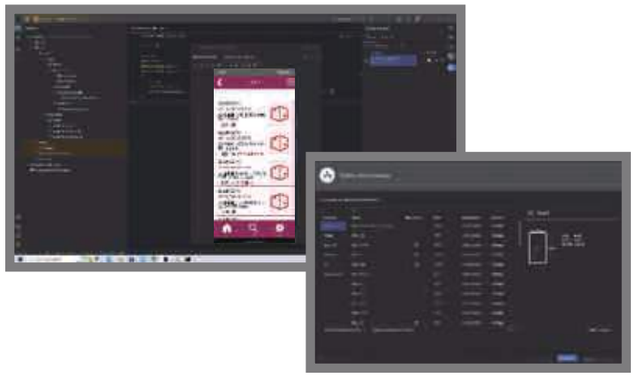
- 開発工数を大幅に削減
- 初心者でも見栄えのよい
  画面設計が可能
- 実機なくても開発できるだけでなく、
  機種移植時に移植シミュレーションが
  事前にできる

**Atelier をご利用頂くに当たって、Smart@Hyway を新たにご購入頂くか
従来の @Hyway をバージョンアップ頂く必要がございます。**

⊙直感的なユーザーインターフェース

Smart@Hyway のタグセットを理解していなくても、ドラッグ＆ドロップの操作で画面作成。細かいパラメーターは、リストからの選択や値の入力で簡単に制御することが出来ます。

⊙シミュレーター標準実装



実機を使用せずに Atelier @ Hyway 上で、アプリ画面のシミュレーションが可能になっております。機種の切り替えもリスト選択で行えます。

⊙多数のデザインテンプレート

Atelier @ Hyway 内に多数のテンプレートを用意しておりますので、画面作成の際に参照頂くことでレイアウトを考える時間を短縮できます。

株式会社ハイウェイテックジャパン　東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 18F 〒108-0073
Tel 03-6821-5890　Fax 03-6821-5899　https://www.snjp.com

超高密度パレット自動倉庫
シャトルラック D³

シャトル台車式自動倉庫で、大ロット品の高密度保管と自動化を推進

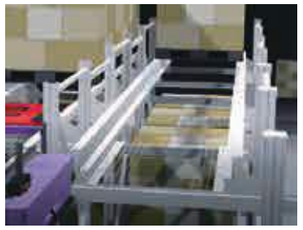
シャトルラック D³（ディースリー）は、パレット単位での超高密度保管を実現したディープストレージ型自動倉庫。食品・飲料メーカー倉庫、化成品メーカー倉庫、大量輸入品の物流センターなど、従来は平置きや直積みしていた大ロットの製品や原料の効率保管に最適です。
入出庫の自動化により、商品を探し回ったり荷繰りする作業が不要となるため、フォークリフト作業を大幅に削減できます。これにより、作業場の労働環境が向上するほか、人手不足対策としても効果的です。

システム構成

D³ システムは、入出庫コンベヤ、垂直リフター、各段に親子各 1 台のシャトル、保管レーンで構成され、1 レーンにつき 1 ロットを保管します。シャトルへの通信は専用の無線 LAN を用い、制御 PC、親台車、子台車の相互間でリアルタイムに連携を取りながらスムーズに入出庫作業を行います。子台車はリチウムイオンバッテリを搭載しており、残容量に応じ親台車上で自動充電します。

入出庫コンベヤ＋垂直搬送リフター

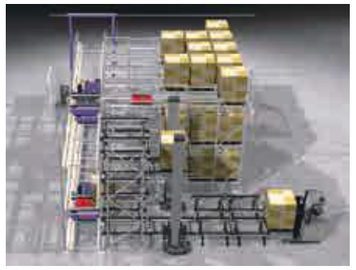
親子台車

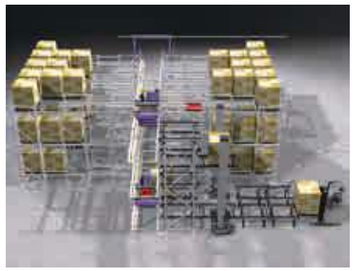

保管レーン

バリエーション

入出庫ステーションは、倉庫の形状・導線に合わせて柔軟にレイアウトができます。また、必要とする保管量や処理能力に応じ、ラックの高層化や走行レーン両側にラックを配置したシステムも構築が可能です。

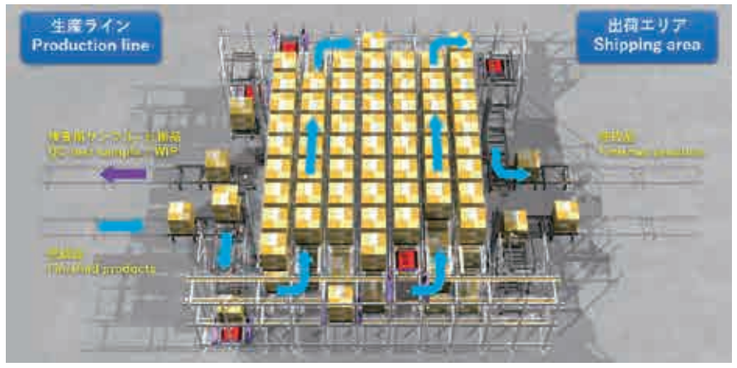
FILO モデル（先入れ後出しモデル）


FILO 片側：台車走行レーンの片側にのみ保管レーンを配置する基本のレイアウト。


FILO 両側：台車が左右どちらの保管レーンにもアクセスする構成

FIFO モデル（先入れ先出しモデル）

保管棚の左右に台車通路を設けることで、生産ラインから入庫した荷物を、出荷バースへ FIFO 順に出庫することも可能です。生産ライン側に出庫専用コンベヤ・リフターも設置することで、サンプリングテストのための出庫や仕掛品（WIP）を生産側へ戻すことも可能です。



納入実績 No.1　ダイフクのパレット自動倉庫
コンパクトシステム

パレット単位で製品や部品を保管するユニット式自動倉庫。既設建屋にも簡単に設置でき、製品倉庫や生産ラインサイドの一時保管システムとして、最新の FA 工場から倉庫・物流センター、また、仕様も冷凍・防爆仕様まで、あらゆる分野・環境で信頼性の高いシステムを構築できます。

●基本仕様

荷姿	850～1500W×850～1500L(mm)
積載質量	Max.3000kg(パレット質量含む)
走行速度	80～200m / min.(インバータ制御)
昇降速度	10～50m / min.(インバータ制御)
フォーク速度	20～80m / min.(インバータ制御)
一次側電力	三相AC200 / 220V(50/60Hz)　5～26KVA

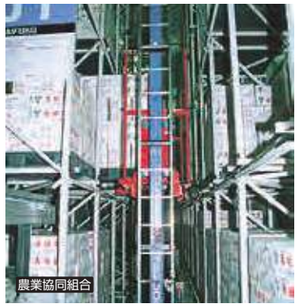
入出庫・在庫管理も簡単、“優れた操作性”を実現

誰でも簡単に操作ができ、入出庫・在庫管理も簡単。コンピュータとの連携まで、常にお客様指向で対応します。

コンパクトシステム®

機械業界

化学業界


農業協同組合

機械業界

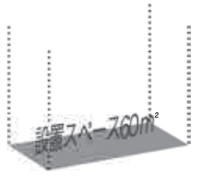
電鉄業界

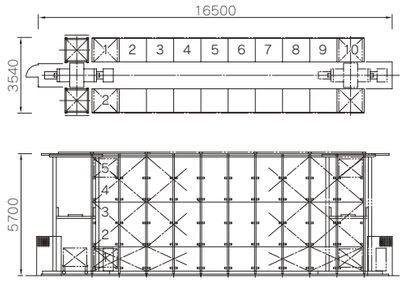
建築金物業界

容易に導入できる コンパクトシステム 100 パレットモデル

わずかなスペースで設置可能な在庫管理コンピュータ付き自動倉庫

「コンパクトシステム 100 パレットモデル」は、自動倉庫の運用に便利な在庫管理コンピュータをパッケージ化。設置スペースもわずか 60 ㎡程度なので、限られた空間でも容易に設置できます。





●基本仕様

荷姿	最大荷姿寸法	1100W × 1100L× 850H
	最大積載質量	1000kg / パレット
	平均積載質量	800kg / パレット
ラック	規模	2バンク × 10ベイ× 5レベル
	格納数	100パレット

株式会社ダイフク　広報部　東京都港区海岸 1-2-3 〒105-0022　Tel 03-6721-3506　www.daifuku.com/jp/

正確、高能力仕分けを実現する　ダイフクの高速仕分け装置

サーフィンソーター

リードタイムの短縮がいっそう進む中、仕分けシステムにはさらなる高速化・高機能が求められています。サーフィンソーターは、一歩進んだスピードと正確さで、流通業、運輸・倉庫業などにおける次代の多品種高速配送を強力に支援します。

超高速・高能力

最高速度145m/分。10000個/時もの仕分け能力を備えています。

やさしく、確実な仕分け

ソフトタッチの水平スライドシュー方式で、荷積みの心配がなく確実に仕分けます。

多様な荷姿に対応

アルミフラット採用により、不定形品・長尺ものなど、あらゆる荷姿に対応します。

モニタリング機能

実績収集や仕分け数量の表示などで、不定形品・長尺ものなど、あらゆる荷姿に対応します。

●基本仕様

仕分け方式	スライドシュー方式
仕分け能力	10000個(荷物長さ450mm時の機械能力)
荷　　姿	100～700W × 230～1800L × 30～900L(mm)
機　　長	Max.150m
機　　幅	1450mm(最大荷物幅700mmの時)／1250mm(最大荷物幅500mmの時)
機　　高	900mm以上

豊富な経験と最新の技術から生まれた“超高速仕分けシステム”

あらゆる業界の仕分けニーズに、高いレベルでお応えします。

機械工具卸業界

運輸業界

食品業界

日用雑貨業界

食品業界

小物高速仕分け装置 サーフィンソーター ミニ

時間当たり最大 8000 ピースの仕分けが可能な小物高速仕分け装置。乾電池、消しゴム、アパレルフラット品など、超小物から薄物まで、あらゆる商品に対応します。

株式会社ダイフク　広報部　東京都港区海岸 1-2-3 〒105-0022　Tel 03-6721-3506　www.daifuku.com/jp/

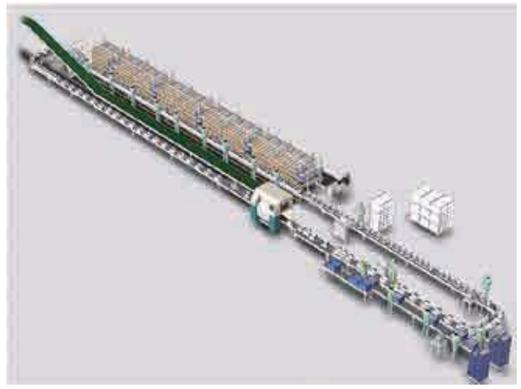
高能力デジタルピッキングシステム

eye-navi

新開発の無線表示器により、生産性とピッキング精度が大幅に向上します。

⊙特長 1　ローラーコンベヤを採用　⇒　約 15% 生産性向上

①作業が遅れたゾーンのみコンベヤ停止、ライン生産性が大幅に向上します。
②集品箱を隙間なく搬送することで、ピッカー当たりのヒット率をアップさせます。

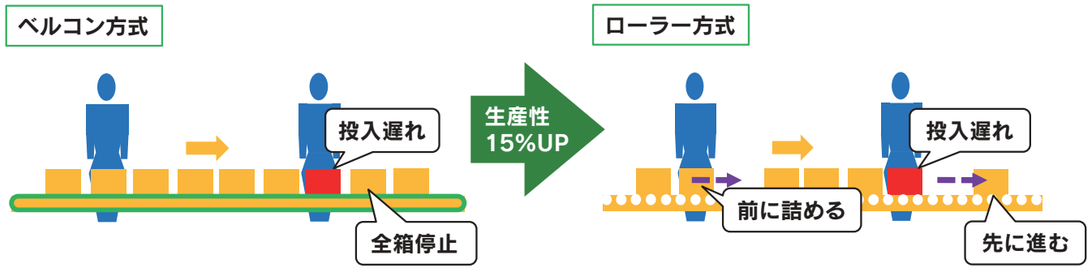


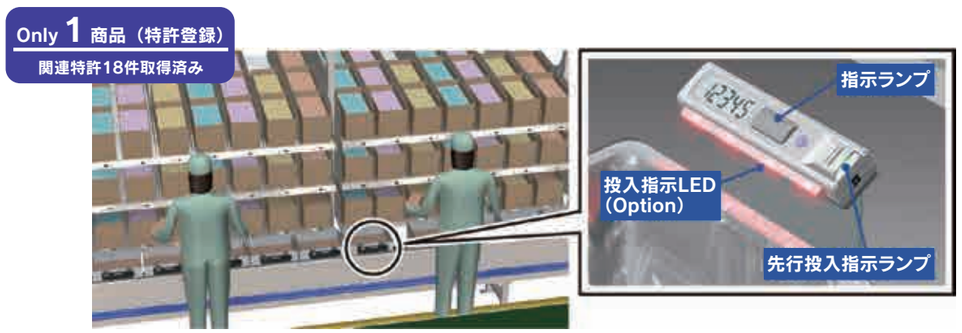
⊙特長 2　視認性に優れた無線表示器・集品箱一体搬送方式

①集品箱の中央に投入指示ランプを配置し、正確な作業を実現します。
②投入指示ランプを表示器下部のLEDバーに替え、さらに強調することも可能です。

⊙特長 3　シンプルなコンベヤ構成でメンテナンスコスト削減

①従来方式の切り出し装置、集品ベルトコンベヤが不要です（ローラコンベヤで構成）。
②集品箱は RFID で位置認識を行うため、複雑なトラッキング制御が不要です。





低頻度ピッキングシステム

ジャングルカート

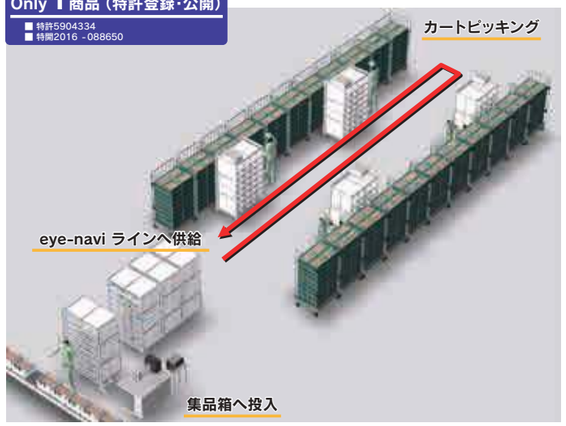
「eye-navi」の低頻度商品向けカート集品システム

⊙特長 1　両面マルチオーダー集約ピックで生産性向上

①カートは両面使いでマルチオーダーの集約ピックが可能です。
②マルチオーダーの集約ピックで歩行距離を削減、生産性が向上します。

⊙特長 2　アイテムフリー・少量多品種に対応

①集品間口表示器が不要なため、アイテム増に柔軟に対応可能です。
② 1 システムで複数ライン対応が可能、低頻度商品の集約ができます。



出荷精度向上・作業改善システム

映像検索システム

ピッキングシステムと連動し、確認したい録画シーンを一発検索

⊙特長 1　誤出荷防止

作業動画を確認し、出荷精度（ミスピック）と生産性（作業性）を向上

⊙特長 2　異物混入監視

作業エリアの動作や状況を高画質で録画し、異物混入などを追跡

⊙特長 3　防犯対策

作業エリアを 24 時間監視し、動きのあるシーンのみ録画（モーション検知）

Only 1 商品（特許公開）
■ 特開2015-078047

ライブ映像イメージ

映像検索イメージ

株式会社ダイフク　広報部　東京都港区海岸 1-2-3 〒105-0022　Tel 03-6721-3506　www.daifuku.com/jp/

ドライブスルー型トラックステーション

TRTS

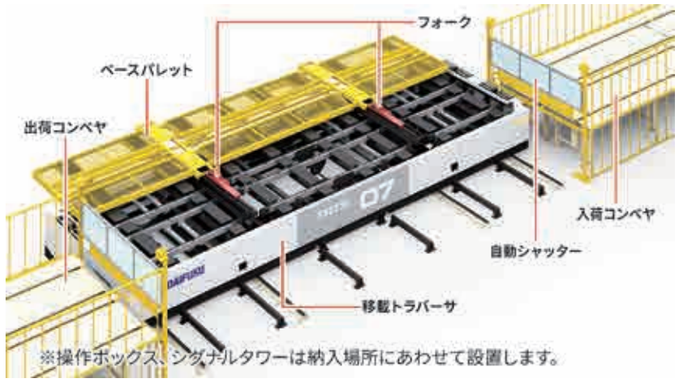
積み降ろしは自動化の時代へ、フォークリフト作業は不要。積み降ろし時間は、わずか 10 分。

紹介動画をご覧いただけます。

トラックのウイングを開けてからわずか 10 分。パレットの荷積み・荷降ろしは、ボタンの操作だけで完了します。「TRTS（トータス）」は、日本の自動車部品業界で使用されることが多いウイングボディトラック専用の装置※で、トラックの側面から一括で荷物を積み降ろしするシステムは世界初※です。フォークリフトを使わずに荷積み・荷降ろしが可能になり、ドライバーの負担を軽減。作業時間短縮、トラック台数削減が期待できます。

※ トラックには、ベースパレットを載せるためにガイドレール・ストッパーなどの設置が必要。
※ ダイフク調べ

TRTS の構成は、トラバーサ（重量物を水平移動させる装置）、出荷コンベヤ、入荷コンベヤなど。トラックの荷台床面とほぼ同サイズのベースパレットを用いて、通い箱などを積載したパレットを移載します。
10t トラック向けシステムの場合、積載荷姿は幅 9,700mm×奥行き 2,400mm×高さ 2,500mm です。
TRTS は、独自のセンシング技術やパレット構造により、トラックに荷物を移載する際に生じる荷台の浮き沈みの問題を解決。積み荷が荷崩れしないように、ベースパレットを水平に保ちながら搬送します。



TRTS の主な構成

導入の効果

TRTS は、フォークリフト作業を不要にするとともに、積み降ろし時間を大幅に短縮することで、トラックの停車時間を短縮します。トラックの稼働率向上や、トラックの運行台数・ドライバーの人数の最適化にもつながります。
物流現場での人手不足やドライバー不足は大きな課題となっており、自動化のニーズはさらに高まると考えられます。ダイフクは、幅広い業界からの要望にお応えし、システムをご提供できるように取り組んでまいります。

導入前：フォークリフトを使った従来の積み降ろし

積み降ろし時間 40 分

荷降ろし場所でトラックのウイングを開け、通い箱を積載したパレット 32枚※（16 枚×2 段積み）をフォークリフトで降ろす。ウイングを閉じて荷積み場所に移動し、再度トラックのウイングを開けて出荷品をフォークリフトで荷積みする。トラックの到着から出発までの所要時間は 40 分。納入先 3 件に対し、トラック 5 台で運用していた。

※ 10t トラック、パレットサイズ 1,100mm×1,100mm の場合。

導入後：フォークリフト作業が不要に、積み降ろし時間を大幅に短縮

積み降ろし時間 10 分

トラックのウイングを開け、作業者がボタンを操作すると、TRTS がセンサでトラックの停止位置・荷台の高さを検知。トラバーサがトラックの真横まで移動し、通い箱を積載したパレット 32 枚が載ったベースパレットをフォークで引き出し、トラバーサ上に引き受け、入荷コンベヤに払い出し、荷降ろしが完了。次に、出荷コンベヤに待機していた出荷品のパレットを、入荷と逆の流れで積み込む。
積み降ろし作業が 1 カ所で行えるようになり、所要時間は 10 分に短縮。フォークリフト作業が不要になったことに加え、トラックは従来より 1 台減の 4 台で運用が可能になった。

① 入荷パレットをトラックから一括で、自動荷降ろし。

② 入荷パレットをコンベヤへ払い出した後、出荷パレットを搬入。

③ 荷降ろしと逆の動きで、自動で出荷パレットをトラックへ積み込み。

株式会社ダイフク　広報部　東京都港区海岸 1-2-3 〒105-0022　Tel 03-6721-3506　www.daifuku.com/jp/

オカムラの物流システム機器

豊富なノウハウとアイテムを活かし、物流システムをトータルにサポート。ロジスティクスの合理化を追求しつづけるオカムラは、様々なお客様とともに実践を通して、つねに新しい物流システム機器を開発しご提供しています。より「早く」「正確に」「安全な」物流作業を実現し、経営メリットを生み出すための物流システム改善のご提案から、ソフトウェアの開発、機器導入、運用支援、アフターサービスまで、トータルにお手伝いいたします。

◉自動倉庫（ロータリーラック・シリーズ）

ロータリーラック V2
多用途の垂直回転棚。

ロータリーラック H〈自動入出庫タイプ〉 −30℃冷凍対応
多品種・高頻度に対応する、高速入出庫タイプの水平回転棚。

◉自動倉庫（スタッカークレーン・シリーズ）

バケットスタッカー
高速スタッカークレーンを使用した、バケットタイプの立体自動倉庫。

カートンスタッカー −30℃冷凍対応
多様なサイズのカートンケースに対応した自動倉庫。

パレットスタッカー −30℃冷凍対応
パレット品の定番立体自動倉庫。

◉ロボットストレージシステム

オートストア
グリッド上のロボットが高密度に積み上げられたビン（コンテナ）の入出庫を行うロボットストレージシステム。

◉パレットストレージシステム

サイビスターシリーズ
パレット品を高密度保管し、入出庫作業を効率化するシステム。運用に応じて、自動倉庫タイプ・フォークリフトタイプをラインナップ。

◉搬送機器

ゼノロールコンベヤ −30℃冷凍対応
清潔・静か・自由自在・ユニークな駆動方法のローラーコンベヤ。

パワーロールコンベヤ
モーターローラー駆動の省エネコンベヤ。

ラビロールライトコンベヤ
アキュームレーションタイプと高速搬送（120m/分）タイプを品揃え。

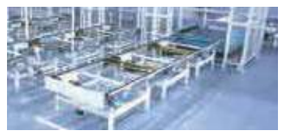
ライトローラー
設置・移動が簡単。簡易制御機能付コンベヤ。

OCS
（オーバーヘッド・コンベヤ・システム）
独自機構による天井搬送システム。クリーンで静かな搬送を実現。

ORV
（自律移動ロボット カゴ車搬送タイプ）
カゴ車を自動で把持し、自らルートを生成してガイドレスで搬送。

バーチカルコンベヤ
多層間を垂直に連続搬送。

パレットトラバーサー
パレットタイプの高速搬送システム。



チェーンコンベヤ
重量物の移動搬送コンベヤ。

◉仕分け機器

ラインベルトソーター
信頼性を追求した高品質のケース用ソーター。能力やレイアウトに合わせて 3 タイプを品揃え。

クロスベルトソーター
小物から中物まで高速仕分け。

◉ピッキングシステム

ライトピック
独自のグリッパーと AI によるマスターフリーで幅広い商品をピッキング。

ロボットストレージシステム

AutoStore

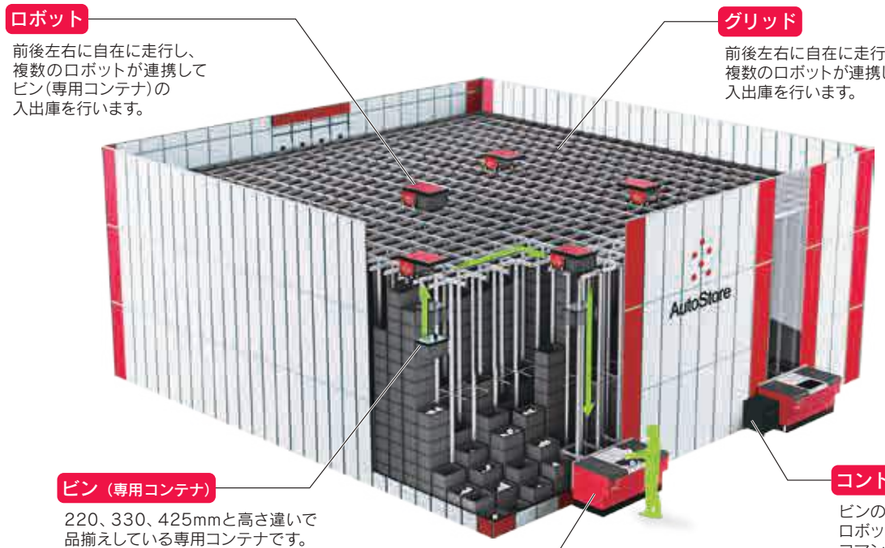
オートストア

AutoStore

究極のスペース活用。そして人にやさしく、省力化。

オートストアは、格子状に組まれたグリッド内に、ビンと呼ばれる専用コンテナを高密度に保管。グリッド上をロボットが走行し、作業者が待つポートまでビンを搬送します。保管効率と生産性を高め、５つにモジュール化されたシンプルな構造で、既存倉庫への導入のほか、保管量の増加や要求能力に応じた拡張にもフレキシブルに対応します。

⊙システム概要



ロボット
前後左右に自在に走行し、
複数のロボットが連携して
ビン（専用コンテナ）の
入出庫を行います。

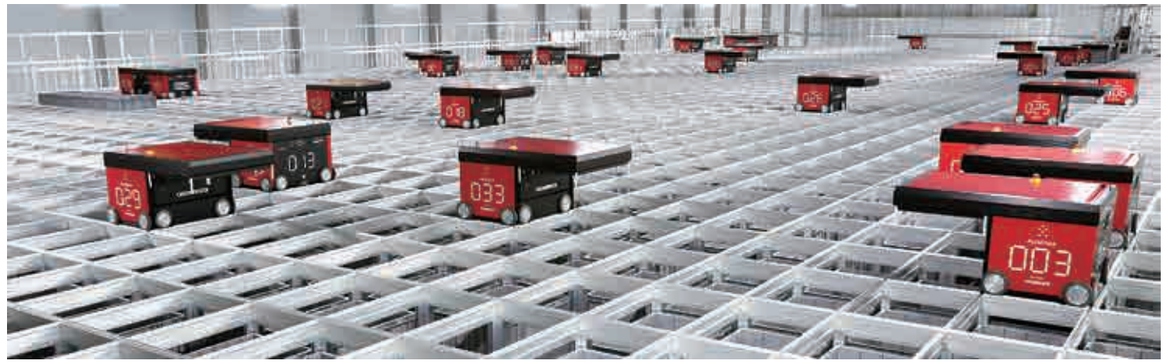
グリッド
前後左右に自在に走行し、
複数のロボットが連携してビン（専用コンテナ）の
入出庫を行います。

ビン（専用コンテナ）
220、330、425mmと高さ違いで
品揃えしている専用コンテナです。

ポート（ワークステーション）
入出庫作業を行うワークステーション。
要求能力や用途に応じたラインナップがあります。

コントローラー
ビンのロケーション管理・
ロボットへの入出庫指示を行う
コマンドセンターです。

オートストアの
詳細はこちら

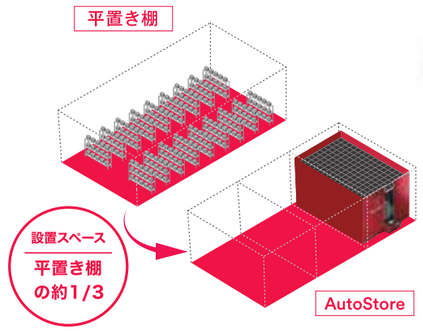


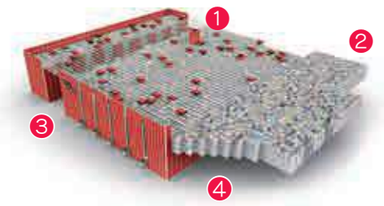
⊙オートストアのメリット

高密度保管と自由なレイアウト

ビンを隙間なく積み上げて収納する構造のため、通路スペースが不要で、上部空間も有効活用できます。

また、柱まわりなどのデッドスペースを極限まで減らし、建屋の形状に合わせた、無駄のないレイアウトを構築できます。





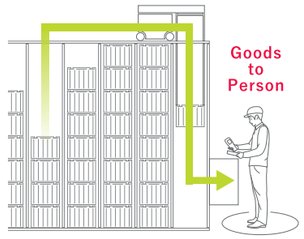
レイアウト例

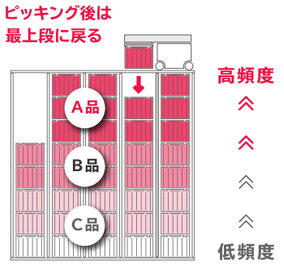
❶ 柱を囲んだレイアウト
❷ 張り出しレイアウト
❸ トンネル状のレイアウト
❹ 多角形や床の段差があるレイアウト

作業・稼働効率を向上させ生産性を大幅にアップ

作業者は定点で負担なく、ピッキングできます。探索・歩行時間がなくなり、作業効率が大幅に向上します。

さらに入出庫を繰り返していくことで、高頻度品はグリッドの上層へ集積されていき、出庫時間が自然と短縮。ロケーション管理も不要です。





⊙ケーススタディ

国内最多の納入実績

オカムラは、2016 年よりオートストアの正規販売店として国内への導入を開始。人手不足やスペース不足など、さまざまな業種・業態の課題改善に貢献しています。オカムラは、豊富な国内納入実績のもと、オートストアのスペシャリストとしてお客さまに最適なご提案をいたします。

■ インテリア雑貨

■ 電子部品

■ 生活用品

■ アパレル・靴

■ OA 機器

■ 機械工具

■ 食品・雑貨

■ 電気機械器具

■ アパレル・インナーウェア

■ 釣具

３次元ピッキングシステム

Skypod

スカイポッド

Skypod ロボットは、倉庫内を前後・左右・上下と縦横無尽に移動する３次元走行ピッキングシステム。最大高さ 12m のラックからビン（専用コンテナ）を自動で取り出し、短時間でピッカーのいるステーションへ搬送します。保管されているすべての商品をコントロールし、Web 注文で瞬時にロボットへと指示を出します。指示を受け取ったロボットは速やかに商品を取り出します。Goods to Person 方式を採用、ピッカーはステーションから動くことなく、作業に集中できます。これにより約５倍もの速度で荷詰め作業を行えるようになりました。

⊙Skypod の基本機能

❶ビンへの荷物の補充

ビンへのアイテム補充は、ピッキングステーションまで搬送されてきた空ビンにアイテムを入れるだけ。在庫管理は Skypod の独自ソフトウェアが自動で行います。

❷ビンから荷物の取り出し

Skypod ロボットがピッキングステーションまでビンを自動搬送してくるため、ピッカーは移動することなくピッキング作業を行うことができます。

❸モニターにピッキング情報が表示

モニターにピッキング情報が表示されますので、ピッカーはモニターの指示通りに ピッキングを行うだけで完了します。

⊙Skypod のメリット

●設備スペースの削減

平棚倉庫は荷物を格納する棚の高さが人の手の届く範囲となるため、天井にデッドスペースがありました。Skypod ではロボットが自動で棚を昇降、荷物を取り出すので、高さ 10m まで商品を格納することができ、デッドスペースを削減することができます。

●歩行距離や時間を短縮

Skypod で歩く時間、商品を取り出す時間が大幅に短縮され、作業者はロボットが運んでくる商品の確認をする業務だけで済むため、作業のスピードアップと効率化が実現します。少人数で従来の作業量が可能になるため、人件費削減にもつながります。

●物流業務の可視化

ロボットに指示・管理するソフトウェアで最大 100 台まで、Skypod ロボットに指示・管理ができます。在庫管理だけでなく、出荷用の空きコンテナの供給・ピッキング完了コンテナの供給・排出を自動化でき、物流業務の可視化が実現します。

●生産性アップが可能

Skypod のピッキング速度は、1 ステーションあたり 1 時間で最大毎時 400 行。複数商品を区分けして運ぶことができ、ビンの最大積載量は 30kg で、毎分 240m で走行することが可能です。Skypod を導入することで、人力とは比べ物にならないほどの作業効率が向上します。

●作業ミスの抑止/物流品質の向上

従来はピッキングリストに記載されている商品名と数量を何回も確認し、倉庫内から商品を探すにはとても時間がかかるうえ、手作業のため正確さやスピードはすべて作業者に依存していました。Skypod 導入で作業の標準化ができるため、ピッカーのスキルに依存しない環境を構築できます。

●優れた拡張性

Skypod ロボットの台数やシステム規模は、倉庫サイズに応じて柔軟に変更できます。将来の増設設計にも容易に対応するなど、お客様の事業規模拡大・事業成長に合わせて進化する拡張性を備えています。

●ロボットによる自動急速充電

Skypod ロボットは 1 時間に一度、ブースター（急速充電ステーション）へ自ら向かい、急速充電を行います。ピッカーによる充電作業の手間が省け、作業の効率化を実現します。

●ピッキングロボットとの組み合わせ

Skypod はピースピッキング・ロボットとの組み合わせも可能です。これによりさらなる省人化・効率化が実現できます。

株式会社 IHI 物流産業システム　東京都江東区豊洲３丁目１番１号 〒135-0061
TEL 03-6204-7231　FAX 03-6204-8689　http://www.ihi.co.jp/

荷姿自由な棚搬送 GTP を多層化し、収納力を高めた自動倉庫

多階層ロボットストレージシステム

さまざまな現場の搬送を手掛けてきたシャープが提案する荷物保管ソリューション。
今までの自動倉庫が苦手とする荷物も扱います。

⊙多階層ロボットストレージシステムは、このようなお悩みを解決します。

倉庫の保管スペースを増やしたい

フロアに平置きしていた荷物を、階層化したロボット走行路に配置。ピッキングステーションと、ロボットを上下に搬送する垂直搬送機が備わっており、ロボットが商品棚やパレットを搬送・保管します。上部空間をうまく使えていなかった倉庫において、保管効率を高めつつ搬送と保管を自動化できます。

ピッキングの生産性・効率を向上したい

ロボットが荷物の入った棚やパレットをピッキングステーションまで運ぶため、作業者は必要な荷物を探して倉庫内を歩き回ることが不要になります。また、ピッキングステーションではプロジェクタや DPS（デジタルピッキングシステム）による指示で作業をすることで、ピッキングミスを削減できます。

下層部も上層部もお客様の荷物に合わせて柔軟にレイアウト
大型・不定形品や、荷動きの多い少量多品種品から大量出庫品など、
特性の異なる荷物の荷合わせや入庫作業が得意なシステム

⊙多階層ロボットストレージシステムの特長

自由な荷姿の荷物を取り扱える棚搬送 GTP の強みを活かして多階層化

棚搬送 GTP は搬送物の荷姿が自由なため、大小異なる荷物や建材など、従来の自動倉庫専用ケースに入れられない荷物の取り扱いができます。また、パレットに積載した大量品など、小分けにして自動倉庫専用ケースに入れると効率が悪くなるような荷物もパレットのまま扱えるため、少量多品種品を保管した棚などと、これら特性の異なる荷物を同じ多階層ロボットストレージシステム内で荷合わせすることができます。また入庫作業時は、入庫用の棚を周りに並べ複数間口に同時にアクセスすることで効率的に作業できます。これら棚搬送 GTP の特長を活かしつつ階層化による高密度保管を実現します。

ハンガーラック

荷姿そのままの小箱

前開きコンテナ

長尺部品

大型部品

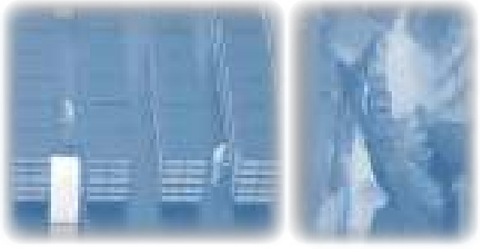
パレット

特性の異なる荷物の荷合わせが可能

入出庫に適した形に荷物のロケーションを自動で再配置
上層部が平面のため BCP（事業継続計画）対策にも有効

荷物の特性と入出庫の作業に合わせて、荷物をどこにレイアウトするかをシステムが自動で判断。必要に応じて、夜間などに最適なレイアウトに変更。多台数 AGV の同時制御により搬送を最適化しスループットを向上させます。
非常時は、作業者による荷物の取り出しが可能なロボット走行路を上層部に採用しており、下層部と同じように歩行が可能なため BCP（事業継続計画）対策にも有効なシステムです。

荷物の特性や作業に合わせてシステムがレイアウトを変更


非常時は上層部の歩行が可能なため、人手で荷物を取り出し可能
※本システムに梯子は含まれません
　また、システムが完全停止しているとき以外は立ち入りできません

⊙導入・活用事例

- 多階層ロボットストレージシステムをご導入いただきましたお客様の詳細はこちら。
  https://jp.sharp/business/case/agv/agv_detail_10.html
- 実際の現場を見学いただけます。是非お問合せください。
- 棚搬送 GTP も、多くの現場に導入いただいております。

⊙開発から生産、サポートまで、すべて日本国内で完結

- 開発から生産まで一貫して日本国内でおこなっております。
  数多く、さまざまな現場に合わせた工程設計や設備を立ち上げてきたシャープだからこそできる提案があります。
- 導入後の保守サポートは、全国 137 カ所（2024 年 10 月）あるシャープマーケティングジャパンの拠点よりおこなっております。
- 自動化に関し、導入前提でないご相談でも歓迎ですので、まずはお気軽にご相談ください。https://jp.sharp/business/agv/inquiry/

シャープ株式会社 奈良事業所 ロボティクス事業統轄部　〒639-1186 奈良県大和郡山市美濃庄町 492 番地
AE_SALES_PROMOTION@sharp.co.jp　https://jp.sharp/business/agv/

マテハン機能別モジュール（ブロック）を組合せて構築するソーティングシステム

id SORTER®

既存スペースで、仕分け作業の自動化ができる！
人手不足の対策！現場スタッフの働き方改革！生産性の向上！

伊東電機は、工場や物流センターで物品を搬送するコンベヤ駆動にかかせない、モータ内蔵ローラ（MDR：Motor Driven Roller 商品名パワーモーラ）のトップメーカーです。
MDR と制御技術をコアとしたオリジナルコンセプトのマテハン製品による搬送ソリューションをお届けしています。

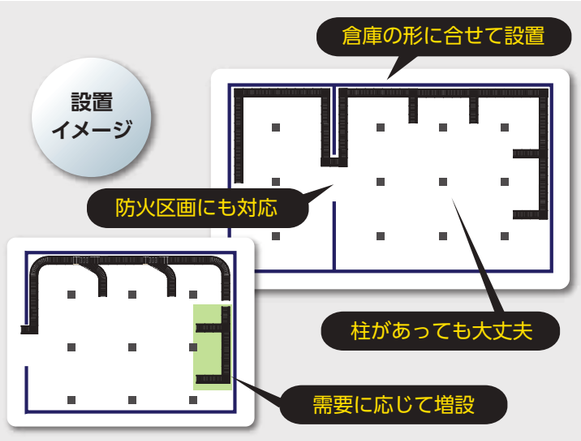
全て id PAC POINT AND CLICK
DC24Vブラシレスモータ駆動
劇的に簡単に
搬送ラインを構築する
オリジナル技術

マテハンの万能細胞
基幹駆動源の
MDR
POWER MOLLER 24
MDR -Motor Driven Roller-

静　音　**エアーレス**　**安　全**　**省エネ**　**品質向上**

⊙マルチテナント型物流施設に最適！短工期で導入できる！

id-SORTER はコミットレベルに分解＆組み替え、再利用が可能なため契約スペース・期間に応じたレイアウトや移設が簡単にできます。
従来の重厚長大システムのように、システムのサイズに合わせて設置スペースを確保する必要はありません。
完全エアーレスシステムで、コンプレッサなどの配管工事が不要です。
撤去時の原状回復が簡単です。



プラグ&プレイで即可動

配線は通信ケーブルと電源線のみ
電気配線・制御配線工事の時間・コスト削減

接続するだけで即稼働

完全エアーレスシステム

エアー配管工事が不要で、
安全かつ環境に配慮したシステム

CO_2排出量削減

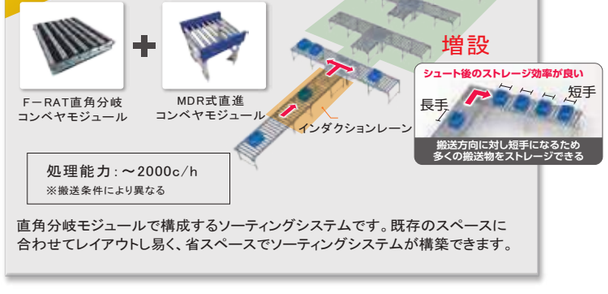
⊙ベースモデル

ハイスピード&フレキシブル タイプ
id SORTER ZONE SORT -M5000

処理能力：～6000c/h
※搬送条件により異なる

MABS(マルチアングルボールソーター)モジュールで構成するソーティングシステムです。独自構造のボール首振りで、様々な搬送物に対応し高速性を追求したタイプです。

スペースセービング&フレキシブル タイプ
id SORTER ZONE SORT -F2000



処理能力：～2000c/h
※搬送条件により異なる

直角分岐モジュールで構成するソーティングシステムです。既存のスペースに合わせてレイアウトし易く、省スペースでソーティングシステムが構築できます。

搬送プログラム搭載
ソフトとハードを融合させた標準モジュールを組み合わせ自動化ラインを構築する技術

id PAC®

自由自在に自動化ラインを構築！
移設・増設・レイアウト変更も可能！失敗しない導入！

伊東電機株式会社のMDR式マテハンは 柔(じゅう)・拡(こう)・短(たん)・省(しょう)
「柔軟性」「拡張性」「短工期」「省エネ」

近年、従来の重厚長大な大型の据え付けシステムではなく、軽薄短小システムが求められています。
伊東電機は更に進化させ、増設・レイアウト変更が簡単に行える「柔軟性」と「拡張性」を備え、短工期で導入ができる「短工期型」、環境に配慮した「省エネ型」の「柔・拡・短・省(じゅうこうたんしょう)システム」をご提供します。

⊙マテハン機能別モジュール ラインナップ

加速・減速、省エネ搬送など
最適搬送を実現

MDR式 直進 コンベヤ

マルチに仕分け
直角分岐

2021年 関西ものづくり新鋭 選定
第46回 発明大賞 受賞

F-RAT-NX75 Neo-CrossOver

搬送物を上下動させず、
衝撃や振動を加えない
フラットでシンプルな直角分岐装置です。

前後・左右・斜め
方向へ高速仕分け

2023年 関西ものづくり新鋭 選定
第48回 発明大賞 受賞

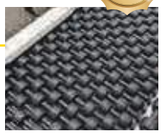
MABS Multi Angle Ball Sorter®

独自技術の仕分け用
ボールが任意の角度で回転し、搬送条件に
合わせて、適切な角度で仕分けを行います。

搬送物に優しく、
静音・衝撃吸収搬送

第29回 日本MH大賞 特別賞

FNR Flexible Noiseless Roller
フレキシブル・ノイズレス・ローラ



独自開発の衝撃吸収ローラをMDRで駆動させています。EC物流で増える小物・軟包装品に最適です。

小物品の仕分け作業を自動化！

FNS フレキシブル・ノイズレス・ソーターモジュール

分岐用樹脂ローラが
任意の角度で回転し最適な仕分けを実現。

MDR式自動
オープンゲート

SOG Slide Open Gate

MDR式の電動スライド方式で、
跳ね上げコンベヤの様に負担がなく、
安全で簡単に動線確保ができます。

⊙納入事例

日用品の配送センター

自動車部品の物流センター

教材出版社の物流センター

MDR式マテハンショールーム
INNOVATION Center

搬送テスト承ります。

見学のお申込みはこちら

イノベーションセンターは、MDR（Motor Driven Roller）とそのソフトウエア技術を駆使した製品群を展示する「見る・触る・体感する」MDR式マテハンショールームです。
「ちょうど良い、かゆい所に手が届く、失敗しない、直ぐに導入ができる」MDR式マテハンのソリューションをご提案いたします。

物流作業支援システム

デジタルピッキングシステム

表示器を利用したピッキング支援システムです。作業者は、ペーパーレスとハンズフリーで光っている表示器を目指して作業対象ロケーションを確認し、作業を行います。

MWU シリーズ

脱着用フックにより、頻繁に間口レイアウト変更がある場合、カバーが無く、また着脱が簡単な為、位置変更が簡単にできます。取付ベースを変えることでアルミベースで連結取付、平棚取付、パイプ取付と３種類の取付方式に対応します。

- 仕切りが無く間口間の移動が簡単
- 防滴構造（表面のみ）

※アルミベース

※平棚取付

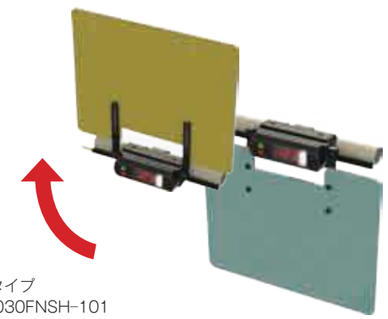
※電子ペーパー　センサー付

※パイプ取付

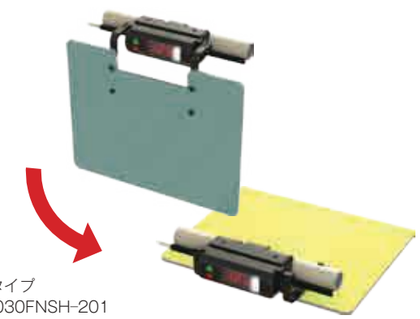
※拡張センサーユニット

MWU ポカヨケゲート表示器

ピッキング指示をシャッターとランプで知らせます。開いたところに指示数の商品を投入する為仕分けミスを限りなく“ゼロ”に近づけることができます。種まき・摘み取りどちらでも対応可能です。NFC 通信でアドレス設定や開閉角度・速度・遮断時間等の調整ができる最新機能を搭載しています。（スマートフォン・HHT 対応）



前開きタイプ
MWU2030FNSH-101



奥開きタイプ
MWU2030FNSH-201

SAS（シャッターアソートシステム）

SAS（シャッターアソートシステム）はポカヨケゲート表示器を活用し仕分けミスゼロを目指し、種まき・摘み取りどちらでも対応可能な小口仕分けシステムです。

紹介動画がご覧いただけます。

JW シリーズ

ロングセラー製品で豊富な種類があります。廃棄焼却に有害ガスが発生しない素材を使用しており、汎用性が高いリサイクルダクトタイプです。

- 平棚、パイプラックいずれにも設置可能
- 信頼性の高い豊富なラインアップ
- 簡単に分離でき資源のリサイクルが可能
- プラスチックダクトは廃棄焼却時に有毒ガスが発生しない素材を使用

MW シリーズ

脱着用フックにより、頻繁に間口レイアウト変更がある場合、カバーが無く、また着脱が簡単な為、位置変更が簡単にできます。

- 仕切りが無く間口間の移動が簡単
- 防滴構造（表面のみ）

NW シリーズ

自由に設置したい、ケーブルを無くしたいという要望に対応した無線型表示器です。コンテナ、カート、カーゴテナーなどに装着して移動が可能です。

- 5 人同時作業が可能なタイプ有
- 固定の必要なく自由に設置可能

NW2974N/NS

SW シリーズ

小物に適したコンパクトタイプのライトモジュールです。
視認性も高く小物などの小さい間口でもミスのないピッキング作業を支援します。

- 平棚、パイプラックいずれにも設置可能
- 小物に適したなコンパクトタイプ
- 簡単に分離でき資源のリサイクルが可能
- プラスチックダクトは廃棄焼却時に有毒ガスが発生しない素材を使用

UHF RFID リーダー搭載表示器

RFIDの読み取りが可能な為、ピッキング・仕分け作業のおける物品管理や作業者がID TAG を使用することで、作業者特定による人の管理が可能となり、トレーサビリティを構築でき、品質の向上につながります。

- CONFIRM ボタン押下動作の簡略化（ピッキング・仕分け作業のみでボタンを押す工程が不要となる）
- ID TAG を使用し間口のポカヨケを実現（作業ミスを削減）
- RFID TAG 付商品の場合、表示器に内蔵された RFID リーダーで商品のカウントが可能

NW2978N　　NW2979N

見えるRFID

Smart Tag/Smart Card

NFC（非接触近接通信）搭載で必要な表示情報を非接触で自由に書き換え可能。バーコード、QRコード等の二次元コードも表示可能で、スマートタグ・スマートカードを情報媒体とし、生産管理システム、物流システム、製造業では工程管理、カンバンなど必要な情報を提示、ネットワークを介して、様々な情報を共有し、作業の見える化、DX化のマストアイテムとして普及が進んでいます。

⊙IoTのメディアとして

書き換える時だけ微弱電力が必要で書き換え後は電力なしで表示できる電子ペーパーを使用した「見えるRFID」です。非接触近接通信（NFC）によりテキスト、グラフィック、バーコード等の表示内容を書き換えることができ、バーコードは市販のスキャナーで読めるので既存のシステムにもすぐに導入可能です。UHF帯対応のスマートカードは遠距離からのID読取りが可能で複数枚のID同時読み取りも可能です。

製品紹介動画がご覧いただけます。
【Youtubeに接続します。】

⊙製造・物流現場のさまざまシーンで活用できる表示付きRFID

Smart Tag（ST1129U/ST1129L）

高速に文字の書き換え可能

ST1129U　ST1129L

- ☑ 防水防塵対応　:IP55準拠
- ☑ 画素数　:296×128pixels
- ☑ UHF通信距離　:最大読取距離約1.5m
- ☑ 外形寸法2.9L　:W93×H57×D8
- ☑ 外形寸法2.9U　:W99×H63×D8

用途

高速書き換えが可能な為、コンベア等マテハン機器との組み合わせに最適

Smart Card（SC1029U/SC1029L）

堅牢なプラスチック製で防塵防水、薄型タイプ

SC1029U　SC1029L

- ☑ 防水防塵対応　:IP56準拠
- ☑ 画素数　:300×200pixels
- ☑ UHF通信距離　:最大読取距離約3m
- ☑ 外形寸法2.9L　:W85.6×H54×D3.65mm
- ☑ 外形寸法2.9U　:W95.2×H60.9×D3.95mm

用途

テキストだけではなくバーコード、QRコードなども表現でき、コンテナラベルにも最適。プラスチック製で製造指図書・電子化が可能。工程管理にも運用できます。

アイオイ独自の省配線ネットワーク

AI-NET

省配線ネットワークは、導入にかかる時間・費用・労力を抑え、導入後のメンテナンスやレイアウト変更のコストを抑えることができます。さまざまなデバイスをマルチドロップで接続できるので、システム構築の観点からも汎用性の高いネットワークシステムです。

●AI-NETチップ

2線で電力とデータを送ることができる通信チップAI-NETチップを開発しました。このチップには、2線のトランシーバー・レギュレーター回路・リセット回路・ゲートアレイ・マイコン・ウォッチドッグ等がひとつに収められています。

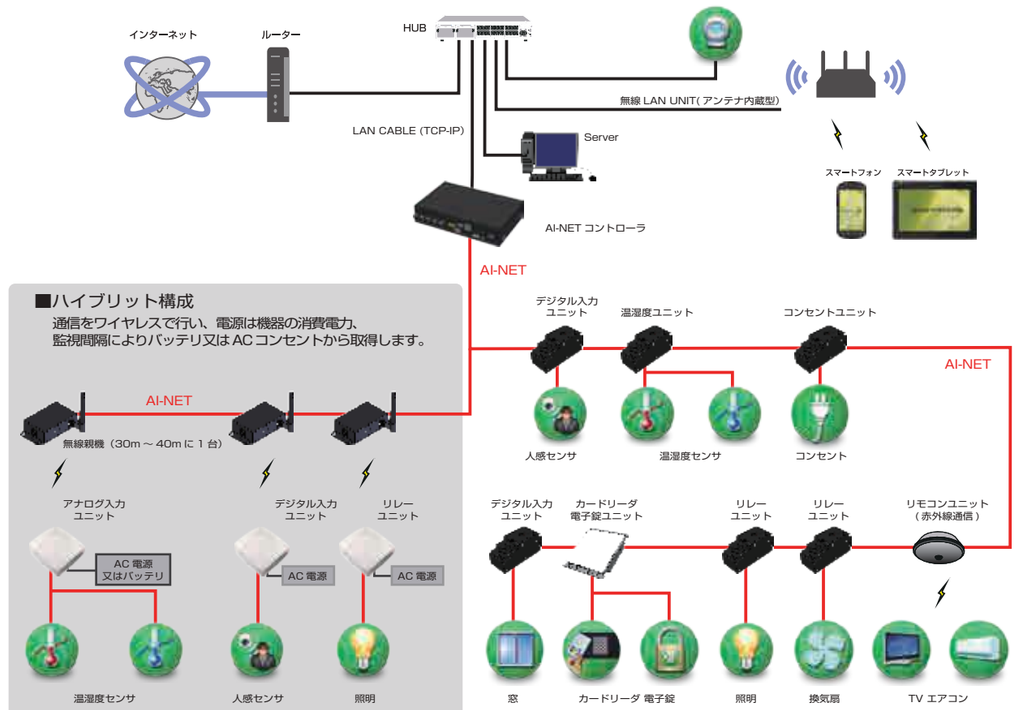
●2線で電力とデータを送ることが可能

AI-NETチップを搭載したユニットは、すべて2線で電力とデータを送ることができます。これにより従来の2分の1以下の配線量で各ユニットを接続できるようになりました。また、2線には極性がないため、接続時に極性ミスをすることなく、誰でも安全・スピーディに機器の接続ができます。

	RS-422、RS-485等	AI-NET	AI-NETのユーザーメリット
芯数	4芯（電源、GND、S+,S−）	2芯（電力、データ）	配線が1/2になるため施工コストを低減できる
極性	あり	なし	ライトモジュールの接続が簡単。逆さまに取付しても壊れない
電源	直流	交流	ノイズ（雷、静電気等）に強い

⊙AI-NETを使用したデバイスネットワークシステム［施設・設備運用管理システム　SmartAI］

SmartAIは、省配線ネットワーク「AI-NET」を使用した汎用デバイスネットワークシステムです。各種センサーやアクチュエーターと接続し、照明のON/OFFやドア・窓の開閉、空調などをサーバー（またはクラウド）で統合管理。スマートフォンまたはタブレットPCで監視・制御することができます。



物流作業支援システム

プロジェクションピッキングシステム®

プロジェクターを活用したピッキングシステム。間口が小さく表示器が設置できない保管棚やロケーションが頻繁に変更される保管棚等はもちろんFAの運用にも最適。組み立て作業支援としても活用できます。また、センサ・画像認識技術でポカヨケを実現。多様な情報表示が可能です。

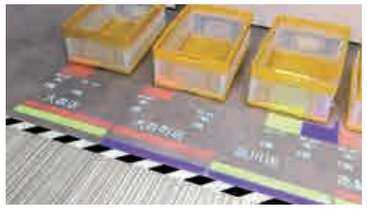
FA/DA/調剤薬局など様々な分野で利用されています

光ったところからピッキング

画像認識技術でポカミス防止

床面照射タイプ

棚がない通過型配送センター等、何もない床面にピッキングや仕分け指示を投影することが可能
プロジェクターを天井に埋め込みや外カバーでの対応で、冷凍エリアでも結露の心配なく、プロジェクターが使用可能
何もない床面で作業をするため、作業後の清掃が簡単で、いつも清潔な環境を維持することが可能



ピッキングや仕分け指示を投影
何もない床面で作業が可能

プロジェクターによる投影
工事が簡単・配線が不要

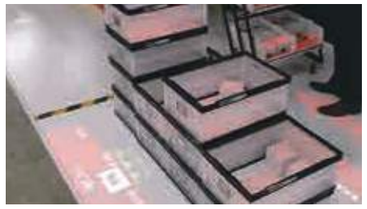
現場に合わせて投影情報を
自由にカスタマイズ可能

深度が測れる 3D センシングタイプ

検知したい対象物に複数のセンサやカメラ設置の必要があったが、上部に設置するだけのシンプル構造
深度を測定できることから、対象物との距離の計測が自動で可能
棚や平置き問わずで使用ができ、傾斜のある投入先でもポカヨケ設定が可能

プロジェクターで作業指示を照射

床面照射に3Dセンサを組合わせた
ピッキング・仕分け作業システム



高さの違う仕分け場所でも
3Dセンサ技術でポカミス防止

GTPソリューション

ポカミス防止、人手不足と作業者負担軽減、作業時間短縮等常に抱えている問題を解決するためには、他のシステムと連携することでより一層の効果が得られます。リフトアップAGVで目的の棚を搬送し、運ばれてきた棚にプロジェクションピッキングシステム®とシャッターアソートシステムSASで作業を行うAGV連動型仕分けソリューションをご紹介します。

AGVが自動搬送するため作業者の歩くという労力を
軽減でき、商品棚を覚えて探す必要もありません。

● AGV
（無人搬送車）
ピッキング棚を所定の位置、ピッキングステーションに移動させます。

● PPS®
（プロジェクションピッキングシステム®）
移動してきた棚のピッキング個所を照射します。
ピッキングミスは棚全体が赤く光りエラーを教えてくれます。

● SAS
（シャッターアソートシステム）
PPSで商品をピッキングすると、仕分け間口の表示器が点灯しシャッターが開きます。

こんな現場に・・・

- 小ロット生産により作業手順の教育に課題を抱えている現場に
- 誤品欠品など品質に課題を抱えている現場に
- 作業ステーションをコンパクトにしたいと思っている現場に

物流作業支援システム

D P S デジタルピッキングシステム 事例紹介

アイオイ・システム製デジタルピッキングシステム（DPS）は、商品・部品などを取り扱う作業支援システムなど、さまざまなシステムに活用されています。ここでは、各種のピッキング作業支援システムとして採用されているDPSの導入事例を紹介します。DPSではリスト作業に比べ、平均して作業スピード約２倍、精度では約10倍の向上結果を得ています。

⊙誰でも簡単作業！ 作業効率17％UP＋作業人員削減

コンベアを組み合わせて歩行動線の短縮を実現したDPS

⊙入社当日から即戦力！ DPSによる運用で生産性UP

入社当日から即戦力として対応でき、生産性が大幅改善

⊙生産性向上と作業レベルの平準化により、物流コストの抑制

デジタルピッキング表示器約1,600台で一斉に行うピッキング作業

プロジェクションピッキングシステム® 事例紹介

⊙部品の誤組にPPS®を活用

部品の配膳に関して注意事項を別途表示させて配膳ミスを防ぐ、間口の取り間違いは音と光でエラーを警告

事例動画はこちらから

物流作業支援システム

D A S デジタルアソートシステム 事例紹介

アイオイ・システム製デジタルアソートシステム（DAS）は、商品・部品などを取扱う作業支援システムなど、さまざまなシステムに活用されています。ここでは、各種の仕分作業支援システムとして採用されているDASの導入事例を紹介します。DASではリスト作業に比べて平均して作業スピード約1.5倍、精度では約20倍の向上結果を得ています。

⊙大物仕分けに最適 ５人作業可能な無線表示器を活用

大物を取り扱うため、フレキシブル対応が可能な無線表示器でのDAS

⊙物流管理システムとSASを採用し、ポカミスの激減と生産性向上を実現

シャッター付き表示器により入れ間違いを防ぐデジタルアソートシステム

⊙パッケージソフト活用で作業改善

物量や得意先、作業人数に応じてDPS/DASのパッケージを切り替え、物量に応じた強い運用を可能に

プロジェクションピッキングシステム® 事例紹介

⊙ PPS®による仕分け

メンテナンス部品の仕分け作業をPPS®で効率化

事例動画はこちらから

株式会社アイオイ・システム　本社　東京都品川区南大井６丁目22-7　大森ベルポートＥ館９階 〒140-0013
https://www.hello-aioi.com

クラウド型倉庫管理システム

ci.Himalayas/R2

入出庫作業の効率化・在庫管理精度の向上に！

クラウド型 WMS売上シェア 13年連続 No.1

⊙概要

ci.Himalayas は、入庫、出庫、在庫、棚卸、請求など、倉庫管理に必用な機能が
約 210 以上標準搭載されたクラウド型の倉庫管理システムです。
複数拠点のデータを本社で一元管理、リアルタイムで正確なデータを把握し、適切な現場指示を出すことができます。
幅広い企業様にご採用いただき、クラウド型 WMS 売上シェア 13 年連続 No.1 を獲得しました。
※出典：*デロイト トーマツ ミック経済研究所株式会社 スマートロジスティクス・ソリューション市場の実態と展望【2024 年度版】

⊙機能のポイントと対応領域

製造ロット管理 / ロケーション管理 / 複数センター管理 / 入庫推奨ロケーション / 在庫状態管理
作業性を考慮した出荷バッチ編成 / 出庫作業に合わせたピッキングリスト / 作業範囲を限定した棚卸バッチ etc…

DC 型物流倉庫 ※DC：Distribution Center
TC 型物流倉庫 ※TC：Transfer Center
通販型物流倉庫

⊙特徴

❶標準機能が 210 以上

標準機能が充実しているから、スモールスタートにも最適！またお客様のご要望にあったカスタマイズも可能です。

❷各種データ連携実績多数

基幹システムとのデータ連携・上位下位のシステム連携から、マテハン連携に至るまで、豊富な実績を有しています。

❸幅広い業種業態に対応

出荷データ 1 日数百から10 万件規模のユーザー、単独拠点から数10 拠点のユーザーなど、規模や業種業態問わずご利用いただいております。

⊙導入実績

A·B·C / Asahi / OGAWA / Kits / Kubota / KOKUYO / KODAMA / サン インテルネット株式会社 / ZIP / シニアライフクリエイト / JAPAN TRANSPORTATION INC. / SHINKO Logistics / STARBUCKS / SONOKO / THAIMAX / TAKAIDO COOL FLOW / 地区宅便 / tokan / TOHAI / nissen GROUP / 日本アクセス / Housetec / FamilyMart / FUJIFILM Logistics Co., Ltd. / Beisia / MARUZEN / Mitsuishi / 三井物産流通グループ / 山田養蜂場 / LSE

⊙ラインナップ

- クラウド型 WMS『ci.Himalayas/R2』 ： 幅広い業種業態に対応
- 流通 WMS『ci.Himalayas/X』 ： 食品卸・流通事業に必要な機能が標準搭載
- 多言語版 WMS『ci.Himalayas/GLOBAL』 ： ASEAN に拠点をお持ちの企業様へ。6 か国語に対応

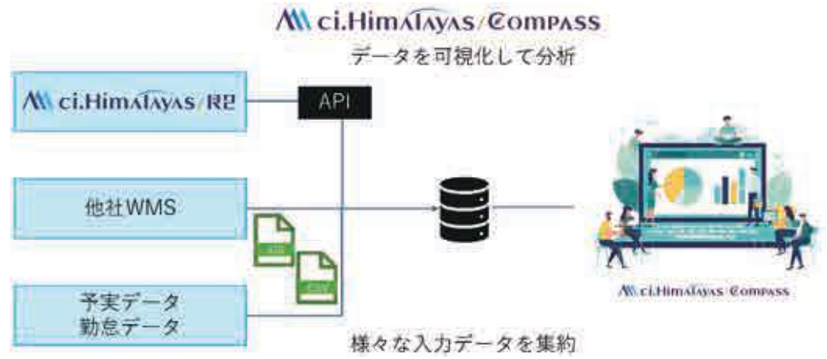
物流 KPI 分析アプリケーション

ci.Himalayas/Compass

WMS にある物流データの可視化に！

⊙概要

ci.Himalayas/Compass は、クラウド型 WMS トップシェアのシーネットが提供する、物流 KPI に特化した分析アプリケーションです。
誰でも簡単に使えるテンプレートで、難しい KPI の設定も不要。
様々な切り口から可視化し高度な分析も手軽にできるので、現場管理から経営戦略まで、多くのシーンでご活用いただけます。



多様な業種・業態におけるシステム構築の実績をもっているので、導入から最短距離で実務連動による目的の分析数値を抽出する効果的な構成に長けています。

⊙ POINT

❶物流 KPI の可視化

物流管理のための重要指標が、いつでも見られる！
蓄積されたデータを分析・把握し、問題点の早期発見を促します。

❷作業の効率化

自動集計！管理者様の、日々の作業が楽になります。
また、社内・荷主向けの定型レポートも作成可能です。

❸業務改善・経営戦略

蓄積されたデータを分析・把握！
改善に生かし、より良い経営を実現します。

⊙機能

作業生産性の把握 / ピッキングのタッチ率 / 在庫回転期間
出荷頻度ABC分析 / 在庫推移 / 欠品・未出荷

５つの指標で、物流 KPI を可視化。高度な分析もご相談ください。

⊙こだわり

「ci.Himalayas/Compass」は、専門家とお客様「7 組織」の意見と知見を反映させた物流 KPI 分析アプリケーションです。
お客様に実際に使っていただきながら、開発と改良を重ね本当に使えるアプリを目指しました。

【プロジェクトメンバー】
コナミ倉庫株式会社 / サン インテルネット株式会社 / ロジSP / 河合亜矢子教授 / bay cube c / C.Net

⊙ WMS 内外のデータを見える化！

「ci.Himalayas/Compass」は、KURANDO 社の「ロジメーター」との連携が可能です。
ボタン一つでデータを取得し、倉庫作業全体の可視化ができます。
WMS では管理していない作業（リスト対応、掃除など）などのデータも取得することができるので
より粒度の高い物流データを把握したい方におすすめです。

株式会社 シーネット
Tel 043-297-1582 Fax 043-297-1583 info@cross-docking.com https://www.cross-docking.com/

20 年を超え、進化し続ける クラウド WMS（倉庫管理システム）

ロジザード ZERO

稼働数 No. 1*！物流 DX・業務効率化を促進

⊙ロジザード ZERO が選ばれる理由

「ロジザード ZERO」は、クラウド型の WMS（倉庫管理システム）です。
豊富な導入実績で培った物流ノウハウにより、お客様をバックアップします。

卸や店舗配送などの BtoB はもちろん、EC（通販）の BtoC など幅広く対応可能な WMS です。
20 年以上物流現場のお悩みを解決してきた経験から、細やかなシステム対応・ご提案が可能です。

⊙毎日安心！ 365 日電話・メール対応のサポート体制

導入・稼働・運用において、お客様担当チームとサポート専任チームがサポートさせていただきます。
ご質問には電話・メールですぐにお答えいたしますので、お客様は作業を止めることなく運用していただけます。

⊙豊富な実績

国内全国各地のメーカー様・通販事業者様・3PL 事業者様にご利用いただいており、圧倒的な実績でクラウド WMS トップシェアを誇ります。

⊙海外対応

日本語の他、英語・中国語・タイ語・ベトナム語の多言語に対応しています。
現在では中国・台湾・タイ・シンガポール・ベトナム・フィリピン に提携した現地代理店があり、海外でも採用されています。

⊙ロジザードの各種サービス

ロジザードでは他にも、店舗の正確な在庫管理を叶える「ロジザード ZERO-STORE」や、ロジザードが信頼する物流倉庫様を完全無料（※紹介手数料や成果報酬など一切発生しません）でご紹介する「ロジザード・マッチン」など、各種物流現場をサポートするサービスを提供しております。

⊙ロジザードへお気軽にお問い合わせください。

詳細な機能等につきましては、お客様の運用に合わせてご案内いたしますので、お気軽にお問い合わせください。

ロジザード株式会社 東京都中央区日本橋人形町三丁目３番６号 TEL：03-4590-8101 Mail：inside-sales@logizard.jp
企業サイト：https://www.logizard.co.jp/ ロジザード ZERO サイト：https://www.logizard-zero.com/

物流センターソリューション
実行系

バス・トラックの物流業務をサポートする

デジタルタコグラフ・ドライブレコーダー 一体型 YDX-8
クラウド型新運行管理システム ESTRA-Web2

運輸業界の安全と省エネ運転を実現する商品として、1999 年 3 月に国内初となるデジタルタコグラフの型式を取得し、今日までに約 60 万台を販売してきました。
『YDX-8』は、安全・省エネ運転を目的とした運行管理、車両管理、連続運転や休憩時間等の労務管理機能に加え、ドライブレコーダー機能として最大 10 カメラの接続、高画質での映像記録を可能にしました。さらに、AI を利用した独自技術による画像認識機能を実装し、お客様の危険運転防止をサポートし、安全管理面を強化しています。
また、『ESTRA-Web2』は、デジタルタコグラフ・ドライブレコーダーで取得したデータをクラウド上で管理し、状況をウェブブラウザでいつでも閲覧いただけると共に、従来の『ESTRA-Web』に実装された各種機能のアップデートに加え、新たに IT 点呼システムを実装しました。さらに API 実装によりこれまで以上に外部システムとの接続性が向上し、物流業界・旅客業界を取り巻く環境変化に対するお客様の労務・安全管理、業務効率の改善をサポートします。

⊙『YDX-8』の主な特長

1　選択可能な運用方式
運用方式を車両単位で、SD カード／LTE 通信／無線 LAN ※から選択可能です。お客様の条件に合った最適なコストで運用いただけます。
※無線 LAN 方式は順次対応予定です。

2　カメラ数最大 10 個・高画質映像記録
前方のメインカメラ（240 万画素）1 台、オプションのデジタルカメラ（120 万画素）が最大 4 台、アナログカメラ（30 万画素）最大 5 台の合計で 10 台のカメラを接続できます。

3　ドライブレコーダーのカメラを利用した画像認識、安全運転サポート
従来の車間・車線認識や道路上の路面標識（制限速度、横断歩道予告、一時停止（止まれ））の画像認識機能に加え、信号機検知（赤信号侵入）やスマホ通話検知（運転中の通話）の機能を新たに実装しました。乗務員様の運転中の危険挙動を事務所へ通知することで管理者様がこれまで気づくことができなかった運転状況を把握することが可能です。

4　正確な車両位置情報をリアルタイムに把握可能
デッドレコニング（自律航法）対応の GPS モジュールの搭載により車両位置情報の精度が向上しました。また、事務所への車両位置情報の送信頻度を 1 分または 5 分から選択できます（1 分設定は有償オプション機能）。車両の走行軌跡や位置情報の正確性、リアルタイム性が向上し、より早く運行状況の把握ができるようになります。

5　多様な拡張性・外部連携機器
豊富なインターフェースを搭載し、衝突防止補助機器、タイヤ空気圧検知機器、庫内温度の管理機器など、従来製品よりも多くの機器と接続でき、お客様の多様なニーズに応じた運用が可能となります。

⊙『ESTRA-Web2』の主な特長

1　ウェブブラウザで利用可能
ログイン ID・パスワードを入力すればウェブブラウザ上で閲覧可能なため場所を問わず、パソコンやタブレット、スマートフォンなどの端末でデータを確認できます。

2　快適に使えるフレキシブルな閲覧・管理画面
カスタム設定可能なダッシュボードデザインを採用し、お客様がよく利用する機能・メニューを使いやすいレイアウトで配置することが可能です。危険運転や異常発生時のアラートコンテンツなどの重要性の高い情報を自在に配置でき、リアルタイムな情報管理を実現します。

3　利便性を高める機能の実装
従来システム『ESTRA-Web』に実装済みの各種帳票出力、運行解析、映像解析、動態管理の各機能に加え、下記の機能を新規に実装・強化しました。
- お客様の組織構造（最大 10 階層）に応じて、階層別のデータ閲覧・分析可能
- 運行データの検索機能を強化し、運行データ、映像データの閲覧スピードが向上
- 運転評価項目を自由に設定でき、お客様独自の安全運転評価で重点管理が可能
- ドライブレコーダーのリクエスト機能（記録された映像の取得）を強化し、操作性・閲覧スピードが向上

矢崎のフォークリフト向けドライブレコーダー

ＹＬＤ１　ＬＴＥ 版

LTE 通信による効率的な運用で、フォークリフト業務の安全と安心を守る

過去に発売した「YLD1　無線 LAN 版」に加え、あらゆる現場で使用できる LTE 通信を採用したフォークリフト向けドライブレコーダー「YLD1　LTE 版」を 2021 年 3 月 22 日から全国で一斉発売しています。
YLD1　LTE 版は、無線 LAN 環境の構築が困難な現場でも利用できる LTE 通信を採用しました。その結果、YLD1　無線 LAN 版の機能に加え、LTE 通信ならではのスピーディなデータ提供が可能となりました。今回のラインアップ追加により、お客様の運用環境に合わせて LTE 版と無線 LAN 版が選択でき、より多くのお客様にご活用いただけると考えています。

⊙主な特長

1　通信環境の構築が不要
車載器本体に LTE 通信モジュールが内蔵されているため、無線 LAN 環境がない、または構築することが困難なフォークリフトの運用現場に、新たに通信環境を構築することなくご利用できます。
※車載器を運用する構内に LTE 通信強度が確保されていることが必要です。

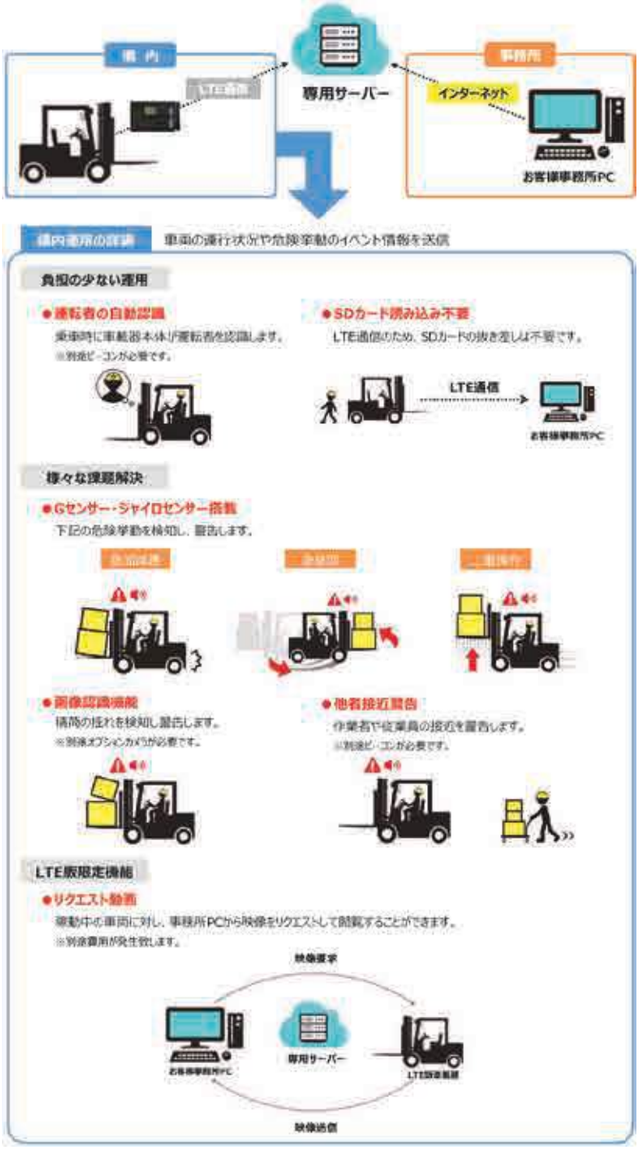
2　記録映像のスピーディな取得が可能（LTE 版限定の新機能）
稼働中の車両の SD カードに常時記録されている映像を、お客様の事務所 PC から選択して閲覧できます。この機能により、有事の際や緊急性が高い状況においても、遠隔操作で記録映像をスピーディに確認できます。
※ご利用の際は月額料金とは別で費用が発生します。

3　簡単操作
車載器本体の LTE 通信により、車載器本体に挿入された SD カードのデータが、専用サーバーに自動でアップロードされます。そのため、運転者は面倒な操作をする必要はありません。また、ビーコン（オプション）を使用することで乗車時に運転者を自動的に認識し、運転者別のデータ管理が可能です。

4　画像認識機能による危険警告
外付けカメラ（オプション）による画像認識により積荷の揺れを検知した場合に警告します。また、記録映像からフォークリフトの稼働状況及び、作業の安全状況を確認・解析できます。それにより、フォークリフトの事故防止等の安全管理と、万が一事故が発生した際の解析が可能になります。

5　自動レポート作成
サーバーにアップロードされたデータに基づき安全・効率・管理に関するレポートを自動作成できます。また、運転者・車両ごとの“ヒヤリハット”発生件数を一覧で確認できるほか、事業所内で情報を共有することで会社全体の安全運転教育等に活用できます。

⊙全体構成イメージ図



矢崎エナジーシステム株式会社　本社　東京都港区港南 1-8-15 Wビル 7F 〒108-0075
計装営業統括部　静岡市駿河区小黒 3-8-15 〒422-8072
Tel 054-283-1156　Fax 054-283-1176　http://www.yazaki-keiso.com/

導入平均実績 事故40%削減 燃費8%改善　FULL HDカメラとクラウドデータ管理
SR-WEB解析システムでさらに安全性・利便性向上！

SR Advance

セイフティレコーダ　アドバンス

事故率 40% 削減、燃費 8%（導入企業様平均値）の実績を持つ、セイフティレコーダの安全運転診断技術をより安全・カンタンに活用できる、新たなデジタコシステム。
FULL HD カメラの採用により、信号やナンバープレート、標識等の認識性向上。万一の際に必要な映像記録も高詳細に解析が行え、日常の安全指導へも活用できます。

各種助成申請対象機器
国交省認定（自 TD Ⅱ-99）

大切なドライバーを事故や交通トラブルから守る

⊙“もしも”の時でも安心です！

フル HD& 最大 6ch※を搭載し、ドライバーの日常運転を鮮明に記録します。
車内カメラやバックアイ搭載で視野角が広く、死角のない映像記録が可能。

※標準装備は、前方カメラのみ

⊙ドライバーに注意喚起し、未然に事故を防ぐ

DMS センサー（オプション）※で居眠りやわき見、ながら運転を検知し、瞬時に音声でドライバーに注意喚起します。

運行状況をどこでも確認・伝わる指導を実現できる

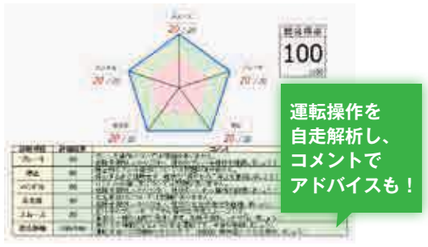
⊙どこからでも運転状況を確認できる

PC やタブレットから、車両とドライバー・荷物の現在位置を地図上にリアルタイム表示。配送状況のチェックだけでなく、トラブル発生時に速やかな対応が可能になります。

最大 6ch のカメラ映像をリアルタイムにモニタリングが可能（左）、車両の動態管理画面（右）

⊙わかりやすく、伝わる安全運転指導ができる

日常の運転操作を評価するから褒める指導ができます。恒常的に運転を振り返ることで、「事故削減」と「燃費向上」の近道につながります。



ビジネスと CSR の“カイゼン”が図れる

⊙交通事故削減とエコドライブで経費削減

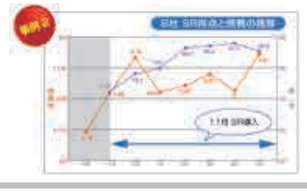
交通事故削減による車両保険費削減や、エコドライブによる燃費削減などの“目に見える効果”が得られます。

交通事故件数
最大 38 件から 12 件 へ！

⊙「働き方改革」にも完全対応

「改善基準告示」に対応する労務管理データを自動算出！ SR と労務管理ソフトを紐づけるだけで、現場の負担軽減をはじめ大きな費用対効果を得られます！

燃費全社平均約 7.5% 向上！



⊙他システムとの連携で物流 DX を実現

SR で得られる各種システム上で利活用することで、今まで人手で担ってきた業務のデジタル化を推進します。

改善基準告示・物流 DX にも対応！

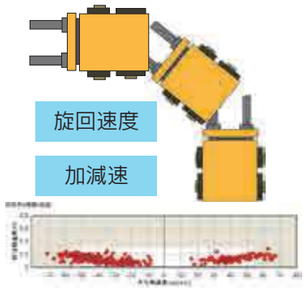
運転診断ができるフォークリフト用ドライブレコーダー

SR ForkLift N

セイフティレコーダ　フォークリフト　エヌ

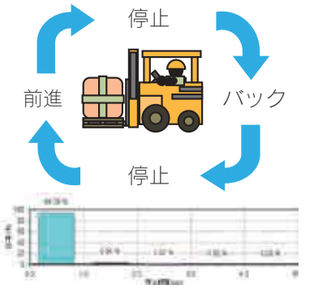
⊙特長

①旋回中の加減速挙動を検出



旋回中に行う加減速を検出して表示。散布図をクリックすると発生当時の映像を見ることが可能。

②スイッチバック挙動を検出



前進からバック、バックから前進に切り替える時、十分に停止し、安全確認を行っているか、その停止時間をヒストグラムで表示。

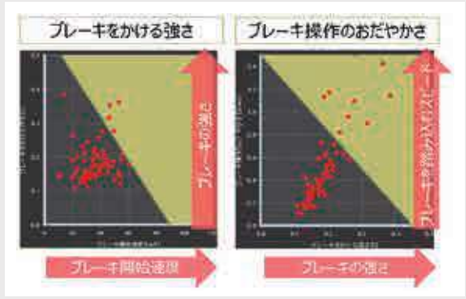
③段差判定機能を実現

鉄板の上などを走行するときの段差は危険挙動として検出しない。
指導するべき運転操作のみピックアップ。

SRAdvance と SRForkLiftN は２週間お試し実施中です！
詳しくは㈱データ・テックまで！　TEL：03-5703-7060

ドライバーを“褒める”加点式
やる気と心に響く指導ができる！

SR シリーズは、「加速度計」と「ジャイロセンサー」を搭載（図）。
運転操作による前後左右の揺れと旋回の動きを解析し、**事故につながりやすい運転を「危険挙動」「注意挙動」**としてピックアップします。
また、ひとつ一つの運転操作を積み上げてドライバーが、丁寧な**「優しい運転」**を実行しているか５項目で総合的に診断します。このため一般的な減点法による他社ドラレコ製品とは**“評価の質”が異なり、ドライバーの「運転操作の丁寧さ」を具体的に評価することが可能**です。**その結果、「褒める」安全運転指導を実現**します。



SRAdvance の散布図。
ブレーキ操作のおだやかさなどが一目瞭然

株式会社 データ・テック　東京都大田区西蒲田 7-37-10 〒144-0051
Tel 03-5703-7060　Fax 03-5703-7063　http://www.datatec.co.jp/

住友電工システムソリューションが提供する輸配送ソリューション

VICS 交通情報を活用した統合輸配送システム

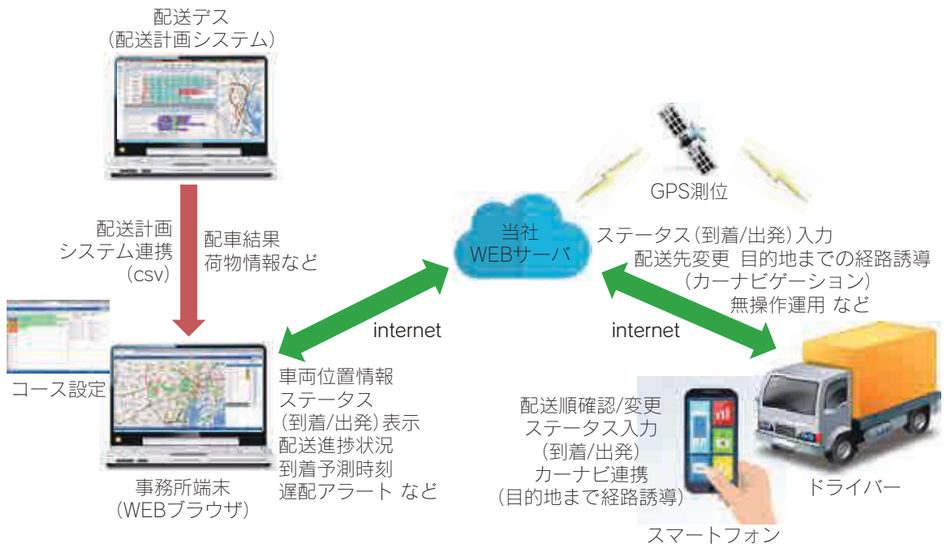
当社では、長年にわたり多くの物流企業様に対し、配送計画システム「配送デス」をご利用いただくことで、輸配送コスト削減や効率化のお手伝いをしてきました。
また、近年は配車の効率化にとどまらず、輸配送中の車両の進捗管理や予実管理のニーズも高まっており、それらをトータルで管理するシステムへの期待が高まってきています。
当社ではこれらのニーズにお応えすべく、「配送計画システム」と「動態管理システム」を提案いたします。
また、両システムを連携することで、計画から実績まで一元管理するシステムの構築も可能です。

次のようなお悩みはございませんか？

- 配車の精度を高めて必要な車両台数を最適化したい
- 経験・ノウハウに依存しない配車を実現したい
- 配車にかかる時間を短縮したい
- 車両の運行状況を正確に把握したい
- お客様からの問い合わせに迅速に対応したい
- 輸配送実績をリアルタイムに管理したい

上記のような課題をお持ちなら、住友電工システムソリューションにご相談ください。

システム構成イメージ



⊙配送計画システム「配送デス」「Traffic Vision/DP」

VICS 統計情報を活用することで、渋滞などの交通状況を考慮した高精度な配送計画の立案を実現します。PC にインストールしてお使いいただくスタンドアロン版の「配送デス」と、サーバ版の「Traffic Vision/DP」をご用意していますので、ニーズに合わせてお選びいただけます。

特　長

- **VICS 統計情報で、より高精度な配送計画を実現**
  当社独自のノウハウで統計処理した VICS 統計情報を利用しているため、配送先間の所要時間精度が一段と向上。より実態に近い配送計画の立案が可能です。
- **さまざまな配送形態に柔軟に対応**
  複数運行（トリップ）、配送、集荷、転送の混在立案、拠点・顧客・エリア単位でのきめ細かいグループ分け、割付車両の使用優先度設定、追加荷物を効率的に自動割付、有料道路使用可否、通行止め設定など数多くの機能を実装。これらを組み合わせることで多種多様な配送形態に対応します。
- **手動修正機能**
  計算結果に対し、簡単な操作で手動修正が行えます。
  マウスによる直観的な操作で車両間の荷物移動、配送順変更などを自在に行えます。修正後に配送遅延や過積載などの違反が生じた場合は、画面にアラーム表示しお知らせします。

配送計画システム画面イメージ

⊙動態管理システム「Traffic Vision/MM」

Traffic Vision/MM は、荷物の引取や配送が予定通りに行われているかをリアルタイムで把握したいというお客様のニーズにお応えする動態管理システムです。スマートフォンを利用して、車両の位置情報、配送実績、予実の管理などを事務所で一括して把握することができます。
事務所の管理画面地図上には、車両位置とともに渋滞状況や交通規制情報（工事・事故・車線規制・通行止めなど）が表示されますので、事務所に居ながら各車両の目的地への到着時刻予測や突発的な交通規制の把握が可能です。
これらの情報を駆使することで、遅配にいち早く対策を講じることができます。

特　長

- **ドライバー端末はスマートフォン**
  位置情報の取得には専用車載機は不要です。ドライバー端末としてスマートフォンを利用することで、自社車両のみならず庸車の管理も比較的簡単に実現することができます。
- **リアルタイム VICS 交通情報の活用**
  車両の現在位置と交通情報（渋滞・規制）を事務所画面上に同時に表示することにより、車両の現在位置および車両周辺の交通状況がひと目で把握できます。
  また、リアルタイム VICS 交通情報を考慮し、現在位置から次以降の目的地までの到着時刻を予測しますので、お客様からの問い合わせに迅速かつ正確に回答できます。
  また遅配の早期把握により、顧客への事前連絡などの対策が行え、顧客からの信頼度向上が期待できます。

動態管理システム画面イメージ

＊「Traffic Vision」は住友電工システムソリューション株式会社の登録商標です。
＊「配送デス」は住友電気工業株式会社の登録商標です。
＊Traffic Vision シリーズ、配送デスで使用する VICS 統計情報は財団法人日本道路交通情報センターから提供される道路交通情報データを利用して作成しています。
　また、道路交通情報データの作成には、財団法人道路交通情報通信システムセンターの技術が用いられています。
＊記載内容は改良、その他により予告なく変更することがありますので予めご了承ください。

住友電工システムソリューション株式会社　コネクティッド事業部　東京都文京区関口 1-43-5 新目白ビル 〒112-0014
Tel 03-5273-7572（東京） 06-4803-5971（大阪）　http://www.seiss.co.jp/ms/index.html
※お問い合わせは当社 HP のお問い合わせページよりお願い致します。

全国の運送会社を中継拠点とし、手軽なマッチングを提供するサービス

ドラ基地

SPACE CO.,LTD. × sala

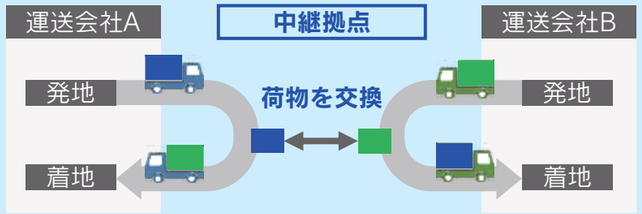
物流２０２４年問題を解決したいです！

新しいサービスを考えているのですが、アドバイス頂けませんか。

物流を変革し安心できる輸送が必要ですね。

幹線輸送から保管・荷役・流通加工・二次配送　など一貫したソリューション提案をしているので、その経験を活かした内容であれば！

長距離輸送が難しくなっていくなか、中間地点で荷物積み替えを行い、人手・トラック不足をカバーできる仕組みの中継輸送を考えています。



それならば、
・整備された中継拠点
・元請け会社や荷主の了承
・様々な事故を防ぐためのルール
（動態管理、荷役誘導員、荷物移譲記録）
が必要だからレクチャーするね。

サーラ物流さんはどのような積み替えを想定していますか？

パレット物やカゴ台車な十分対応可能だと思うよ。

どが積み替え方式には向いているけど、ケース物など一般的な商品でも個数によってはこのように輸送実績から最適な物流を提供できるよ。

ドラ基地の中継拠点として使わせてもらってもいいですか？

どうぞ！サーラの営業拠点は、大阪と東京のほぼ中間

位置である愛知西部～静岡東部に４拠点、多種多様な車両で２次配送も対応できます。

主な保有車両

ウィング	小・中型	42
	大型	69
ユニック	小・中型	21
	大型	4
平ボディ	小・中型	30
	大型	24
パワーゲート	小・中型	159
トレーラー	大型	7
ローリー車	小・中型	53
	大型	55
シュレッダー搭載車	小・中型	2

ありがとうございます。
中継輸送を実現できるサービスを開発しました。
詳しくはこちらをご覧ください！

【受賞歴】MIT ベンチャーメンタリングファイナリスト認定／DELL 女性起業家ビジネスコンテスト 2023 優勝
／東三河ビジネスコンテスト 最優秀賞／Spaseappchanlenge 学術賞

サーラグループの物流部門として、エネルギー輸送からバイオマス発電所への原料輸送まで、
徹底した安全管理と完備された輸送システムで、地域社会のライフラインを支えています。

株式会社スペース　愛知県蒲郡市三谷町川原 24-5 A 号 〒443-0021　0533-95-7577　info@dorakichi.com

サーラ物流株式会社　愛知県豊川市宿町野川 1 番地 27 〒441-0101　0533-73-2991（業務部）　https://www.logi.sala.jp/

品質と信頼で未来につなぐ

求荷求車情報ネットワークWebKIT

WebKITは、トラック運送事業者がインターネット上の情報ネットワークを介して、相互に荷物や車両などの輸送情報を提供し、帰り荷や傭車を効率的に確保することを目的としています。
輸送情報ネットワーク取引で最も重要なことは、会員相互の信頼関係と輸送の品質です。この点で、日本貨物運送協同組合連合会が運営するWebKITは、全ての会員が協同組合の組合員であり、かつトラック協会会員であることを条件としています。このため、会員間の信頼性や取引品質が高く、安心・安価で安定的な利用が可能な業界最大規模のネットワークです。

⊙特長

導入効果 その1
安定的な輸送力の確保のために
- ▶ 大事なお客様からの急な輸送オーダーに対応
- ▶ ネットワーク会員同士で輸送力を相互補完

導入効果 その2
安心のネットワーク取引のために
- ▶ 組合決済で運賃回収の不安なし
- ▶ 貨物保険・取引信用保険を標準で付保

導入効果 その3
輸送効率化のために
- ▶ 閑散期の荷物確保と繁忙期の車両確保
- ▶ 帰り荷確保（実車率アップ）
- ▶ 積合せ荷の確保（積載率アップ）

導入効果 その4
配車業務の効率化のために
- ▶ 配車業務のシステム化
- ▶ 配車担当者のスキル向上
- ▶ 書面化による輸送トラブル解消

生産性向上

取引・事業の拡大に WebKIT2 がお応えします!

実車率の向上
（帰り荷の確保）

積載率の向上
（積合せの徹底）

実動率の向上
（時間のフル活用）

WebKIT2

WebKIT2プラスの新機能

標準的な運賃が**見える**	❶標準的な運賃の自動表示機能 希望金額入力時に標準的な運賃を自動的に参照表示
輸送プロセスが**見える**	❷傭車追跡機能 ドライバー専用アプリで傭車の輸送プロセスをリアルタイムに表示
取引相手の顔が**見える**	❸テレビ会議機能 専用テレビ会議システムを搭載

傭車追跡機能のイメージ

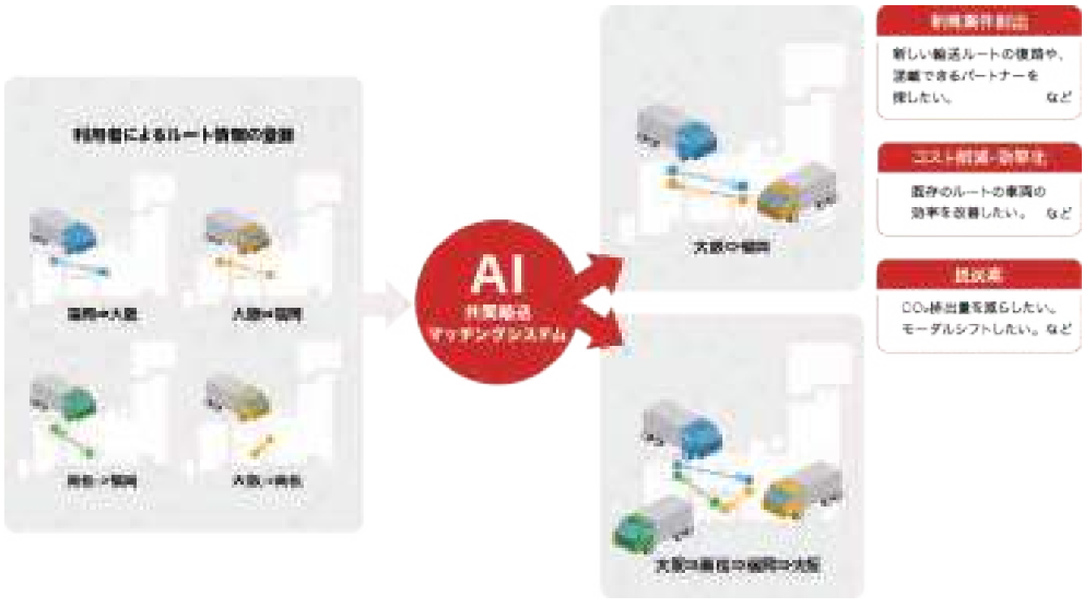
ドライバーのスマートフォンに専用のアプリをインストールすることで、現在の位置情報のほか、運行開始や積込中、遅延などの配送状況をWebKITサーバへ送信できます。これらの情報は、WebKITの成約者同士でリアルタイムに共有できるため、緊急対応や荷主報告などの円滑な対応が可能となります。

ドライバー専用アプリ

委託側 WebKITネットワーク 受託側

WebKIT 会員A社 ← 成約 → WebKIT 会員B社

共同輸送マッチングサービス
TranOpt
トランオプト



ルートのデータベース化
企業のマッチングで物流の効率化を実現

TranOpt は、多数の企業の輸送経路などをデータベース化し、膨大な物流データから AI によって業界を跨いだ荷主企業同士をマッチングすることで、共同輸送を可能にするサービスです。
メーカー（荷主）をはじめ、メーカーなどから一定の荷物を定期便として請け負っている運送会社にも荷主としてご利用いただけます。共同輸送によって実車率や積載率の向上、CO_2 排出量の削減をはかり、飛躍的な物流の効率化を実現します。

多様な業種の企業の利用が
共同輸送の機会をつくる

TranOpt は、23 業種 200 社以上の企業が利用しています。
多様な業種が参加していることによって、これまで知り合う機会のなかった地域や業種の企業のマッチングが可能になります。

23 業種 200 社以上

マッチングの例

- ●埼玉⇒群馬（家電・鉄鋼製品）
- ●東京⇒沖縄（家具・家電）
- ●福岡⇒埼玉（日用品）
- ●三重⇒福岡（加工食品）
- ●埼玉⇒千葉（新聞・鉄鋼製品）

マッチング候補の
平均実車率
約93%※2

帰り便・混載便の最適な相手を
AI がマッチング

AI が経路、想定運賃や荷量の需給・季節変動なども考慮したマッチングを可能にします。また、往路・復路の組み合わせだけでなく、3 つの経路を結ぶマッチングや同一経路で混載を行う相手を探すマッチングなどの機能を実装しています。※ 1

※ 1
TranOpt は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業「Connected Industries 推進のための協調領域データ共有・AI システム開発促進事業」により研究開発されたシステムをベースにしています。

※ 2
2021 年 8 月までに実施した無償トライアル利用において、利用者に候補表示されたマッチング候補の平均実車率

システムと対話で
共同輸送を促進するコミュニティ

共同輸送を始めるためには、積み込みから納品の運用手順や、どちらの会社のトラックを使うか、さらには運賃の決定に至るまで多くの調整事項が発生します。
JPR では、TranOpt を使って共同輸送を検討しているお客さま企業同士が対話する場である「コミュニティ」を企画、運営し、「システム」と「対話」の力で共同輸送の実現をサポートしています。

＼導入事例公開中／
TranOpt 製品ホームページ

https://lp.tranopt.jpr.jp/

日本パレットレンタル株式会社 東京都千代田区大手町 1-1-3 大手センタービル 〒100-0004
Tel 0120-8010-11 E-mail service@jpr.co.jp https://www.jpr.co.jp/

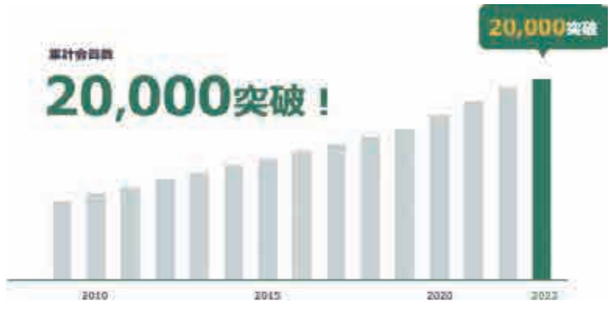
トラック運送事業者累計会員数 20,000 以上！

国内最大級の求荷求車サービス トラボックス

荷物や空きトラックが見つかる！決まる！

トラボックスが選ばれる理由

圧倒的な会員数と情報数



年間荷物情報数※2024年実績
3,670,000件以上

年間トラック情報数※2024年実績
148,000件以上

年間成約数※2024年実績
830,000便以上

業界屈指のコストパフォーマンスの良さ

	トラボックス	A社	B社
月間トータルコスト例	9,000円（税別）	38,980円	25,000円
成約手数料	0円	3%	3%
月額	9,000円	14,980円	1,000円
初期費用	0円	17,800円	0円

※当社調べ

「トラボックス」14 日間無料お試しはこちら　トラボックス　検索

1999 年に求荷求車サービスを立ち上げ、25 周年目を迎えるトラボックスよりご案内です

TRABOX

トラボックスモールとは

物流 DX プラットフォーム「トラボックス」が提供する【トラボックスモール】は
トラック運送に関連する商品やサービスを幅広く探すことができるサイトです。

『Web 版 トラック関連展示会（Web 版 トラックショー）』を目指し、
トラボックスが厳選した商品やサービスをご案内します。

掲載カテゴリー覧

一括でお問い合わせや資料請求が手軽に**無料**でご利用いただけます

- 運行・動態管理
- 勤怠管理
- 倉庫関連
- 中古トラック
- 採用
- 金融・M&A
- 物流メディア
- その他

ご利用ステップ

会員登録不要・利用料無料でお問い合わせいただけます

まずはサイトをご覧ください！

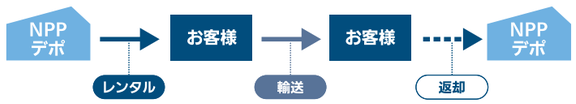
・掲載をご希望される企業様もお気軽にご相談ください。　トラボックスモール

トラボックス株式会社　東京都渋谷区渋谷 2-15-1 渋谷クロスタワー12F　Tel 0120-20-3058　9-17 時（土日祝除く）　https://www.trabox.ne.jp/

日本パレットプール

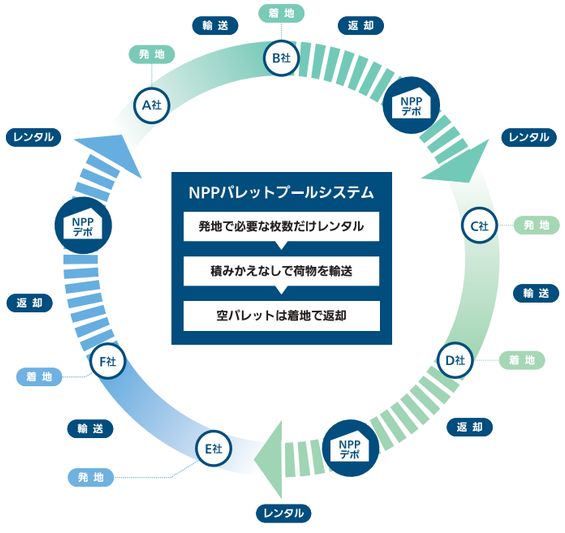
⊙一貫パレチゼーションシステム

発地の NPP デポで必要な枚数をレンタルしていただき、
目的地まで積み替えなしで輸送。
着地で不要となった空パレットを着地の NPP デポで返却。



⊙ NPP パレットプールシステム

同一のパレットを多くのお客様が共同・循環利用していただくことで、物流の効率化を図るシステムです。



パレットプールシステムのメリット

空パレットの返送不要
使用済みのパレットは最寄りのNPPデポへ返却。経費と手間を大幅カット。

余分パレットの保管解消
発地でレンタル、着地で返却なので余分なパレットを持つ必要なし。

季節波動による遊休パレット解消
季節波動に合わせ、必要数だけをレンタル。保管スペースも有効に利用できる。

パレットの品質管理
新しいデポから貸し出されるパレットの品質はNPPが一括管理。

コスト負担の分割可能
発荷主と着荷主の負担を明確化。

⊙全国デポサービスネットワーク

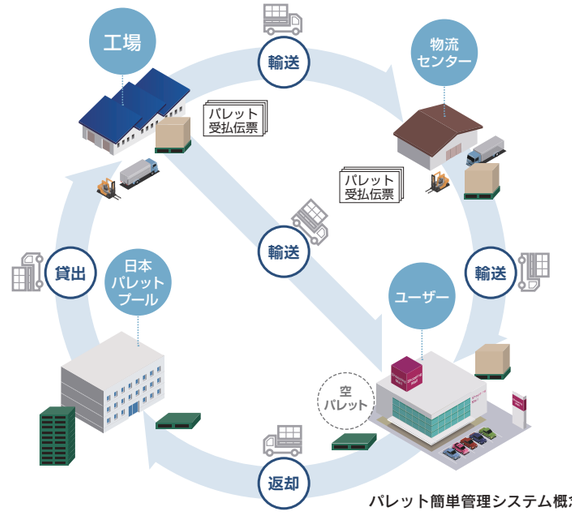
日本全国にある 15 の営業拠点と 200 カ所のサービス拠点がきめ細やかでスムーズな物流をサポートします。

営業拠点
15支店

サービス拠点
200カ所

⊙パレット簡単管理システム

特別なシステムをインストールする必要なく、お客様のパソコンの WEB 上でパレットの所在管理、受渡し管理を簡単・明確にできます。



パレット簡単管理システム概念図

NPPは物流の「効率化」と「改善」にトータルでサポートしています。

日本パレットプール株式会社　本社　大阪市北区芝田 2-8-11 共栄ビル 〒530-0012　Tel 06-6373-3231（代）　Fax 06-6373-3243　https://www.npp-web.co.jp

uprの物流課題解決ソリューション

当社では、主力事業のパレットレンタルをはじめ、物流現場の作業効率化に向けたソリューションをご提案します。

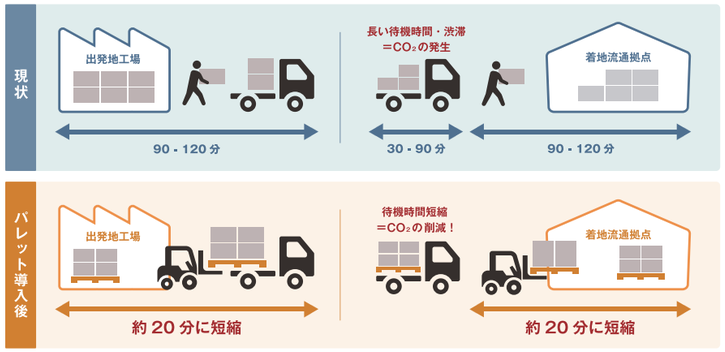
パレット荷役への切り替えによる、荷役時間の削減
uprのレンタルパレットでパレット輸送化

商材の詳細はこちら

パレットを利用することのメリット

荷役時間を短縮　トラック待機時間を削減　荷役時の労力を軽減

パレットによる積み下ろしへ切り替えることで、安定的な製品配送が実現できます。



レンタルパレットのメリット

急な需要にも即対応可能　回収コストを削減　管理業務の削減　スペースを効率的に利用　資源の節約

uprのレンタルパレットの特長

各業界に合わせた **豊富なパレットラインナップ**

全国約200か所※ のデポを展開 充実したネットワーク

パレット保有枚数 **510万枚※**

※ 2024年8月時点

11型パレット
汎用的なサイズ・仕様

14型パレット
化学品・製糖・玄米等で多く利用

カゴ車
ピッキング、陳列にも

ネスティングラック
保管スペースを有効活用

スマートパレット®利用イメージ

在庫・入出庫管理自動化「スマートパレット®」
電波を最大300m発信するアクティブRFIDタグと、電波を正確に受信するリーダーを組み合わせたクラウド型パレット管理システムです。パレットやカゴ車の倉庫内在庫や、いつ入庫・出庫したかの管理を自動化します。紛失・滞留を解消し、煩雑な紙伝票管理もなくなり、物流機器の稼働率アップ等が期待できます。

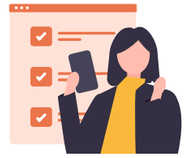
目視によるパレット管理を自動化し、トラック待機時間を削減
パレット自動カウントアプリ　パレットファインダー®

商材の詳細はこちら

パレットファインダーはスマートフォンのカメラでパレットを撮影するだけで、瞬時にパレットの枚数を色別にカウントできるスマートフォン用アプリです。

パレットファインダーを利用する４つのメリット

パレット管理
工数削減



目視や手作業による
ミスの減少

トラックの
待機時間削減

データ化による
伝票レスの実現

TOTO株式会社様での導入事例
パレットファインダーの利用で、目視によるパレット枚数管理の自動化に成功。トラック待機時間・パレット管理時間30％削減を実現！

腰や身体にかかる負担を軽減し、手荷役作業を効率化
アシストスーツ「サポートジャケット」シリーズ

商材の詳細はこちら

当社は2010年よりアシストスーツの事業を開始し、2016年から、軽量で安価なアシストスーツ「サポートジャケット」シリーズをご提供しています。シリーズ展開後も、働く現場の皆様より直接いただいたご意見をもとに、製品の改良を続けています。「サポートジャケット」シリーズでは、皆様の作業内容や現場作業に合わせたご提案ができるよう、様々な種類をご用意しています。

サポートジャケット Ep+ROBO

重量物
パワフル

サポートジャケット Bb+PRO Ⅲ

姿勢矯正
安定感

サポートジャケット Bb+FIT Ⅱ

姿勢矯正
快適性

サポートジャケット Bb+FIT フルハーネスジョイントタイプ

姿勢矯正
フルハーネスジョイント可

ユーピーアール株式会社　東京都千代田区内幸町 1-3-2 内幸町東急ビル 12F 〒100-0011
TEL：03-3593-1730　MAIL：mail@upr-net.co.jp　https://www.upr-net.co.jp/

Logisnext Solutions

＼＼ 新たなコンサルティング型ショールームが京都に誕生！ ／／

AUTOMATION DEMO CENTER

オートメーションデモセンター

オートメーションデモセンターは、お客さまのご要望に合わせた各種物流機器の連携など、
三菱ロジスネクストがご提案する物流ソリューションを体感できる施設です。
さらにフォークリフトの運転技能講習をはじめとした
物流現場で役立つ安全講習を受講することもできます。

AUTOMATION DEMO CENTERのご紹介

ACCESS
三菱ロジスネクスト㈱本社・京都工場敷地内
〒617-8585 京都府長岡京市東神足 2-1-1
※ご来館の際は担当営業までお問い合わせください

屋内実技講習用エリア

実技コースをレイアウト可能なため、フォークリフトの基礎を学ぶことができる、フォークリフト運転技能講習を定期的に開催しています。
実技講習では、カウンターバランスタイプ「ALESIS」、またはリーチタイプの「PLATTER」をお選びいただけます。

デモンストレーションエリア

複数台の無人フォークリフトの動作や各種物流機器との連携などをご確認いただけます。

会議・セミナーエリア

物流現場の改善に役立つ物流セミナーや現場での事故を減らすための安全講習会などが開催可能となっております。

見学・商談スペース

製品の動きを目の前で俯瞰的に確認することができます。
お客さまのご要望に応じて実機のご説明、見学および確認が可能となっております。

＼＼ お客さまのご要望に合わせた物流ソリューションをご提案する場が関東・関西エリアに整いました！ ／／

関東エリア

オンサイトセンター

オンサイト（on SITE＝現場）にこだわるソリューション型展示場

〒345-0023 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字本郷 576

※ご来館のお申込みは予約制ですので、担当営業までお問い合せください

HP・アクセス情報はこちら ▶

安全講習会

フォークリフト運転技能講習

無人フォークリフト PLATTER Auto

電動式移動棚ニチユパック

Rinova AGF
リノバ　エージーエフ

自動運転リーチ式フォークリフト

TOYOTA L&F

Rinova AGFは、リーチタイプフォークリフトをベースとした搭乗兼用タイプ自動運転フォークリフトです。現場状況に応じて無人・有人運転の切り替えが可能で、作業に合わせた効率的な荷役・搬送作業を実現します。さらに、運転制御方式は、従来の磁気誘導方式に加え、レーザーＳＬＡＭ式、レーザーリフレクタ方式をラインアップ。さまざまな物流現場で省人化と効率化を実現します。

Rinova
AGF
Automated Guided Forklift
搭乗兼用タイプ

お客様ニーズに対応する運転制御方式をラインアップ

磁気誘導方式

磁気ガイドを床面工事により埋め込み、誘導するタイプです。
経路上の各マークにて実行される動作を、あらかじめ設定できるため、細かな荷役動作が必要な現場に最適です。

磁気ガイド線を埋め込むための床面工事が必要となります

レーザーSLAM方式

レーザーレンジファインダー（LRF）から取得した周辺物までの距離データと、あらかじめ取得した地図データにより、機台位置を推定するシステムです。
磁気ガイドや反射板などの工事が不要なため、長距離搬送を伴う現場に最適です。

機台上部に設置したレーザーレンジファインダー（LRF）により、機台を制御するため、床面工事は不要です

レーザーリフレクタ方式

作業エリアに設置された反射板（リフレクタ）の位置をレーザースキャナで検出することにより、機台が高精度に自己位置を検知するシステムです。
床面工事が不要のため、賃貸倉庫など床面工事ができない現場でも導入が可能です。

現場に設置したレーザーリフレクタを機台のスキャナが検知し機台を制御します

搭乗兼用型1.0～3.0 ton 充実のフルラインアップでお客様の作業をバックアップ

1.0 ton　1.5 ton　1.8 ton　2.0 ton　2.5 ton　3.0 ton

通路幅を最小限に抑え、最大6.0ｍの高揚高マストで保管量の大幅な向上に貢献します。

ラックストッカータイプもラインアップ

	1.0ton	1.2ton	1.5ton
搭乗兼用モデル	○	○	○

Rinova AGFの導入における適正条件

RinovaAGFの導入には、下記のような条件を満たすことが必要です（※5）。導入にあたっては、現場の改修工事を要する場合がございます。

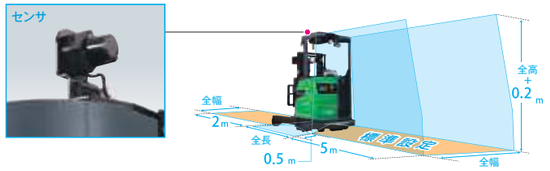
※1：棟間搬送がある場所では屋根等の防水対策が必要です
※2：連続入庫60分が限度です
※3：荷重中心500mmの場合。ラックストッカーの場合は1,500kgです
※4：ラックストッカーの場合は6,000mm以下です
※5：下記は導入条件の一例であり、すべて適合する場合でも、スペース等の都合により導入できない場合もございます

屋内 場所（※1）　40℃ ～ 0℃ 温度　10℃ ～ -25℃ 温度（※2）［冷凍冷蔵設仕様］　コンクリート 路面　5mm以下 段差　10mm以下 溝　結露　ガス　粉塵　水たまり　油　3,000kg 最大重量（※3）　5,000mm以下 最大荷役高さ（※4）

安全支援機能

センサ検出範囲（前方／後方）
前方と後方の障害物を検出するセンサを標準設定しました。

センサ検出範囲（側方／後方垂直方向） OPTION
側方と後方垂直方向の障害物を検出するセンサもオプションで設定可能です。



LEDブルーライト OPTION
フォークリフト後方の床面に、青色のライトを照射。
周囲の作業者にフォークリフトの存在を気づかせます。

導入事例

QRコードを読み込むとAGF導入事例動画がご覧いただけます。

食品製造業
1名の省人化と作業の均一化を実現し、資材のトレーサビリティを確保
ゴールドパック 株式会社 恵庭工場 様

運輸業
時間帯・作業内容に応じたRinova AGFの活用で倉庫内作業を自動化
日本通運株式会社 新札幌物流センター 様

鋼鉄・金属業
移動ラック＋AGFの導入で保管効率の向上と入出庫作業の自動化を実現
日本精工 株式会社 藤沢工場 様

自動充電

自動充電（下方充電／側方充電） OPTION
従来の充電方法に加えて、自動充電ステーションや一時待機場所での停止を利用した、自動充電が可能。
24時間の稼動に貢献します。

下方充電タイプ

側方充電タイプ

復旧操作・メンテナンス

簡単な復旧操作
異常時の復旧操作を車両のカラータッチパネルで簡単に行うことが可能。
復旧時間の短縮を実現します。

異常復旧ガイダンス機能
5.7インチのカラータッチパネルを搭載。
異常発生時、車両の状態や復旧方法をわかりやすく表示します。

車両上でのメンテナンス
車両に設置されたカラータッチパネルで一部の作業メンテナンスの操作が可能。
地上制御盤までの移動が不要です。

システム投入位置番号
搭乗運転で復旧ポイントまで移動させたら、ルート情報が設定されたシステム投入位置番号を入力し、作業再開が可能です。

https://logi.toyota-lf.com/

物流システム特設サイトは こちらから

業界最短の３分 55 秒洗車、水使用量を半減　トラック・バス用の大型洗車機

カミオン カスタム

⊙洗車の機械化で“430 運行”に貢献、トラックの走行距離の寿命をのばすことも可能

大型洗車機「カミオン カスタム」は、車両の大きさ、形状を把握するセンシング機能の向上やブラシ動作の改良により、洗車時間はわずか３分 55 秒。拭き上げ時間を含めてわずか数十分で洗車を終えることができます。

4 時間走行したら 30 分の休憩を取るという“430 運行”などにより、ドライバーの時間管理が徹底される中、「洗車の機械化」で業務時間を短縮。労働環境の改善が図れます。ドライバーは、より運転に専念してもらうことで、安全運転、経営の効率化にもつながります。

また、最新のウォーターコントロール技術で、節水性能は業界トップクラスの水準を達成しており、大幅な節水で水道料金の削減が図れます。

さらに、下部洗浄装置により冬場、道路にまかれる融雪剤を簡単に洗い流すことができます。定期的に下部洗浄を行うことで、トラックの走行距離の寿命をのばすことが可能です。

専用ページで紹介動画をご覧いただけます。

⊙特徴・導入効果

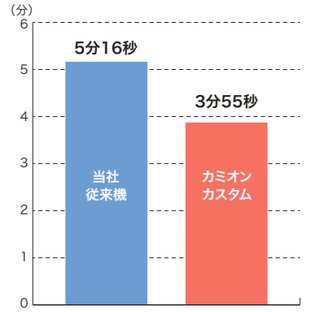
●従来比 20 %短縮の３分 55 秒で洗車可能

センシング能力の向上とブラシ動作の最適化により、洗車スピードが大幅に向上しました。洗車時間は当社従来機種と比べて約 20 %短縮。業界最短の３分 55 秒*で洗車できます。

1 時間程度かかっていた手洗い洗車と比べると、洗車時間を 90 %以上短縮できます。

＊10t・12m ボディのトラックを 1 往復水洗い洗車した場合の時間

ブラシ動作の最適化などで洗車スピードを向上させた。



洗車時間の比較

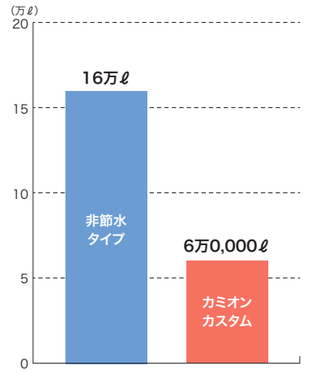
●水使用量を半減しランニングコスト削減

最新のウォーターコントロール技術により、洗浄部分に合わせた水噴射を実現し、使用する水を大幅に削減しました。水使用量は業界トップクラスの約 150ℓ*。節水機能を搭載していない非節水タイプ大型洗車機と比べて半分以下の水準です。

例えば、100 台の 10t トラックを保有する運送事業者の場合、月 4 回の洗車を想定すると水使用量はこれまでの月間 16 万ℓから 6 万 0,000ℓへ削減することが可能です。

＊10t・12m ボディのトラックを 1 往復水洗い洗車した場合の水量

最新のウォーターコントロール技術で水量を調整。

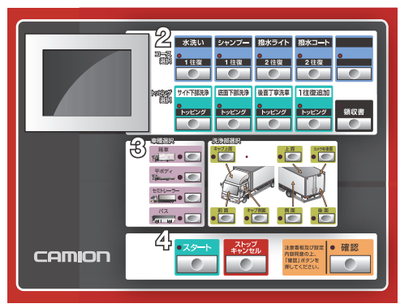


1 カ月の水使用量比較（400 台／月を洗車）

●下部洗浄で走行距離の寿命をのばすことが可能

下部洗浄装置により冬場、道路にまかれる融雪剤を簡単に洗い流すことができます。融雪剤には、塩化カルシウムが含まれているので、洗い落とさないとさびを誘発。地域の気候や冬場の運送頻度によって違いがあるので一概にはいえませんが、定期的に下部洗浄を行うことで、走行距離の寿命をのばすことが可能です。

固定式下部洗浄装置



操作パネル。本体搭載の実積管理システムで、洗車記録を管理することも可能

株式会社ダイフクプラスモア　営業本部　神奈川県川崎市幸区堀川町 580 〒212-0013
Tel 044-520-1880　www.daifuku-carwash.jp

環境配慮型小口輸送サービス
NXカーボンmini

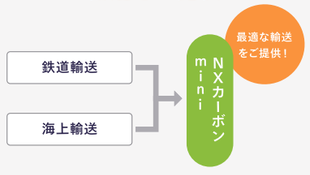
手軽にCO2排出量を削減可能な輸送サービスを導入したい。
そんなお悩みをお持ちのお客様へ、
「荷物1個から簡単に環境貢献」ができる
環境配慮型小口輸送サービス
「NXカーボンmini」をご案内します。

お荷物1個から環境貢献！

◉サービスの特徴

01 簡単！

各輸送ごとにお問い合わせすることなく窓口1つで最適な輸送をご提供



02 エコロジー！

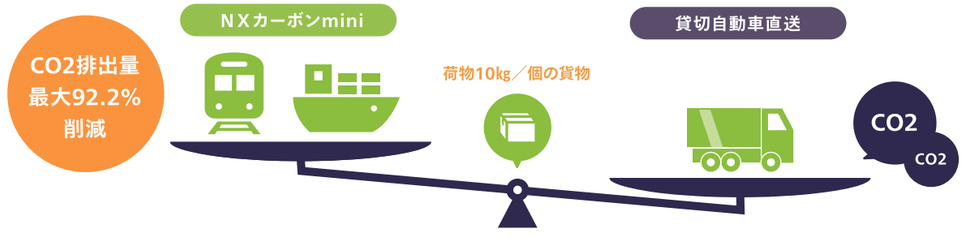
鉄道・内航船を利用することでCO2排出量を削減した輸送サービスを提供

03 可視化！

輸送ごとのCO2排出量を確認することが可能
※当社WEBサービス
メンバーズオンリー「そらねっと」
でもご確認いただけます

NXカーボンminiで輸送した場合のCO2排出量

例）東京から札幌に1個10kgのお荷物を輸送した場合（当社比）
路線便で輸送するより **61.5%削減！**
貸切自動車で輸送するより **92.2%削減！**



NIPPON EXPRESS
We Find the Way

サービスフロー

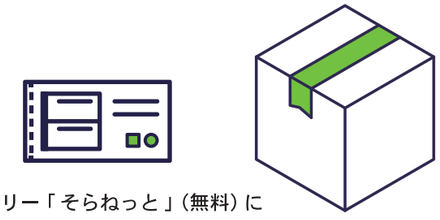
お客様からお荷物をお預かりしたのち、鉄道もしくは海上輸送を行い
CO2排出量を抑えつつ、お荷物をお届け致します。

全国の配送ネットワークを活用し、お荷物1個からCO2削減を実現します。

◉サービス規格

- 集荷日から3日後以降の配達になります。
- 法人間輸送（BtoB）を対象としたサービスです。（個人のお客様は対象外です）
- 複数個のお取り扱いも可能です。
- サービス対応エリアにつきましては、営業担当者へお問い合わせください。
- 危険品、貴重品、個人情報、信書のお引き受けはできません。
- 長尺貨物、上積み厳禁貨物のお引き受けはできません。
- 事前に「運送契約書」の締結が必要になります。

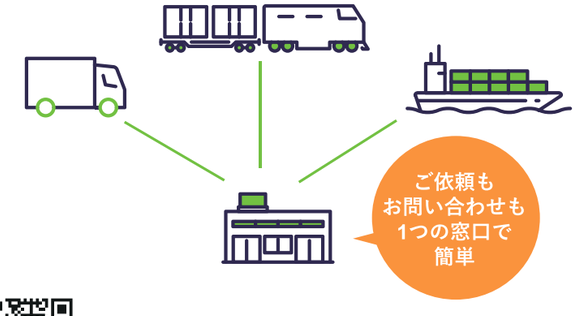
◉よくあるご質問



Q パソコンから送り状は発行できますか？
A はい、可能です。
ご利用の際は別途、当社WEBサービスメンバーズオンリー「そらねっと」（無料）に
ご登録いただく必要があります。 お気軽にお問い合わせください。

Q 着払いでの輸送は可能ですか？
A 元払いのみとなっております。

Q お荷物の営業所止めはできますか？
A はい、可能です。
営業所にその旨をお伝えください。



NXカーボンmini
ホームページの
NXカーボンmini サイトは
こちらから

https://www.nittsu.co.jp/sora/kankyoyuso/

日本通運株式会社　国内航空貨物統括部
nittsu-pd1-tyo@nipponexpress.com

ESG／BCP

持続可能なエネルギーのご提供

ＮＸ商事のエネルギーソリューション

トラックや船舶、フォークリフトなどの輸送・荷役機器への「バイオ燃料」の提供や、省エネ診断による「エネルギーの見える化」などを通じて、お客様の脱炭素に向けたＣＯ₂排出削減ソリューションをワンストップで提案いたします。

バイオ燃料の特徴

カーボンニュートラル

カーボンニュートラルの考えにより
CO₂の排出を抑制できます。

リサイクル

植物や廃棄物などを原料とするバイオ燃料で
資源循環可能な燃料です。

ドロップイン

既存内燃機関やタンク、ボイラー本体など
そのまま活用いただけます。

当社グループ活用事例

B5給油中のLPガス配送車両

車両用　B5

当社グループ会社であるＮＸエネルギー九州株式会社では、２０２３年１１月よりＬＰガス配送車両の燃料として、軽油にバイオディーゼル燃料（ＢＤＦ）を５％混合した自動車用燃料Ｂ５の使用を開始いたしました。
本燃料の使用により、ＬＰガスの配送過程におけるCO_2排出量の削減につながります。

船舶用　B24

２０２４年２月には、ＢＤＦを２４％混合したＢ２４を自社油槽船である「愛光丸」の自家消費用燃料として使用開始いたしました。　また、東京湾内でのＢ２４供給体制を整え、お客様への提供を開始いたしました。

手前が 当社専用バンカー船「愛光丸」

NIPPON EXPRESS

ＮＸ商事株式会社　営業本部エネルギーソリューション　Tel 03-6734-8204　nxs-es.ev@nipponexpress.com

ＬＰガスを活用したＢＣＰ対策品

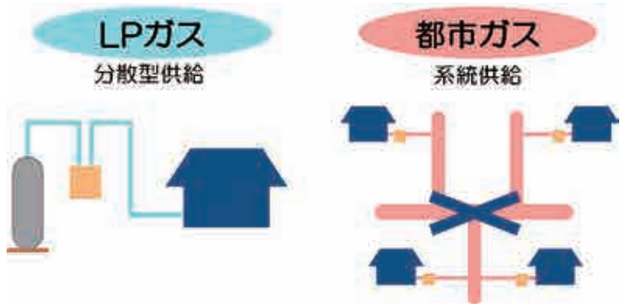
**近年、日本国内においてもさまざまな大規模災害が発生しており、企業が事業を継続するためのＢＣＰ（Business Continuity Planning）対策は、ますます重要となっています。
ＮＸ商事ではＬＰガスの安定供給とさまざまなＢＣＰ対策品の取り扱いを通じて、事業者様の不安解消に必ずお役立ていただけます。**

ポイント 1　災害に強いＬＰガス

ＬＰガスの個別供給は復旧しやすい分散型エネルギーなので、万一の際にも電気・都市ガスと比べ、復旧が早く災害時における炊き出しや仮設住宅などの対応にも貢献しています。

ポイント 2　ＬＰガス発電機

災害時に威力を発揮するのが、ＬＰガス非常用発電機。
電気・都市ガスと比較して復旧が早く、ディーゼル発電機と比較してもさまざまなメリットがあります。
事業規模に応じて多様な機種を取り扱っております。



ポイント 3　豊富なラインアップ

発電機は９００Ｗのご家庭利用から１００ｋVA超の大型発電機まで、さまざまな用途での利用が検討できるラインアップです。
可搬型、定置式の２パターンの発電機があり、
こちらも事業者に併せた
最適なものを提案いたします。

可搬型発電機

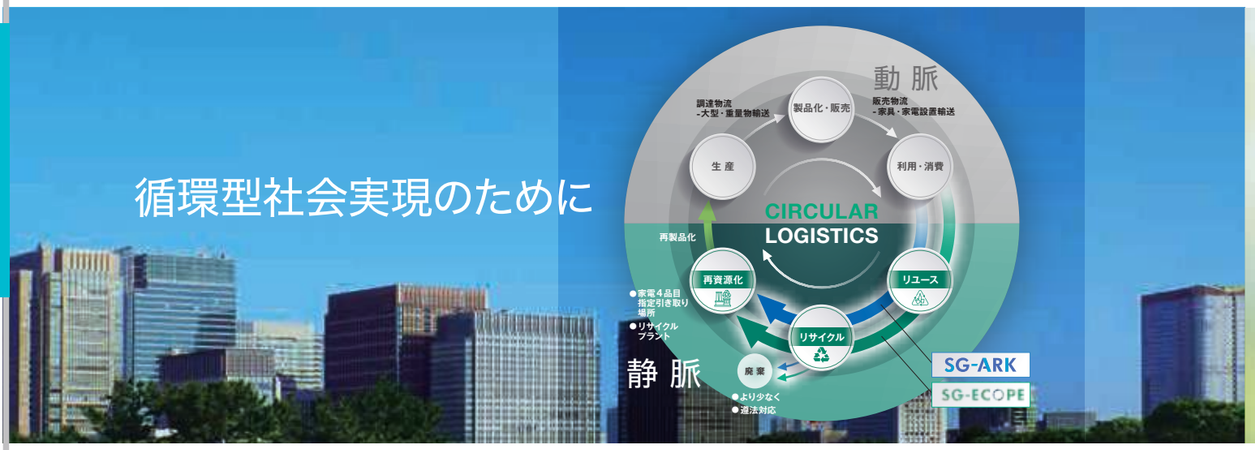
定置式発電機

NIPPON EXPRESS

ＮＸ商事株式会社　LPガス部　担当：和田・渡辺　Tel 03-6734-8807

サーキュラーロジスティクス

移転に伴う残置物の減量化提案「捨てる」から「利用する」への転換をご提供します。

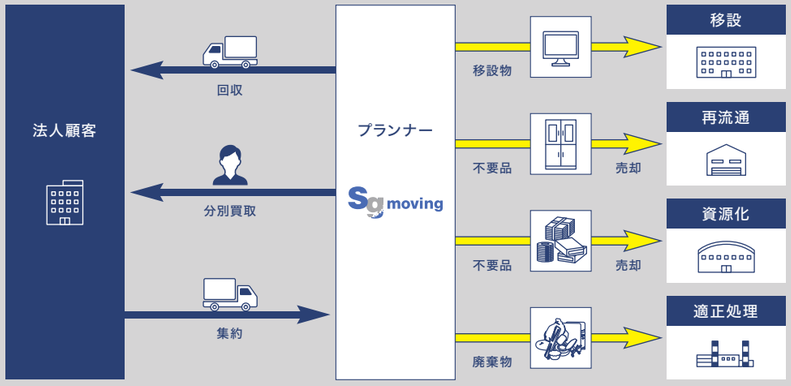


家電４品目のリサイクルをもっと便利に
SG-ARK

回収依頼から各種管理までをワンストップに。
業務効率化とコンプライアンスの強化につながります。

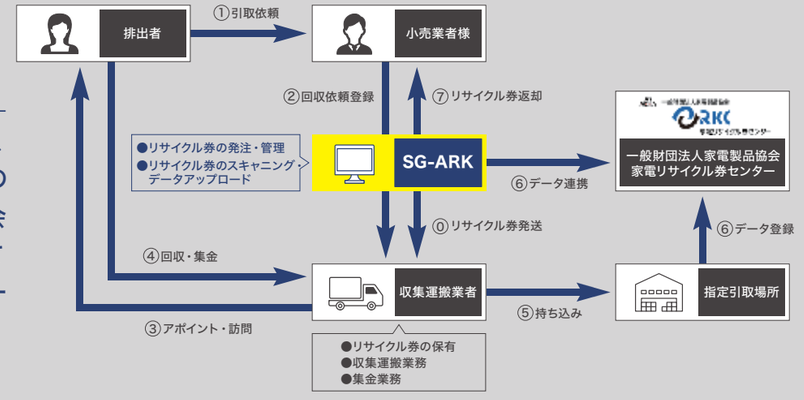
グリーンマネジメント

大量のモノが移動する企業・庁舎の移転。分別・査定を通じた商品・資源買取によって、移設物品の他、不要となったオフィス什器や機器類・日用品の処理を行います。移転にかかる廃棄物の減量化を図ることで、焼却・埋立処分からの脱却を促進し、CO_2の排出抑制に寄与します。



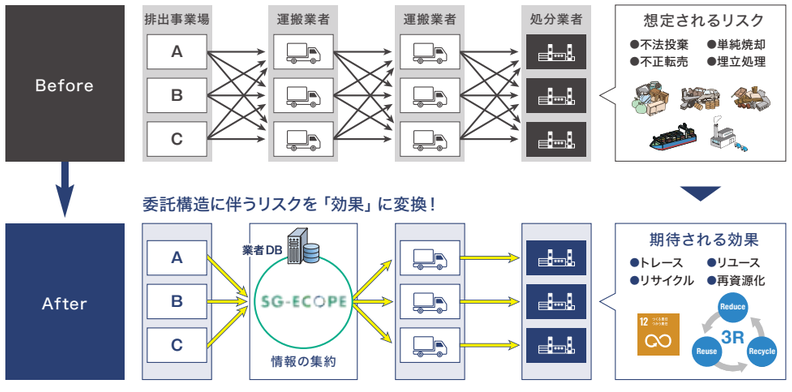
専用システムでの一括管理

全国の収集運搬業者の管理から、ご依頼のトレース機能、完了後のリサイクル券イメージデータ照会も可能です。小売業者様にとって「あったらいいな」が詰まったサービス。それがSG-ARKです。



SG-ECOPE

廃棄物処理に関する業者選定、契約などを一元管理し、排出企業の業務負担を軽減。廃棄物処理法にのっとったチェック・通知機能により、企業のコンプライアンス向上を実現。循環型社会の形成に貢献するクラウドシステム。



リサイクル業務の運用負担の軽減

当社が料金管理統括会社となり、リサイクル券の購入から在庫管理を行います。また、収集運搬業者の選定や収集運搬料金、リサイクル料金の支払いなどの経理作業も委託可能です。

小売業者様を悩ませるこのようなお悩みはSG-ARKで解決します

SGムービング株式会社　東京都江東区新砂 3-2-9 X フロンティア EAST 6 階 〒136-8651
Tel 0570-056-006（9:00-18:00）　https://www.sagawa-mov.co.jp/

LOGB

LOGISTICS GUIDEBOOK

物　流　団　体

企業が結集する物流団体は　ある時は政策・制度について提言し　あるいは政府にモノを申し　課題を克服するために調査・研究を行い　事業の発展を期して実証・支援事業を行い　またある時は認知度向上を目的に広報活動を展開しています。

そして何よりも　教育・研修活動に注力しています。　最近では 学生をはじめ次世代を担う人たちに向けた寄付講座などにも積極的に関与しています。

一般社団法人日本物流団体連合会

「等身大の物流」と物流業の魅力を伝える活動

物流連は 1991 年 7 月に設立され、今年、創立 34 年を迎える。設立の目的は、「陸海空の物流事業者が広く結束し、物流業に係わる横断的課題について施策を確立し、推進すること」（定款より抜粋）となっている。設立から 30 有余年を経る中で、物流を取り巻く経済・社会環境は大きく変わってきた。当初は、規制緩和・自由競争の流れの中で、各社が切磋琢磨する流れであったが、昨今は物流 2024 年問題や働き方改革を背景とする横断的課題に、業界全体として取り組む方向になっている。その根幹は、「物流を広く社会・一般から等身大で見ていただくこと」であり、それによってご協力・ご理解を頂ける応援団が増え、人材も集まり、業界の発展や社会インフラとしての機能強化にも繋がっていく。物流連と会員団体が協力し、多くの若い世代に対して物流業の社会的重要性や先進性を伝える活動の一端を紹介する。

⊙大学寄附講座

当連合会でも最も長く取り組んでいる事業の一つである。1995 年以来、「物流」をテーマとして、毎年 2～4 大学で講座を開設し、2020 年以降のコロナ下では、中止やリモート講義などの苦労もあったが、それらを乗り越えて今日に至っている。講師は、物流連会員企業や国交省の幹部が務め、業界概要から始まり、輸送モード・機能ごとの講義へと進むが、講義後には活発な質疑応答が交わされ、学生だけではなく、講師各位が貴重な気付きを得る機会にもなっている。毎年、各大学 100～200 名程度の学生が受講しており、物流が経済・社会の中で果たしている役割を、実践を交えて約 15 回講義することにより、物流の認知度向上と、優秀な人材の確保に結び付けている。

大学寄附講座　横浜国立大学

⊙物流見学ネットワーク　　～物流施設の見学を斡旋～

小学生～大学生、および学校関係者に対し、物流への興味と理解を深めて頂くため、会員企業・団体の協力を得て、物流連のホームページから全国の物流施設の見学を申し込める仕組みを 2007 年より作っている。
コロナの影響で一定期間中止をせざるを得なかったが、コロナ終息を機に、登録されている物流施設を更新・拡充し、現在、掲載数 71 拠点で申し込みを受け付けており、ご利用も増えている。

物流見学ネットワーク

⊙小～大学生向け　物流業界について学ぶ機会を提供

●職場体験受け入れ（中学生）

都内の中学校からの要請に基づき、授業の一環である「中学生職場体験の受け入れ」を継続して行っている。数名の中学生が当連合会を訪れ、電話の取り方、名刺の渡し方等のビジネスマナーから始まり、物流の基礎知識講義のほか、物流博物館や物流施設見学など、物流に興味を持ってもらえるようなカリキュラムを３日程度用意している。
最近は、「働くとは」というテーマで、討議形式で勤労の大切さやその社会的な意味などを考える講義も取り混ぜ、最終日には手作りの修了証を授与するなど、体験した側にとって満足度の高いものとなるよう工夫もしている。

職場体験

物流学習

●物流学習への対応（小中高生）

首都圏の小中高生および、全国各地より修学旅行で上京する中高生が、自主研究として半日程度、当連合会を訪問することにも対応している。物流の基礎知識を学ぶ場を提供しており、ご要望によっては、関東近郊への出張授業も行っている。

●「物流業界セミナー＆座談会」（大学生）

2024 年の夏から新たな取り組みとして、就職活動中の大学生を対象とした「物流業界セミナー＆座談会」を Web にて随時実施している。物流の基礎知識講義から、インターンシップや仕事体験に参加する企業を発見する機会まで提供し、業界に興味を持ってもらうきっかけとしている。

●学内セミナーなどへの講師派遣（大学生）

大学からの要請に応じて、学内で随時行われている業界セミナーやキャリア教育科目などに、当連合会事務局から講師を派遣している。

⊙「物流業界研究 Web セミナー」「物流業界合同説明会」　会員企業合同で実施

当連合会の人材関連の活動では、最も注力している取り組みの一つである。2024 年度は、夏期と冬期に各３～４回、会員企業 30 社ほどが合同で「物流業界研究 Web セミナー」（夏期）、「物流業界合同説明会」（冬期）を実施している。就職活動解禁前の大学生を対象に、物流業界に興味のある学生を集めて各社 30 分間のプレゼンを 1 日で 10 クール程度行うほか、若手社員によるトークセッションや、ぶっちゃけ質問会などで学生が本当に知りたい情報を提供するなど、満足度を高めるイベントも盛り込んでいる。気軽に参加できる Web 方式と、リアルなコミュニケーションを持てる対面方式を併用して実施しているが、学生にとっては、陸海空と幅の広い業容の物流業界を、１日で理解してもらえる良い機会となっている。2024 年で 11 年目を迎えているが、年々変わる大学生の就職活動状況に合わせて、運営内容を柔軟に見直している。2024 年度冬期は、12～2 月にかけて、Web 方式２回と、東京と大阪での対面方式各１回を予定している。

物流業界合同説明会（講演会）

物流業界合同説明会

⊙実行部隊は「ロジスティクス PR グループ『物流いいとこみつけ隊』」

業界研究セミナーなど大きなイベントを取り仕切るのは、物流連事務局とともに、「みつけ隊」と略称される会員企業の若手社会からなるプロジェクトチームである。現在 27 社 43 名の 20 代中心の会員有志で構成され、発足 11 年で既に第 5、第 6 代目に引き継がれている企業もある。
発足時より「一社ではできないが、物流連としてならできる活動」を種々提案し、最初に実行したのがこれらの取り組みだ。年齢も近いため、学生の気持ちや状況も良く分かり、手作り感満載の一連の取り組みをいつも支えてくれている。
物流の魅力を自らの言葉で伝え、次の世代へ伝えていく流れが、物流全体のイメージを変えつつある。

物流いいとこみつけ隊会合

一般社団法人日本物流団体連合会　東京都千代田区霞が関 3-3-3 全日通霞が関ビル 5F 〒100-0013　Tel 03-3593-0139　Fax 03-3593-0138　http://www.butsuryu.or.jp/

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

産業界に役立つ価値を創造し、提供を続ける「ロジスティクスのナショナルセンター」へ

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）は、持続可能な物流・ロジスティクスを目指し、調査・研究・開発、普及など、さまざまな活動を進めています。「改正物流関連二法」への対応が喫緊の課題となっており、経営層に対して全体最適の視点から物流・ロジスティクスの問題に取り組むことが必要不可欠となっています。そして、物流を持続可能なものにするためにも、サプライチェーンに関わるあらゆるプレイヤーが、商慣行の見直し、物流の効率化、そして行動変容を進めていくことが重要となっています。

⊙ロジスティクスコンセプト 2030

JILS では、産業界・社会に対し、「2030 年に向かって我々がこれから目指すべきロジスティクスのすがたを描くこと」を目的として、「ロジスティクスコンセプト 2030」を作成し、発表しています。

本冊子では、次世代の産業と社会を築くためにこれから我々が行うべき 7 つの提言としてまとめております。

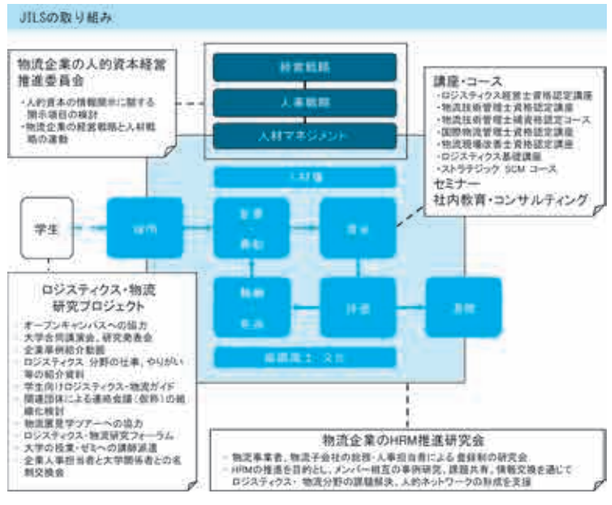
⊙ JILS 会員アンケート調査

JILSでは会員を対象に、ロジスティクスの現状や課題、今後の事業展開に向けたニーズ、JILS 活動の評価確認を主な目的として、アンケート調査を実施しています。現在、2023 年末に実施した本調査の集計結果概要を公表しております。
会員各位よりお寄せいただいた貴重なご意見をもとに、JILS は今後も事業を展開してまいります。

●ロジスティクスコンセプト 2030（PDF）は、以下 URL よりダウンロードすることができます。
https://www1.logistics.or.jp/news/detail.html?itemid=402&dispmid=703
●アンケート結果概要は、以下 URL よりご覧いただけます。
https://www1.logistics.or.jp/Portals/0/pdf/2023Surveyresults_JILSmembers.pdf

⊙人材育成支援ガイド

JILS は、「ロジスティクスの高度化と普及推進を通じた、わが国産業界の発展と国民生活の向上、国際社会への貢献」をミッションとして、企業の生産性向上に寄与するとともに、多くの企業の連携・協働によって社会共有価値を創出し、持続可能な発展を目指します。
JILS ではこのための活動として、ロジスティクスに関する調査及び研究、企画の立案および推進、人材の育成及び指導等を実施しております。



「人材育成支援ガイド」は、人材育成の手引きと事業の開催予定をまとめた冊子です。物流やロジスティクス、SCM に関する人材育成の課題に本ガイドをご活用ください。
https://www1.logistics.or.jp/Portals/0/jinzai_guide/jinzai_ikusei_guide_2025.pdf

同時に、我々は、国連が 2030 年をゴールと定めた SDGs に掲げられているような持続可能な社会を実現することを求められています。そのために、企業においては、活動の方向性を定める指標として、これまでの財務指標に加えて、非財務指標が重視されるようになってきました。近年 JILS は、「ロジスティクスコンセプト 2030」や「メタ・ロジスティクス」において、企業価値の向上と社会課題の解決を目標とするロジスティクスの重要性を訴えてきました。産業構造の変容と企業連携の見地から重ねて言及してきたことをふまえて、JILS は、（1）持続可能な社会の実現：物流統括管理者 連携推進会議（J-CLOP：JILS CLO（Chief Logistics Officer）Partnership）（2）HRM（Human Resource Management）の推進と企業価値向上（3）LX（Logistics Transformation）による全体最適の実現の 3 つを 2025 年の活動方針として掲げ、活動してまいります。

⊙JILS 活動のご紹介

①国際物流総合展 2025 第 4 回 INNOVATION EXPO（展示会）

国際物流総合展は、アジア最大級のロジスティクス・物流専門展示会として、1994 年に当協会の前身となる団体が主催していた二つの展示会を統合し現在の形となりました。この度、本年 9 月に、「国際物流総合展 2025 第 4 回 INNOVATION EXPO（以下、本展）」が、9 月 10 日（水）から 12 日（金）までの 3 日間、東京ビッグサイト（東京国際展示場） 東展示棟で開催されます。本展は、「物流を止めない。社会を動かす。」をテーマに、過去最大の規模（来場登録予定者数：50,000 名、展示予定規模：450 社／1,500 ブース）での開催を予定しております。また、山積する様々な課題解決のヒントを得る場として、併催企画の実施も予定しております。本展は、ロジスティクスの高度化・効率化に関わる最新の物流システム機器や ICT、ソリューションが展示され、多数の国内外のロジスティクス関係者が、一堂に会する貴重な場となります。今回も、ロジスティクス・物流の課題解決に向け、来場者、出展者双方にとって有意義なイベントとなるよう準備を進めております。本展の開催概要は、以下の HP よりご覧いただけます。
https://ie.logis-tech-tokyo.gr.jp/

国際物流総合展　過去開催の様子

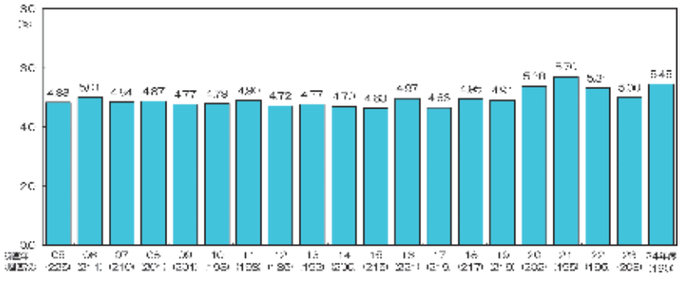
②物流コスト調査

物流コストの適正化は、マクロ的には物価の安定に寄与するとともに、ミクロ的には企業経営の根本課題として認識され、きわめて重要な意義をもっています。しかし、物流コストの全容に関して公にされたデータは限られており、有価証券報告書に記載された支払運賃など、物流にかかわる費用の一部を集計した不完全な資料にとどまっているのが現状です。
本調査は、このような状況のもと、通商産業省（現 経済産業省）の『物流コスト算定活用マニュアル』に準拠して物流コストの実態把握を行うとともに、文献調査や国際比較など、多面的な調査により日本の物流コストに関する総合的な基礎データを蓄積すること、物流コスト管理に資する情報提供を行うことなどを目的として実施しております。

●売上高物流コスト比率の傾向と、2024 年度調査結果（速報値）

売上高物流コスト比率とは、各企業の物流コスト金額を売上高で除した値です。当調査では、回答企業の売上高物流コスト比率を相加平均し、それを日本における全産業の物流コストの指標として分析いたしました。
2024 年度調査（有効回答 190 社）の売上高物流コスト比率（全業種平均）は 5.45 %となりました。前年度からの上昇幅は 0.45 ポイントでした。近年、物流事業者からの値上げ要請などを理由に、売上高物流コスト比率は長期的な上昇傾向にあると考えられます。実際に過去 20 年間の調査と比較しても、5.70 %を記録した 2021 年度調査に次ぐ売上高物流コスト比率の高さとなりました。
ただし、同一サンプルによる前年度比較が可能な「2 年連続回答企業」（141 社）における売上高物流コスト比率（全業種平均）は、5.28 %で、前年度と比較して 0.15 ポイント下降しています。物流コストなどの動向（指数による分析）から、物流コスト総額および物流コスト単価（物流量あたり物流コスト）は上昇傾向にあるものの、それ以上に売上単価（物流量に対する売上高）の伸びの方が大きいことが示唆されています。
なお調査結果の速報版やこれまでの調査結果の概要などは、以下 URL にてご確認いただけます。
https://www1.logistics.or.jp/news/detail.html?itemid=1270&dispmid=703

売上高物流コスト比率の推移（全業種）



公益社団法人全国通運連盟

通運事業の役割をPR

公益社団法人全国通運連盟は、鉄道で運ばれる荷物の集荷・配達業務が「通運事業」と呼ばれていた1952年（昭和27年）2月に、全国の通運事業者によって「全国通運業連盟」として組織されたのち、1971年（昭和46年）6月に社団法人「全国通運連盟」、そして2013年（平成25年）4月には内閣総理大臣より「公益社団法人」としての認定を受け、現在に至っています。

当連盟は、会員事業者の「安全や環境保全の推進」、「輸送の効率化に向けた取り組み」、「人材の育成」を支援するとともに、「広報活動」を展開し、鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトを積極的に推進しています。これからも当連盟は、鉄道に係る貨物利用運送事業（通運事業）の健全な発展と経営の近代化への貢献、並びに社会公共の福祉の増進に寄与することを目的として、活動して参ります。

⊙各種委員会活動

当連盟は、事業の運営方針や事業計画を決定する「企画政策委員会」、環境対策や安全対策、そして輸送品質向上に向けた取り組みについて検討する「安全環境委員会」、一般の方々向けの広報活動や会員事業者への情報発信のあり方の検討および講習会や教材開発のあり方などを検討する「広報・人材委員会」という3つの委員会を設置し、鉄道コンテナ輸送ネットワークの維持、利用運送事業の発展等について、会員事業者と連携して事業を運営しています。

その他、「青函ルート特別委員会」を設けて、青函トンネルでの北海道新幹線と貨物列車の共用走行、並行在来線の存続等の情報収集・情報発信を行っています。

これら委員会活動を通して、生産性の向上を図りつつ鉄道へのモーダルシフトを促進するとともに、最近の利用運送事業を取り巻く課題に対応した事業を実施しています。

⊙モーダルシフトトライアル輸送助成制度

当連盟は、鉄道コンテナ輸送の利用拡大のため「モーダルシフトトライアル輸送助成制度」を実施しています。この制度は、新たに鉄道コンテナ輸送を利用しようとするお客様、輸送品質の改善に取り組もうとするお客様、パレット化の推進に取り組もうとするお客様の輸送に対して、当連盟が運賃・料金の一部を負担するものです。

⊙大型コンテナ導入助成制度

当連盟は、会員事業者が30ft以上の大型コンテナの導入に際し、国の「モーダルシフト加速化緊急対策事業費補助金」の交付決定を受けたものを対象として、コンテナ1基につき80万円の助成金を交付する「大型コンテナ導入助成制度」を実施しています。

荷主ニーズの高い31ftコンテナの導入を促進することによって鉄道へのモーダルシフトを促進しようとするものです。

⊙輸送障害時の代行トラック準備費用助成制度

通運業界においては、お客様の期待に応えるために、大規模災害時の代行輸送体制等の強化を一層推進していく必要があります。

当連盟は、自然災害等による長期輸送障害時にJR貨物が設定する区間代行輸送に派遣するトラックの準備費用を助成する「代行トラック準備費用助成制度」を実施し、会員事業者による代行トラックの供出を促進しています。

⊙輸送品質改善・事故防止対策の取り組み

輸送品質向上に向けた取り組みとして、当連盟は、養生資材の共同利用化に取り組んでおり、その一つの方策として日本パレットプール株式会社、JR貨物と共同で、養生資材のレンタル事業を実証実験的に実施しています。最初は、百済貨物ターミナル駅と札幌貨物ターミナル駅間での運用を始め、徐々に区間を拡大していく予定です。

また、平成23年度から日本貨物鉄道株式会社（以下「JR貨物」と表記）、公益社団法人鉄道貨物協会と当連盟が共催で毎年実施している「コンテナ輸送品質向上キャンペーン」を継続して実施しています。

また、鉄道コンテナ輸送の事故防止対策については、JR貨物と協力して貨物の偏積防止対策につとめるとともに、タンクコンテナ等の点検、危険品取扱いの適正化等、事故防止に向けた取組みを徹底しています。

⊙広報活動の展開

当連盟は、鉄道コンテナ輸送と通運サービスの利点やモーダルシフトの必要性、効果の周知および認知度向上等を目的とする「鉄道コンテナ利用キャンペーン」を実施しています。

全国の大型・小型イベント等への出展とともに、鉄道コンテナ輸送と通運事業の認知度向上及び利用促進に向けた広報・宣伝活動として、専門誌・新聞への広告掲載を実施しています。

関西物流展

国際物流総合展

ビジネスEXPO

令和6年度は、大阪での「関西物流展」、東京での「国際物流総合展」、札幌での「北海道ビジネスEXPO」に大規模出展し、名古屋での「メッセナゴヤ」、熊本での「人流・物流生産性向上フェア in 熊本」に小規模規模出展しました。

大規模出展イベントにおいては、俳優の六角精児さんによるプレゼンテーション動画「六角精児さんが語らずにはいられない『鉄道コンテナ輸送』の魅力」のシアター形式による放映、パネル展示、12ftコンテナの2段積実物展示等により、鉄道コンテナ輸送の仕組み、長距離トラックドライバー対策としての有効性、青函トンネルの重要性、2024年問題への対応等について、来場者に理解を深めて頂きました。

また、小規模出展イベントにおいても、コンテナ実物、ジオラマやパネル展示等で鉄道コンテナ輸送の仕組み、通運サービスをPRしました。

⊙流通経済大学寄付講座

当連盟は毎年、鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトを促進する人材の育成に取り組んでおり、その一環として流通経済大学に寄付講座を開設し、これからの我が国の経済・社会を担う学生に鉄道利用運送事業および鉄道コンテナ輸送についての知識を習得して頂くこととしています。

同講座では、学識経験者、鉄道利用運送事業者、JR貨物、荷主企業の皆様から地球環境問題から見た鉄道へのモーダルシフトの必要性、鉄道コンテナ輸送のメリット、通運サービスの内容等について講義して頂いています。

寄付講座①

寄付講座②

⊙鉄道利用運送事業教育研修（基礎コース・応用コース）

鉄道利用運送に携わる実務教育講座として、年1回開催しています。令和6年度で、基礎コースは21回、応用コースは20回を迎えました。また、平成24年度からは、一般の方も受講できるように当連盟ホームページでご案内しています。

全国から多くの方々が一堂に会して、講義を受けながら親睦を深めることで知識の研鑽とともに業界全体の交流に大いに役立っています。

教育研修①

教育研修②

⊙高度物流人材育成研修の実施

情報システムや自動化機器等の最新技術、荷主の商慣行の改善、企業間連携や共同輸配送といった物流DXの導入やフィジカルインターネットの取組み等の物流の最新の動向を学ぶ高度物流人材育成研修を今年度から始めました。9月～2月まで毎月1回全6回の研修会で、オンライン受講を基本とし、初回と最終回をスクーリングで実施し、110名が受講しました。

⊙通運事業フォーラムの開催

コンテナのラウンドユース、共同集配等による通運事業の生産性向上、荷主への提案力強化のため、年1回、地方持ち回りで「通運事業フォーラム」を開催しています。令和6年度は、10月23日に広島市のホテルグランヴィア広島において第6回目を開催し、会員事業者間の連携や協働化の促進を図りました。会員事業者、地方運輸局、JR貨物を含めて多くの関係者に参加して頂きました。

フォーラム①

フォーラム②

⊙鉄道利用運送推進全国大会の開催

モーダルシフト等の経済社会ニーズへの今後の戦略的対応の推進、JR貨物殿との連携強化等を図り、国のモーダルシフト施策等を踏まえて、当連盟の今後の取り組み方針を決議することを目的として「鉄道利用運送推進全国大会」を毎年2月に開催しています。今年度は令和7年2月6日にパレスホテル東京で開催しました。

公益社団法人全国通運連盟　東京都千代田区神田淡路町2-21 淡路町MHビル5F 〒101-0063　Tel 03-5296-1670　Fax 03-5296-1673　http://www.t-renmei.or.jp

物流団体

公益社団法人鉄道貨物協会

鉄道貨物輸送の利用促進に取り組む

鉄道貨物協会は、終戦の混乱の残る 1950 年、戦後復興を支える重要な輸送機関である鉄道貨物輸送に関する実際的な調査・研究を行う団体として荷主企業、通運事業者、鉄道事業者等により社団法人として設立されました。2011 年 11 月には「二酸化炭素排出量が少なく環境にやさしい鉄道貨物輸送の利用促進を通した地球環境の保全と国民生活に不可欠な物資の安定供給のための調査研究、普及啓発」を行う団体として内閣府より公益社団法人としての認定を受け現在に至っています。

調査・研究

⊙本部委員会

鉄道貨物協会本部に「利用促進委員会」と「輸送品質向上委員会」の二つの本部委員会を設置し、鉄道貨物輸送に関する調査・研究活動を行っています。本部委員会では、鉄道貨物輸送をご利用になっている荷主企業や利用運送事業者へのヒアリング・アンケート調査や輸送品質に関わる研究などを実施し、より多くの皆様にご利用いただける、より高品質な鉄道貨物輸送の実現に向けた審議、提言等を行っています。本部委員会の調査・研究成果については、毎年、「本部委員会報告書」として編纂し、行政関係機関や主要図書館、鉄道貨物輸送関連機関など約 1500 箇所に寄贈しています。また、当該報告書は、鉄道貨物協会ウェブサイトから過去 9 年分の閲覧が可能となっています。

現地調査

普及・啓発

⊙会誌「MONTHLY かもつ」の発行

鉄道貨物協会の日頃の活動状況や、鉄道貨物輸送に対する理解を深めていただくための媒体として、会誌「MONTHLY かもつ」を編集・発行し、会員の皆さまにお届けするとともに、ウェブサイト上での公開も行い、当協会の活動についての情報発信を行っています。

研究発表

⊙「貨物時刻表」の発行

鉄道貨物協会が発行する「貨物時刻表」では、貨物列車の時刻表だけでなく、巻頭カラー特集において、普段なかなか目にすることができない鉄道貨物輸送の内側を解説し、広く一般の方に親しみを持っていただくための記事を多数掲載しています。「貨物列車の総合ガイドブック」として、本誌を通して安全・安定的かつ環境にやさしい鉄道貨物輸送についての理解を深めていただけるよう、普及・啓発活動に取り組んでいます。

巻頭カラー特集

⊙講演会・セミナー及び講習会の開催

鉄道貨物協会の調査・研究の成果を公表する場として、講演会・セミナーを定期的に開催しています。また、荷主企業の物流担当者や利用運送事者の方などが参加する講習会では、鉄道貨物輸送の専門的知識を普及させています。

「エコレールマーク」普及活動

⊙「エコレールマーク」とは

2005 年度に国土交通省で創設された「エコレールマーク」は、CO_2 排出量が他輸送機関と比較して格段に少なく、地球環境にやさしい輸送手段である鉄道によって商品や原料が輸送され、「エコ物流をしている企業・商品」であると認定された場合に、その商品や企業の広告等に使用できる環境ラベリング制度のことです。「エコレールマーク」を通して、消費者の方々が商品を購入する際等に、物流の面から地球環境に対して貢献している企業や商品について知っていただき、消費者と企業が一体となった取り組みを進めることを目指しています。

有識者による講演会

環境面から語られることの多かった鉄道貨物輸送へのモーダルシフトですが、トラックドライバー等の担い手不足により懸念される物流危機や働き方改革の要請とも相まって、国民生活・経済活動に不可欠の物資を安全に安定的に運ぶ中・長距離貨物輸送の受け皿として鉄道貨物輸送が真に必要な輸送モードとなってきています。

⊙「エコレールマーク」の認定

各企業からのお申し込みに基づき、鉄道貨物協会が事務局となってエコレールマーク運営・審査委員会を開催しています。エコレールマーク運営・審査委員会では、学識経験者・国土交通省・物流業界団体・鉄道事業者からなる審査委員により、お申し込み内容を認定基準に沿って審査し、エコレールマークの認定を行っています。

エコレールマーク運営・審査委員会

⊙「エコレールマーク」の周知

人・社会・地域・環境に配慮した消費行動、いわゆる「エシカル消費」の傾向はますます高まってきています。エコレールマークがより多くの消費者に認知されるよう、鉄道貨物協会では定期的にスーパーや貨物駅イベント、環境フェア等を通じて、啓発活動を展開しています。

物流展

小売店舗

貨物駅公開

⊙「出張型教室」の開催

次世代を担う子どもたちに鉄道貨物輸送と地球環境問題を啓発する機会として、「出張型教室」を各支部と連携し各地の小学校で開催しています。それぞれの地域の産業や貨物駅の情報だけでなく、「SDGs」の要素を盛り込むなどの工夫を凝らしながら授業を行っています。

支部活動

鉄道貨物協会では全国に 18 の支部を置き、各地域において、鉄道貨物輸送の利用促進及びエコレールマークの認知度向上のための活動の他、講演会、企業見学会等の幅広い活動を行っています。また、本部委員会と連携した「利用促進会議」も各支部で開催し、会員への情報提供・会員相互の情報交換も活発に行っています。

小学校での授業

企業見学会

利用促進会議

公益社団法人鉄道貨物協会　東京都千代田区神田司町 2-8-4 吹田屋ビル 4F 〒101-0048　Tel 03-5256-0577　Fax 03-5256-9220　https://rfa.or.jp/

一般社団法人国際フレイトフォワーダーズ協会

わが国と海外を結ぶ国際複合運送業務

国際物流において、コンテナリゼーションの発達と相俟って、船舶・鉄道・航空機・トラックなどの各種輸送手段を合理的に組み合わせ、一貫した責任と運賃で貨物を輸送する「国際複合一貫輸送」の需要は、年々増大しています。この時代的ニーズに適合する国際輸送の担い手として、当協会はインターナショナルフレイトフォワーディング事業の発展・安定化を図り、広く公益に貢献することを基本理念として、幅広い事業活動を推し進めています。

⊙講座

●国際複合輸送士資格認定講座

教育委員会では、会員のための教育啓蒙活動の一環として 1985 年から「国際複合輸送士資格認定講座」を開催して、国際輸送の専門的な知識・ノウハウを持つ人材育成に取り組んでいます。毎年、東京・大阪または名古屋の 2 地区で開催、国際複合輸送関連業務 3 年以上の経験を持ち、国際複合輸送の専門者を目指す方や中堅社員の方、また会員外でも国際複合輸送の専門知識を体系的に学びたい方々の受講を受け付けています。

延べ 10 日間 30 講座を受講し、認定試験合格後「国際複合輸送士」の資格が得られ、2024 年度までに 6,891 名の「国際複合輸送士」が誕生しています。

令和 6 年度「国際複合輸送士資格認定講座」講義風景
（左：東京開催　　右：名古屋開催）

●実用英語通信文講座

1988 年からスタートした実用英語通信文講座は山田雅重先生、2020 年から野澤雅春先生と共に 30 年以上続いている長寿講座で昨年度までに 1,059 名の修了者を輩出しています。英語でのメールのコミュニケーションは必須アイテムです。相手にすぐに理解してもらえ、短時間で業務を遂行することは、小さい積み重ねですが、非常に重要です。相手の内容を理解して、本人が作成する頻度の高い物流英文の基礎、基本を徹底的に学び、受講後に即業務へ実践的に使用できる実用英語を習得し、修了試験を経て修了証書を授与した受講生にとっては非常に輝かしい財産となっております。

会場風景

野澤雅春先生

●中国語講座

1999 年からスタートした樊婷婷先生の初級・中級中国語講座です。毎回、アグレッシブで楽しい時間で、あっという間に時間が過ぎていきます。基礎的な中国語（発声・文法・書取り・初歩的な会話等）を軸に、中でも会話を中心に、丁寧で何度も繰り返し教える先生は受講生にとって信頼があり、昨年度までに 339 名の修了者を輩出しました。

●タイ語セミナー、インドネシア語セミナー

タイ語は中島マリン先生のもと、タイの文化や歴史を交えてセミナーを 2017 年から毎年開催。インドネシア語はホラスユミコ先生のもと、一番新しい言葉を民族統一の理念のもと出来上がりました。その経緯なども説明頂いております。2020 年からはオンラインで行っております。すべて無料で開催し、少人数精鋭で内容の濃いセミナーとなっております。

●「JIFFA 運送約款基礎講座」e ラーニングの開催

JIFFA 運送約款の全項目について解説し、その基礎を学ぶ講座を 2020 年度より e ラーニング形式でオンライン開催しています。昨年度は 161 名の方に受講頂いています。本年度は合計 3 回、200 名程度の参加を予定しています。オンライン化により地方在住の会員の参加も容易になり、また感染対策としても有効なことから毎回好評で、多数の会員の参加を頂いています。

e ラーニング講座

⊙研修会

●新入社員研修会

会員会社の新入社員およびフォワーディング業務を初めて行う社員を対象として国際輸送業務を分かり易く説明する内容で、2 日間の日程で実施しています。1 日目は座学（5 講座）、2 日目は東京港近辺の物流施設の見学を行い、多くの会員の皆様にご参加頂いています。

令和6年度「新入社員研修会」
（左：座学風景　　右：施設見学風景）

●中堅社員研修会

10 日間 30 講座からなる、「国際複合輸送士資格認定講座」に日程の都合で参加出来ない中堅社員の方々を対象に基礎の強化と専門知識の習得を目的とした 6 講座からなる 2 日間の集中講座を実施しています。

令和６年度「中堅社員研修会」（会場内風景）

●物流見学会

次代を担う子供たちにフォワーディング業務の概要を広く知ってもらうため、JIFFA 会員各社の社員の児童を対象とした「物流見学会」を 2007 年から毎年各地域で開催し、児童と保護者を合わせて、これまで 650 名程の皆様に参加頂いています。

児童を対象とした物流見学会
（2024 年度）

今年度は 8 月に名古屋港にて実施し、36 名の参加者がありました。

⊙各種セミナーの開催

タイムリーなテーマを選んでセミナーを開催しておりますが、一人でも多くの方に視聴頂きたいという趣旨から、オンライン形式による配信を主に開催しております。昨年度は「物流の 2024 年問題～その後」と題したセミナーを実施し、390 名が受講致しました。

国際物流の実務に関しては、物流に係る IT 関連情報なども定期的にセミナーを実施、2024 年 10 月には最新 IT 関連情報として賛助会員からヨーロッパで実施されている事前報告制度 ICS2 に関するセミナーや、アップロードした貿易プラットフォームなどを紹介したオンラインセミナーを開催しています。

●活動報告会

毎年 7 月に福岡、神戸、名古屋を訪問し、地域の会員を対象に JIFFA の活動内容をより詳しく知っていただくための報告会を開催しています。2024 年 7 月の報告会には合わせて 100 名を超える会員の参加があり、報告会に続いて行われた懇親会で交流を深めることができました。2023 年 12 月には、東北地域では初めての報告会を仙台で開催しました。

⊙調査

●海外物流事情調査と調査報告書の発刊

毎年、最もトレンドと思われるエリアに調査団を派遣し、各地の現場を視察し、調査報告書を発刊しております。今年度はインド（デリー周辺・西海岸）にて調査を実施しております。

●統計データの作成と公表

半期毎に会員各社の輸送トン数やコンテナ取扱数等の実績を集計し、JIFFA ウェブサイトや協会誌 JIFFA NEWS で公表しています。

●関係官庁への業界団体としての意見具申や各種会合への参加等

業界団体として必要の都度、政府官庁への調査協力や意見提出、各種会議への出席などの対応を行っております。コロナ禍を引き金に、北米航路などコンテナ海上輸送が世界的に混乱したのは記憶に新しいところですが、JIFFA では官庁の主催する会議への出席やアンケートへの協力等によって業界の現状説明や対応の要望等を行いました。

● FIATA

当協会は国際貨物輸送業者協会連合会（FIATA）のメンバーであり、会議等の出席を通して同連合会の構成員である世界各国のフォワーディング協会との交流を深め、海外のフォワーダー協会と情報交換をしています。2024 年は 7 月にアジア会議がインドネシア、9 月に世界大会がパナマにて開催されています。アジア大会ではサステナブルな物流をテーマに日本の内航船フィーダーの活用についてプレゼンテーションを行いました。またパナマの世界大会では FIATA の電子 B/L を JIFFA 会員も利用できるように覚書を締結しております。

一般社団法人国際フレイトフォワーダーズ協会　東京都中央区新川 1-16-14 〒104-0033
Tel 03-3297-0351（代表）　Fax 03-3297-0354　https://www.jiffa.or.jp

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

グリーン経営認証

環境負荷低減に取り組む運輸事業者を認証する「グリーン経営認証」。燃費向上、交通事故低減、車輌故障減少、職場の活性化など環境だけでなく経営改善にもつながる取組として高く評価されています。

⊙認証制度の概要

当財団が認証機関となり、「グリーン経営推進マニュアル」*1 に基づいて一定レベル以上の取組をおこなっている事業者を審査のうえ認証する制度。

*1 **グリーン経営推進マニュアル**

ISO14031（環境パフォーマンス評価に関する国際規格）の考え方に基づき、取り組むべき環境保全項目の具体的取組内容をチェックリストとして明示するとともに、目標の設定と評価が容易にできるように配慮されており、これを用いることによってグリーン経営が簡便かつ継続的に進められるようになっています。

●**チェックリストで取上げている環境保全活動項目**（チェック項目―トラックの例）

❶ 環境保全のための仕組み・体制の整備
❷ エコドライブの実施
❸ 低公害車の導入
❹ 自動車の点検・整備
❺ 廃車・廃棄物の排出抑制、適正処理及びリサイクルの推進
❻ 管理部門（事務所）における環境保全の推進

■対象となる事業

トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運

■認証基準

レベル 1 から 3 までのチェック項目*2 の中で、法規制の遵守や一般的・基本的取組であるレベル 1 の達成を基本とし、実施効果の大きい項目あるいは顧客へのアピールとなる項目についてはレベル 2 も認証基準としています。

■有効期間

認証の有効期間は 2 年で、取得後 2 年毎に更新審査（現地審査）が必要です。その間は、それぞれ 1 年後にチェックリスト提出による書類審査を行います。

■認証費用

1 事業所の場合、現地における審査料や登録証発行料及び 2 年間の登録維持料、指導・情報提供料を含めて 15.5 万円（プラス交通費実費：上限 3 万円）となります。複数事業所の場合は、審査事業所数に応じた費用がこれに加算されます。

⊙認証取得に向けた支援

■取組事例データや教育用資料の提供

推進マニュアルに掲載している取組事例や教育資料は、グリーン経営専用ホームページにも掲示しており、ダウンロードして自由に利用できます。

■講習会の開催

認証取得に向けて取り組むべき具体的な内容や申請方法を説明する講習会を年間約 30 回全国で開催しています。

■認証費用の助成

自治体、都道府県トラック協会など 43 団体（2024 年 6 月末現在）が認証料金の助成制度を実施しています。

グリーン経営専用ホームページ

https://www.green-m.jp/

*2 **チェック項目のレベル設定**

レベル 1	レベル 2	レベル 3
一般的・基本的な取組 ・現状把握 ・法規制の遵守	積極的な取組 ・目標、計画に基づく取組の推進	先進的な取組 ・実施結果の把握と取組の改善、見直し

永年登録事業所ラッピングトラック

⊙認証取得のメリット

●**様々な優遇措置**

■行政等による優遇制度

❶ 省エネルギー法の荷主への配慮事項への明記（環境に配慮している貨物事業者の選定））
❷ グリーン購入法の特定調達品目（輸配送、貸切バス、タクシーが含まれています。）
グリーン経営認証は調達基準に適合しています。
❸ コミュニティバスの導入に関するガイドラインへの明記
❹ 輸送の安全を確保するための貸切バス選定・利用ガイドラインへの明記
❺ 運輸局長名による事業者表彰時の考慮

■銀行等の低金利融資制度

❶ 多くの金融機関で認証取得事業者向け低金利融資制度が実施されています。
❷ 認証取得費用に対する自治体の助成制度が実施されています。
詳細は、各自治体へお問い合わせ下さい。

●**経営面での改善（グリーン経営認証取得による効果―2022 年版―）**

■燃料費削減、エネルギー使用量削減

トラック・バス・タクシー事業者の平均燃費及び倉庫・港湾運送・旅客船・内航海運事業者の CO_2 排出原単位は認証取得前に比べ 2 年間で全ての業種で良くなっております。【表 1、表 2】

■交通事故件数の削減

認証取得事業者の走行距離あたりの交通事故件数は、認証取得後 1 年目にトラック事業者で前年比 25.9 ％減少しています。

■車両故障件数の削減

認定取得事業者の走行距離あたりの車両故障件数は、認定取得後 1 年目にトラック事業者で前年比 20.9 ％減少しています。

■取得事業者の声

認証取得事業者は取得のメリットとして、燃費の向上だけでなく、職場モラルや従業員の士気の向上などのメリットを感じています。【表 3】

※詳細はグリーン経営ホームページの掲載資料をご確認下さい。

⊙グリーン経営と SDGs の関係

グリーン経営は PDCA サイクルを基にした「環境マネジメントシステム」です。そのためグリーン経営の継続的な取り組みが、SDGs に取り組むことにつながります。

⊙認証取得後のサポート

認証登録後は、教育用資料の提供、法規制改正・環境関連トピックス・取組事例等をまとめた情報誌発行やグリーン経営専用ホームページによる情報提供、研修サイトの開設など、活動を継続するうえで役立つさまざまなサポートを行っています。

⊙出前説明会の実施

荷主企業や元請物流事業者が協力会社向けに開催する社内講習会等に、当財団の担当者が出向きグリーン経営について説明を行っています。

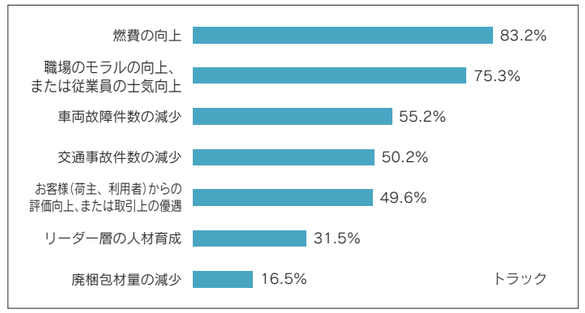
表 1　認証取得前後の燃費の変化（新規申請時→取得 2 年後）

業　種	車　種	燃費改善率
トラック	車両総重量 8 トン以上	+3.1 %
	車両総重量 8 トン未満	+3.1 %
バス		+2.5 %
タクシー		+1.6 %

表 2　認証取得前後の CO_2 排出原単位の変化（新規申請時→取得 2 年後）

業　種	区　分		原単位改善率
倉庫	普通	所管面積当り（m^2）	3.6 %
	冷蔵	冷蔵倉庫設備トン数当り（t）	3.3 %
港湾運送	取扱量当り（t）		5.9 %
	取扱コンテナ当り（個-20ft）		11.0 %

表 3　メリットがあったと回答したトラック事業者の項目別回答割合



公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団　東京都文京区後楽 1-4-14　後楽森ビル 10 階 〒112-0004　Tel 03-5844-6276　Fax 03-5844-6294　http://www.ecomo.or.jp/

一般社団法人日本３PL協会

協創と実践　３PL業界の発展に寄与します

多くの３PL事業者は、人材育成、物流改善・効率化、安全・安心の確保など多様な課題を抱えており、日本３PL協会はその課題を共有し実践的な解決を図るべく、2005年５月（2009年４月に一般社団法人化）に発足しました。現場を重視した実践的な団体で唯一、３PL専門の団体でもあります。

当協会は物流企業に加えて荷主企業・物流機器メーカー・IT企業・不動産企業など多方面からの3PL関連企業が会員となり、会員の皆さまと共に知恵を絞りながらより一層の3PLサービスの提供を目指しており、ただいま関西事務所の開設に向けて準備を進めております。

事業活動は、
「改善ソリューション委員会」「EC物流委員会」「現場見学会」「3PL経営塾」「日本3PL管理士講座」など開催しております。

これらの活動を通じまして3PL機能をより充実させ、全体最適な物流を実現することで3PL業界の健全な発展に寄与、また社会インフラとしても物流機能を効率的に、より一層高めていきたいと考えております。「健全なる3PL業界の発展」にご賛同頂ける企業の皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

⊙コンセプトと活動方針

日本3PL協会では、行政、各種関連団体と連携しながら、3PL業界に対する様々なニーズの実現や課題解決に向けて、3つのコンセプトを土台とした活動方針を掲げ積極的に取り組んでまいります。

会員交流と人材育成の促進
会員相互間の親睦･情報交流と人材育成を図るため､「新年賀詞交歓会」「セミナー」「研修会」「日本3PL管理士講座」などを開催しております。

現場を重視した実践的な活動
物流の現場では様々な課題を抱えており、これらの解決・改善を推進するため、現場に密着した「センター見学会」「改善事例研究会」など実践的な研修を開催しております。

先進性独自性のある物流システムの調査研究
物流の透明化・効率化を進めるうえでAI・ロボットなど先進技術を学びながら、最適な物流システムの構築を目指しております。会員相互に「EC物流審査会」「改善ソリューション審査会」などに参加して研究しております。

⊙会員交流

- 「新年賀詞交歓会」
- 「3PL経営塾」（著名な企業経営者によるトップセミナー）
- 「現場見学会」

などを開催しております

パネルディスカッション

3PL経営塾

⊙人材育成

「日本3PL管理士講座」を隔年開催しております。
3PL事業の基礎から事業提案できる人材を育成します。
講座修了者には「3PL管理士資格認定書」が付与され、過去160名以上の「3PL管理士」を輩出しています。

日本3PL管理士講座

⊙委員会活動

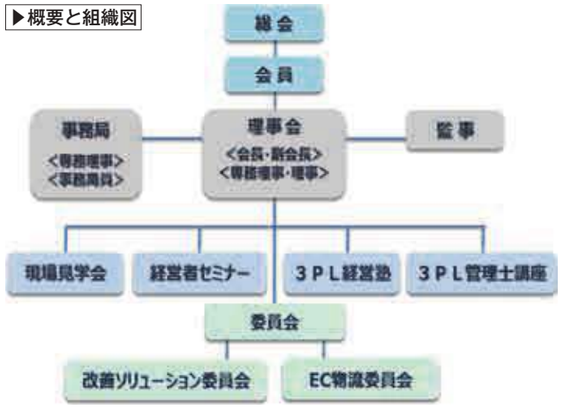
EC物流委員会

ECはコロナ禍を経てEC需要が急増し、EC物流の多様化と物量の増加が顕著です。今期は「多様化するEC物流におけるDXの推進」をテーマに、EC物流におけるAI技術とDXの推進を研究し、現場での研修や未来のEC物流に関して学びます。

改善ソリューション委員会

3PL物流事業者が抱える課題を解決するための調査・研究を行います。最新のソリューション情報を体系的に取り上げ、研究成果に結びつけることを目指しています。委員会は、物流DXや人材育成に焦点を当て、会員企業の競争力向上を支援します。

▶概要と組織図



委員会／見学会

一般社団法人日本３PL協会　千代田区神田司町2-10-12 〒101-0048
Tel 03-6206-8621　Fax 03-6206-8640　E-mail japan@3pl.or.jp　https://www.3pl.or.jp

一般社団法人日本パレット協会

2024 年問題や物流現場の労働力不足を解決する「パレットの普及、標準化」に向けた活動

第二次世界大戦後、日本にパレットが持ち込まれてから物流作業の効率は飛躍的に高まりました。但し一方で「個別最適」な物流が進むと多種多様なパレットが生まれ、バラ積みや結節点での積替え作業が生じます。日本パレット協会は 1964 年の設立以来、物流の「全体最適」を目指し、官民連携で日本、アジアのパレット化、物流標準化を進めてきました。パレットをより身近に感じていただく活動も強化しています。

⊙協会の歩み

創立は 1964 年 4 月 8 日、任意団体として発足。その後、1978 年に社団法人化を経て、2012 年 4 月 1 日に一般社団法人へ移行。2024 年 4 月には、創立 60 周年を迎えました。

現在、会員数約 90 社。創立当初は、木製パレットメーカーを中心とした製造業の団体として始動。その後、パレットが日本の産業界で普及するとともに、金属、プラスチック、リサイクル（容器包装リサイクル材）等の各パレットメーカー、レンタル事業や関連事業の企業も会員となり、パレットの総合団体へと様変わりしています。

⊙主な活動

●パレットの標準化と生産統計調査

パレットを国内の生産性向上や環境負荷低減にうまく機能させるために必要な活動が我々の使命です。現在の日本は、世界に先例を示すごとく人口減少社会へ移行していることから、社会全体の生産性を維持・向上させ、経済成長を継続させる課題に対峙しています。

このような背景から、産学官が連携して「生産性の維持・向上」のための様々な議論がなされ、日本社会の諸活動の合理化や標準化を更に進める一環として、物流の標準化に関する議論も活発になっています。その標準化の 1 丁目 1 番地がパレットの標準化です。

協会創立以来、一貫して様々なパレットの規格制定に尽力した経験を活かし、その標準化（規格制定＋普及）のための活動に参画しております。そして、そのようなパレット普及の一端を確認可能な指標である、パレットの生産数量に関する統計調査を毎年実施しています。

●パレットの認知向上

しかし、パレットについて、社会全体の認識はまだ不足しています。パレットの規格制定をして、パレット普及を図るには、国内事業者の物流担当者だけではなく、経営層の方々にもパレットに関する認識を深めていただく必要があります。

また、より多くの事業者の方々や一般の方々に利活用後の空パレットの回収に協力していただくには、社会全体の認知向上が必須となります。単なる販売促進のための PR ではなく、日本社会におけるパレットの認知向上を目指しております。

●「2024 年問題」などの物流危機への対応

トラックドライバーの年間残業規制や少子高齢化による労働力不足に対応するには物流現場における作業の効率化が必要であり、一つのパレットで貨物を最終目的地まで運ぶ「パレット一貫輸送」を推進しています。

また物流の結節点で手作業が発生しないような提案も行っています。

●グローバル化への対応

国際物流でも当然ながらパレットが利活用されています。昨今、世界各国で様々な経済連携（協定）がなされており、自由貿易の流れがより強く認識できるようになりました。我が国を含むアジア地域においてもその傾向は同様です。

21 世紀はアジアの世紀（人口や GDP の世界シェアが世紀半ばに 50％前後に達する）とも言われており、貿易量の増加に伴う物流やパレットに関する取組みも活発になっていることから、そうした領域における日本のプレゼンスを維持するため、パレットに関する会議体等を通して、積極的な活動を展開しています。

●社会貢献、環境保全

世界では、国連気候変動枠組み条約締約国会議（直近：2023 年 11 月開催／COP28）の継続の成果として、持続可能な社会への大転換のチャレンジが始まりました。国内の事業者においても、SDGs や ESG というキーワードを意識した活動が活発になっていますが、パレットの確実な回収と循環利用は資源の有効活用と環境保全に繋がるとともに、持続可能な物流の実現にも貢献します。

⊙活動詳細①　パレット標準化

●パレット標準化推進分科会

2024 年 6 月、官民物流標準化懇談会の分科会最終とりまとめとして、2030 年に向けた目標数値を発表し、官民連携にて標準化を推進しています。

● JIS（日本産業規格）の制定

循環型社会を目指すため「容器包装リサイクル材を用いたプラスチック製平パレット」の JIS を制定（2017 年）。

⊙活動詳細②　パレットの認知向上

●パレットの日、記念 web 講演会

パレット輸送における標準パレットとなっている 11 型と 12 型（JIS Z 0650 ユニットロードシステム通則等）から〈11 月 12 日〉をパレットの日として、日本記念日協会に申請、2020 年 10 月に正式に記念日として認定されました。

2022 年より「パレットの日」の直前の平日午後、web 講演会を催しています。

●物流 2024 年問題対策への対策相談室

荷主系企業や一般の方々にも広く物流課題を知っていただき、解決を図るため、当協会 HP では「対策相談室」を 2023 年 11 月から開設しました。できる限り幅広く対応しますのでどうぞご連絡ください。

●お子様向け活動

従来から小学校等で物流やパレットについて知る機会を提供するため、教科書掲載に向けた活動や、子ども向けイベントにも積極的に参加をしてきました。また HP には「パレットキッズページ」を設け、お子様にもパレットに親しんでいただくように努めております。

⊙活動詳細③　グローバル化への対応

● APSF／アジアパレットシステム連盟

APSF（Asia Pallet System Federation）は、アジア地域におけるパレットの利活用促進とその標準化（共通化）を目的として、2006 年に設立し現在、日本、中国、韓国、ベトナム、タイ、ミャンマー、フィリピン、マレーシア、インドネシア、インドの 10 カ国が加盟しています。その成果として、この地域における共通のパレットサイズを 1100×1100mm：11 型 1200×1000mm：12 型の 2 種類としました。利活用を域内で加速させるため、2030 年までの活動ロードマップを加盟各国が策定し、毎年総会の場でその進捗を確認しています。

●中国での国際パレット会議に参加し、各国間連携の重要性を訴え

中国では毎年、開催都市を変えてパレットに関わる企業家が 500 名規模で集まり、最新事情や情報を交換しています。会議には欧州やアジアからの参加もあり、当協会も毎年参加し民間レベルでの交流と意見交換を進めています。

⊙活動詳細　社会貢献・環境貢献

●日本ストリートサッカー協会との提携

欧州生まれの「ストリートサッカー」は直径 5 メートルのコートで競う競技で、新たなスポーツとして日本で普及しつつありますが、悩みは欧州から輸入する囲い器材のコストでした。

当協会では国内の間伐材や植林木材を使い会員企業が製作、環境に優しく安全で軽い「パレットパナケージ」を提供することで普及に一役買っています。

●地域イベントに協力

2024 年 10 月から 11 月にかけて川崎市内各地で開催された「第 41 回全国都市緑化かわさきフェア」では約 5 千枚の木製パレットが展示物や大道具として使われ、多くの入場者に注目、活用されました。

一般社団法人日本物流システム機器協会（JIMH）

MH（マテリアルハンドリング）ニーズの実現、課題解決を推進

◉会長挨拶

私ども物流システム機器業界におきましては、近年，深刻化する労働力不足を背景にした自動化・省力化ニーズの高まりを受けより高度なソリューションを提供することに注力してまいりました。昨年４月を機にした「物流の 2024 年問題」に対しても物流革新の始まりの年と位置づけ、当業界各社は今後も生産性向上を一段と高めるソリューションの開発・提案にスピード感を持って取り組んでまいります。また、単に人に代わるシステム機器を納入するというだけでなく、ロボティクス・AI などの先端技術をより多くのシステム機器に取り入れて、付加価値の高いソリューションを継続的に提供していきたいと考えております。

物流システム機器（マテリアルハンドリング）は元来、重労働や単純反復作業を解消・軽減し、人がより創造的に暮らしていくための一助となる工夫や技術だと捉えています。これを原点としながら，社会環境が大きく変化し、物流が社会インフラとして位置付けられるようになり、その現場で機能する物流システム機器は社会を支えるという大きな使命を担っていると思います。

当協会は、物流システム機器の提供を担う各社が事業を通じてその使命を果たすことに加えて、持続可能な社会の実現に向けて、さらには産業界・物流業界の発展に貢献できるよう、各種活動を進めて行きたいと考えています。同時に、物流システム機器事業に携わる人々が常に夢を持ち、挑戦を続け、社会に貢献する喜びを感じていただければと願っております。

日本物流システム機器協会
会長　下代 博

◉活動方針

JIMH では、行政、各関連団体やマテリアルハンドリング（MH）の現場に精通している物流システム機器・部品メーカーと連携しながら、社会や産業界の MH に対する様々なニーズの実現や課題解決に向けて、３つの活動方針を掲げ積極的に取り組んでまいります。

生産・物流現場の省力化・自動化

物流現場では、少子高齢化による人手不足や市場ニーズへの対応に伴う現場オペレーションの高度化・効率化など、様々な課題に直面しています。

JIMH では、人と機械の融合を考慮し。「IoT」「Industry4.0」「ロボット革命」等の最新技術の情報収集・かつようにより、生産・物流現場の作業負荷軽減や労働人号の変化、市場ニーズの多様化等に柔軟に対応できる物流システム機器の供給に努めてまいります。

環境負荷軽減を重視したMH システム

環境負荷の軽減や循環型社会の実現に向けてあらゆる産業界が努力しています。MH 業界においても環境に配慮した取り組みが急務となっており、省エネ設備の普及促進も大きなテーマとなっています。JIMH は、これまで蓄積した MH 技術を活用し、環境を重視したシステムやソリューションを提案していきます。

グローバル化に向けた業務連携と標準化

日本、米国、欧州および中国との 4 極交流会(WMHA) を中心として、今後 ASEAN 諸国に向けた MH 市場の創造と拡大のための協会活動に注力いたします。そのためには会員企業はもちろんのこと、行政をはじめ関連団体との連携・協調により、自由競争を大前提にしながらもお互いに切磋琢磨し、さらなる技術革新と標準化を推進していきます。

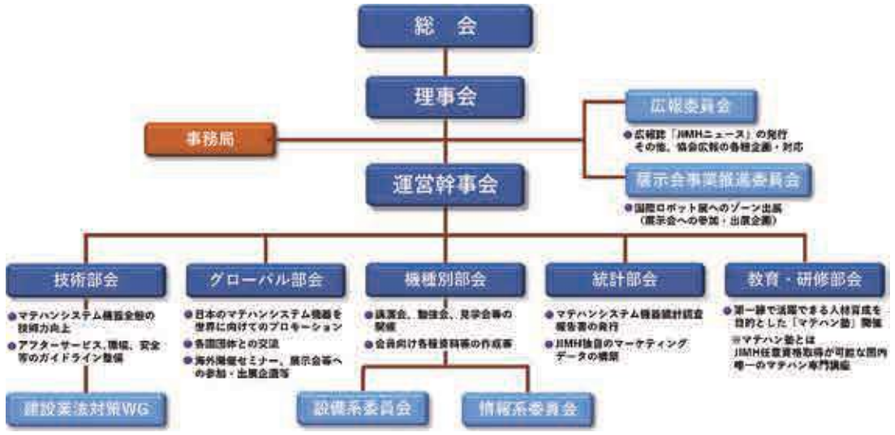
協会トップ

協会紹介 Movie

組織図

役員一覧

◉組織図



◉主な活動

●会員交流

講演会・勉強会・新年賀詞交歓会等懇親会の開催

JIMH では、各種講演会・勉強会・工場見学や行政事業説明会などのセミナー、会員相互の親睦をはかる新年賀詞交歓会、総会後懇親会などを開催しています。

●国際交流

日本・米国・EU・中国による４極会議（WMHA）を開催

JIMH の提案により、世界中の代表的な物流システム機器団体が一堂に会する「4極会議」を発足。マーケット、技術、規則／規格などの情報交換や交流を定期的に行っています。

●機種別委員会

設備系・情報系委員会を開催

機種毎に抱える問題点や課題を抽出し、技術向上・標準化、指針の整備や、勉強会、見学会等も企画・開催しています。

●統計調査事業

マテハン機器出荷統計の調査

物流関連機器の出荷統計「物流システム機器生産出荷統計」や「マテハンシステム機器生産・出荷統計」等の統計調査活動を実施しています。

●展示会事業

国際物流総合展、国際ロボット展への出展

アジア最大級、国内唯一の物流・ロジスティクス専門展示会「国際物流総合展」の主催団体として、また国際ロボット展では併催企画としてゾーン出展をさせていただくなど幅広く活動しています。

●教育・研修事業

マテハン塾の企画・開催

マテハン機能をフル活用した物流センターの企画・構築・提案ができる人材育成のため「マテハン塾」を開催しています。

●省庁補助事業

中小企業省力化投資補助事業への取組み

「マテハン機器」に関する製品登録申請について、当協会が申請・承認を受けた「製品カテゴリ」に適合する製品であり、且つ「省力化」の基準を満たす製品か否かの確認・審査を実施。適格と判断された製品について「証明書」を発行いたします。

一般社団法人日本物流システム機器協会　東京都中央区八丁堀 3-3-2 スギコビル２階 〒104-0032　Tel 03-6222-2001　Fax 03-6222-2005　https://www.jimh.or.jp/

物流不動産協同組合

中継輸送シェアリング・プラットフォーム「シェア・クロス」

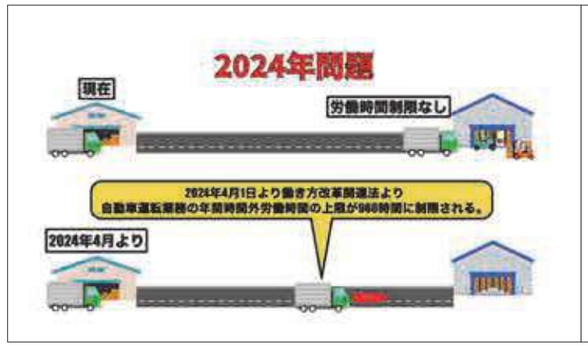
生産拠点のグローバル化と物流コスト圧縮傾向により、国内の物流事業者の前途は暗く、高度情報化社会に対応した経営の合理化も遅れがちであり、効率追究の限界を余儀なくされています。物流ニーズの多様化は、個社では解決できない大きな課題となっています。厳しい経営環境下にある物流会社６社は、1999 年（平成 11 年）より新たなビジネスの切り口を求めて研究を続けてまいりました。
各社のノウハウを結実させ、固有の物流ファンクション（機能と資産）を一つの窓口で自由に利用できるしくみ＝ブランチデポ事業を開発。IT を利用した複数倉庫一元管理、単一伝票を利用した輸配送手配、ネットを使っての物流情報照会と指図登録、物流不動産情報検索などの総合物流サービスを提供するとともに、大手総合物流事業者にも匹敵するサービスを目指し、24 時間・365 日でローコスト運営できる体制をより強固なものとするため、2002 年（平成 14 年）８月に、協同組合に改組するに至りました。６社の物流サービス共同受注事業を中心に、研究開発、教育情報、福利厚生等の各種事業を行いながら、多様化する物流ニーズ の提供と組合員企業の経営合理化と効率の促進を図ってまいります。

物流不動産協同組合
代表理事　大谷　巌一

物流不動産協同組合
賛助会会長　鈴木　清

⊙「シェア・クロス」とは？

「物流 2024 年問題」を筆頭に、運送ビジネスはより生産性を高め、効率的に運用することを求められています。荷役時間の削減、荷待ち時間の削減、共同配送などと並び、この物流クライシスを乗り越える具体的な方策として期待されているのが「中継輸送」です。
中継輸送とは、１つの行程を複数人のドライバーで分担する輸送方式です。集荷エリアと納品エリアの中間地点に「中継拠点」を置くことで輸送をシェアします。長距離輸送を分担することで一人のドライバーが輸送する距離が削減されるため、ドライバーの日帰り勤務を実現できます。ドライバーの労働負荷や拘束時間が低減されることから、時間外労働の上限規制が適用されることで生じる 2024 年問題、女性や高年齢層が働きやすい労働環境の実現を目指すホワイト物流のソリューションとしても注目されています。



中継輸送の実現にはいくつかハードルがあります。
「どこで貨物を積み替えるか」「誰と中継輸送を行うのか」「どうやって貨物の積替を行うのか」
これら中継輸送にかかる課題をワンストップで解決するソリューションサービスがシェア・クロスです。首都圏を中心に、サービス拠点を全国へとエリア拡充中です。中継輸送場所の設定、パートナーの選定、荷役方法など、中継輸送に関する検討事項は多岐にわたりますが、輸送車両の手配はもちろん、自社車両での積替を行うことも可能です。

⊙シェア・クロス事例

① トレーラーから 4t 車への積み替え

東北から都内への建材の輸送案件で、「トレーラーから 4t 車への積み替え作業」と「一部建材の仮保管納品先の建設現場は 4t 平トラックの納品指定」の条件がありました。東北から中継拠点までトレーラーで一時輸送をして、秋元運輸倉庫（東京都港区）で積み替え作業を行いました。

②納品先で大型トラックが NG のため、2t トラックで輸送

この案件では、大型トラックで輸送を行う予定でしたが、着地点で大型トラックが入れないことが判明しました。そこで 4t トラック２台を手配した上で、積み替え作業も実施しました。

③ 2t トラックへの積み替え

発地（新潟県）から大型トラックで貨物を輸送したものの、荷下ろし先の道路が狭隘のため、シェア・クロスで 2t 平トラックへ積み替え作業を行いました。

④平ボディトラックへの積み替え

発地（岩手県）から東京都内まではウィング車で輸送しましたが、着地での荷下ろしし作業はクレーンで行うため、ウィング車では対応できず、平ボディトラックの手配と積み替え作業を承りました。

その他 2024 年問題対策として、雑貨メーカー（東海地方）から関東全域までの中継輸送のご依頼のほか、福島から東京都内のショッピングモールに納入する事業者からは「貨物仮置きと夜間配送をお願いしたい」というご相談をいただき、都内での貨物仮置き・配送先別の仕分け作業・ショッピングモールへの配送業務を実施するなど、事例は多数あります。中継輸送を行う際には、ぜひクロス・シェアをご活用ください。

●拠点は全国に拡大中！

- **東京都**
  - 秋元運輸倉庫株式会社
  - 東運ウェアハウス株式会社
  - 石川運輸倉庫株式会社
  - 丸武運輸株式会社
  - 鈴与シンワ物流株式会社
- **神奈川県**
  - 置田運輸株式会社
- **埼玉県**
  - 株式会社東配
  - 昭和倉庫株式会社
  - 有限会社カントラ
  - 佐志田倉庫株式会社
- **千葉県**
  - 株式会社東京ロジネッツ
  - 西部トランスポート株式会社
- **群馬県**
  - 有限会社舘林運輸
- **茨城県**
  - 株式会社筑波倉庫
- **山形県**
  - 株式会社ティスコ運輸
- **宮城県**
  - 伊達貨物運送株式会社
  - 株式会社樋口物流サービス
- **静岡県**
  - カトーレック株式会社
- **石川県**
  - 小前田運輸株式会社

物流不動産協同組合　〒105-0023 東京都港区芝浦１丁目 13 番 10 号　TEL 03-5439-9500　https://www.net-e.org/

掲載企業・団体索引 50音順

あ

アイオイ・システム 15 48 90 92 94 96

IHI物流産業システム 5 47 84

伊東電機 88

SGムービング 130

NXキャリアロード 68

NX商事 7 128

NX総合研究所 6 64

NXホールディングス 表4 28

大塚商会 62

オカムラ 1 49 80 82

押入れ産業 66

か

環境優良車普及機構 8

キユーソー流通システム 13

Gaussy 50

GROUND 51

交通エコロジー・モビリティ財団 144

国際フレイトフォワーダーズ協会 142

さ

サーラ物流 109

佐川急便 表2

Sustainable Shared Transport（SST） 32

シーネット 17 98

シャープ 86

Gライン 42 44

スペース 108

住友電工システムソリューション 106

センコーグループホールディングス 2 58 60

全国通運連盟 138

全日本トラック協会 9

た

ダイフク 52 72 74 76 78 表3

ダイフクプラスモア 124

データ・テック 104

鉄道貨物協会 140

トーヨーカネツ 11

豊田自動織機 TOYOTA L&F カンパニー 122

トラボックス 114

な

日本通運 126

日本パレットプール 4 116

日本貨物運送協同組合連合会 110

日本3PL協会 146

日本パレット協会 148

日本パレットレンタル 12 112

日本物流システム機器協会 150

日本物流団体連合会 134

日本ロジスティクスシステム協会 136

は

ハイウェイテックジャパン 16 70

フィジカルインターネットセンター 22

富士通 32

物流不動産協同組合 152

ま

三井不動産 53

三菱ロジスネクスト 3 120

Mujin 54

や

矢崎エナジーシステム 10 102

ヤマト運輸 18

ヤマトホールディングス 32

ユーピーアール 14 55 118

ら

レックス 40

ロジザード 100

2025年3月7日　発行

定　価　1,500 円（内 消費税額136円）

発　行　運輸新聞株式会社
東京都荒川区西日暮里3-6-10 佐々木ビル3F 〒116-0013
TEL 03-5685-0035　FAX 03-5685-0038
inquiry@unyu.co.jp　https://www.unyu.co.jp

発行人　野口　香織
編集人　野田　裕之

印　刷　株式会社 厚　徳　社

ロジガイ2025

ダイフクは工場や物流センターにおいて最新の自動倉庫や無人搬送車システムを提供。
さらにAIやロボット技術を駆使して、柔軟で効率的なスマートロジスティクスを実現します。
少子高齢化で深刻化する人手不足の課題に対して、人が、より創造的な仕事ができるように、
未来を見据えた完全無人化システムの提供に挑戦し続けます。

DAIFUKU
Automation that Inspires
株式会社ダイフク

Anything to Anywhere

From semiconductors to museum pieces, when it comes to the most precious objects in the world, we've seen (and delivered) it all. Through precision, creativity and thoughtful execution, we find the best way to make the impossible, possible.

Mastered in Japan, leading global logistics.

NIPPON EXPRESS

We Find the Way